

PHILIPS

Signage Display

5000 Series

65BDL5050D



ユーザーマニュアル (日本語)

www.philips.co.jp/p-m-pr/signage-solutions

目次

1. 安全上の注意	1	10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義	62
2. 開梱および設置	4	10.3. 明るいドット欠陥	62
2.1. 開梱	4	10.4. 暗いドット欠陥	63
2.2. 梱包箱に含まれているもの	7	10.5. 画素欠陥の近接	63
2.3. 設置に関する注意事項	7	10.6. 画素欠陥の許容範囲	63
2.4. 壁に取り付ける	8	10.7. MURA	63
2.5. 縦長向きでの設置	9	11. 清掃とトラブルシューティング	64
3. 各部の機能	10	11.1. 清掃	64
3.1. コントロールパネル	10	11.2. トラブルシューティング	65
3.2. 入力 / 出力端子	11	12. 技術仕様	66
3.3. リモコンに乾電池を挿入する	12		
3.4. リモコンの取り扱い	12		
3.5. リモコンの動作範囲	12		
3.6. リモコン	13		
3.7. AC スイッチカバー	17		
4. 外部機器を接続する	18		
4.1. 外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー) ..	18		
4.2. PC の接続	18		
4.3. オーディオ機器の接続	19		
4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接 続する	19		
4.5. IR 接続	20		
4.6. IR パススルー接続	20		
5. 操作	21		
5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する	21		
5.2. 画像形式を変更します	21		
5.3. 概要	21		
5.4. メディアプレーヤー	23		
5.5. ブラウザー	26		
5.6. PDF リーダー	30		
5.7. カスタムアプリ	33		
6. 設定	34		
6.1. 設定	34		
6.2. 補足	48		
7. OSD メニュー	50		
7.1. OSD メニューをナビゲートする	50		
7.2. OSD メニューの概要	50		
7.3. Android 設定	57		
8. 対応するメディア形式	58		
9. 入力モード	60		
10. 画素欠陥ポリシー	62		
10.1. 画素とサブ画素	62		

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電氣的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。

このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

操作時：

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたりアイボルトを使用し続けたいことを推奨します。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。

メンテナンス：

- ディスプレイを損傷するおそれがあるため、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを移動する際は、必ずフレームを持って持ち上げてください。LCD パネルに手や指を当ててディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。

環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	°C
動作温度	0	40	°C
ガラス面温度（動作時）	0	65	°C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要：ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られ

る「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告:「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス:

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかり固定してください。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。



- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。電源をオフにしているとき、画面を乾いた布で拭くことができます。ただし、アルコール、溶剤、またはアンモニアベースの液体は絶対に使用しないでください。
- 本書の指示に従っているときにディスプレイが正常に作動しない場合、修理スタッフにお問い合わせください。
- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。
- 電源ケーブルや DC 電源コードを取り外してディスプレイの電源をオフにする場合は、6 秒間待ってから電源ケーブルや DC 電源コードを再接続し、通常操作を行ってください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 重要:ディスプレイを使用しない場合は、常にスクリーンセーバーを有効にしてください。コントラストの高い静止画像を長時間表示した場合、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる焼き付きが発生する可能性があります。これは LCD パネル技術においてよく知られた現象であり、その原因は LCD 技術に内在する特性に起因します。ほとんどの場合、電源をオフにすることで、焼き付き、残像、ゴースト像は時間とともに徐々に消失します。ただし、これらの症状は修理不可能であり、保証の対象外となることにご注意ください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地 (アース) された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このような場合、使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

VCCI-A

<アプリのインストールについての注意事項>

- アプリのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。
- ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。
- 万が一、お客様がインストールを行ったアプリなどにより各種動作不良が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となります。
- お客様がインストールを行ったアプリなどにより自己または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。
- アプリによっては、自動的にパケット通信を行うものがあります。パケット通信は、切断するかタイムアウトにならない限り、接続されたままです。
- アプリによっては、自動的にアップデートが実行される場合があります。
- Android OS のバージョンダウンもバージョンアップも行わないで下さい。
- Android OS のバージョンに合わせたアプリをインストールしてください。

粗分類	化学物質表					
	Pb	Hg	Cd	Cr6+	PBBs	PBDEs
前面ベゼル	○	○	○	○	○	○
背面カバー	○	○	○	○	○	○
パネル	除外項目	○	○	○	○	○
LCD ディスプレイ	WLED	除外項目	○	○	○	○
	CCFL	除外項目	除外項目	○	○	○
PCBA*	除外項目	○	○	○	○	○
ケーブル & ワイヤ	除外項目	○	○	○	○	○
リモコン	除外項目	○	○	○	○	○

*:PCBA はベア印刷回路基板で構成され、はんだ付けされた抵抗器、コンデンサ、アレー、コネクタ、チップなどの表面実装部品を含みます。

注1:「○」は、算出された物質の含有率が基準含有率を超えていないことを示します。

注2:「除外項目」とは、特定の化学物質が JIS C 0950:2021 の規定に基づき除外対象とされている項目を意味します。

JIS C 0950: 2021

2. 開梱および設置

2.1. 開梱

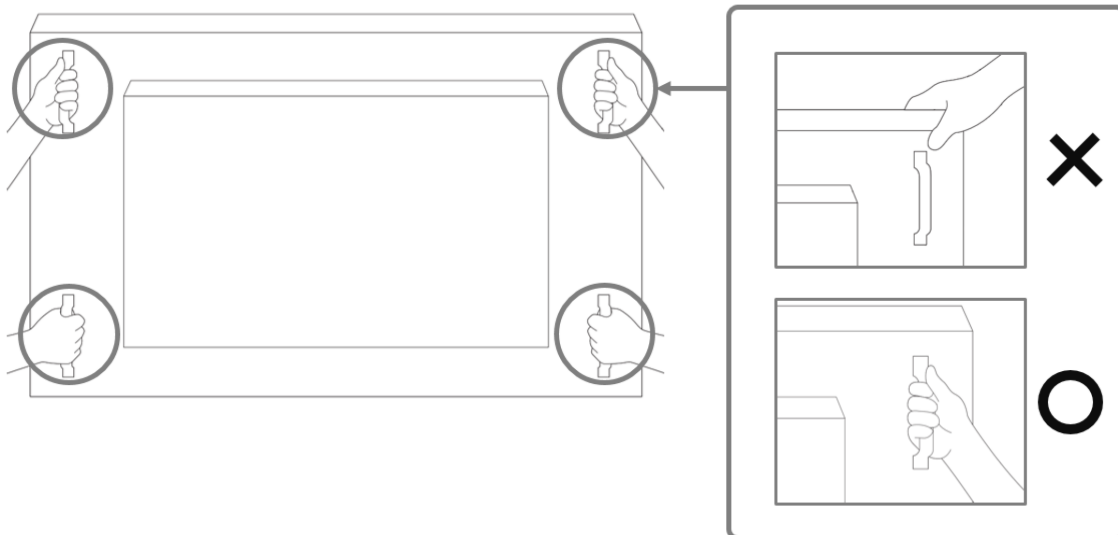
- 本製品は段ボール箱に標準付属品とともに梱包されています。
- その他のオプション付属品は別途梱包されています。
- 本製品は高く重いので、移動する際には2人の技術者が作業を行うことを推奨します。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認ください

■ 開梱する前に

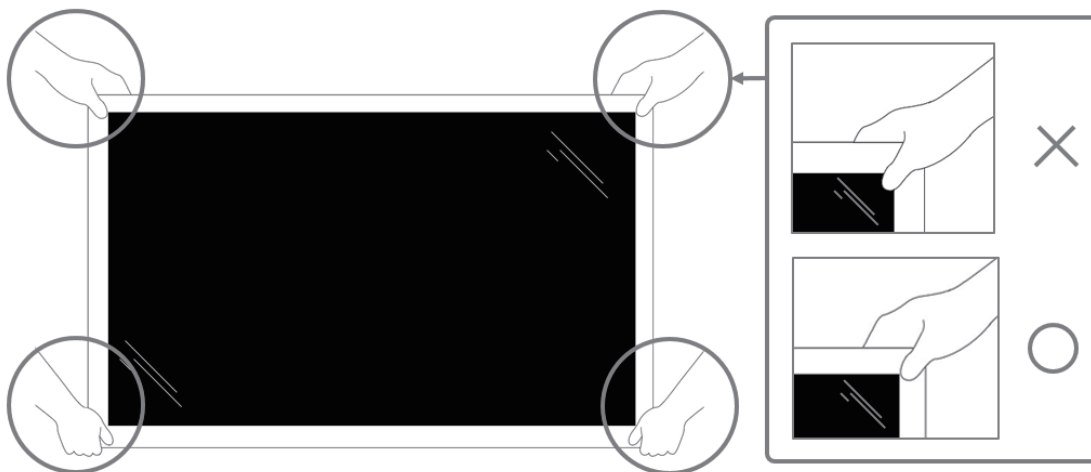
- 設置前に、開梱に関する注意事項をよく読み、十分に理解してください。
- 包を確認し、きしみ、へこみ等の異常がないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■ 通知

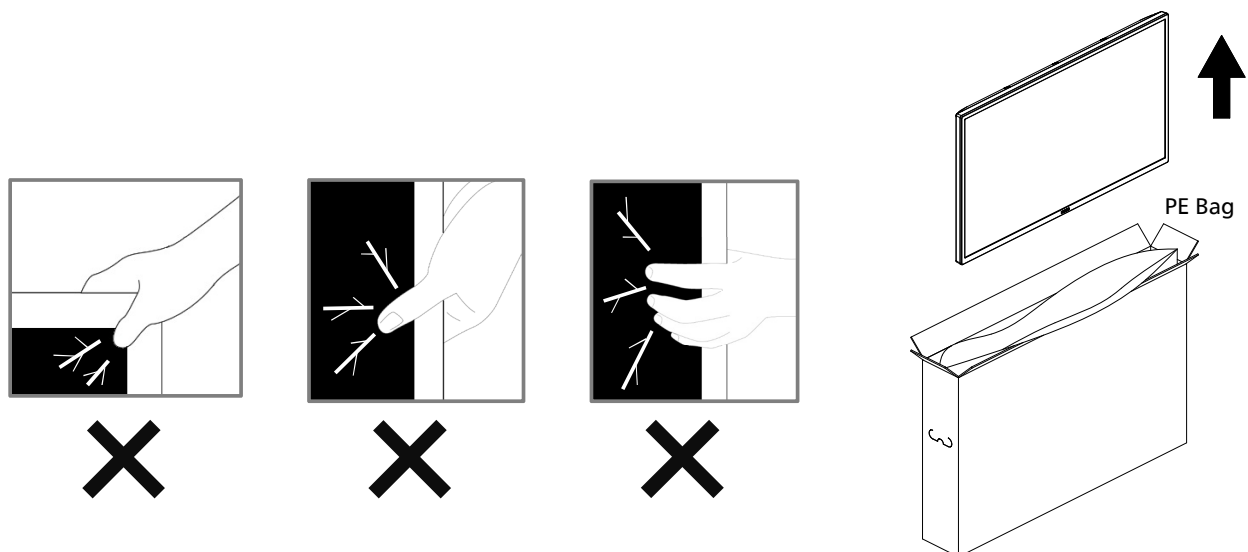
- ハンドル付きディスプレイの場合：
 - 大人2人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイを移動するときは、ハンドルを持ってください。



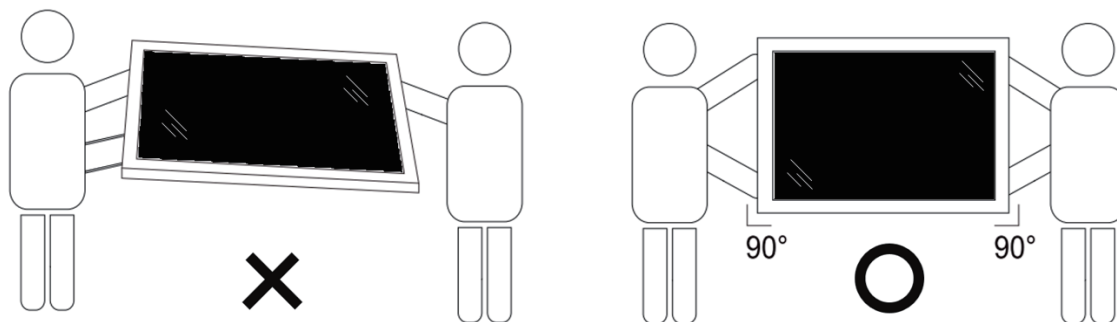
- ハンドルなしディスプレイの場合：
 - 大人2人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイのガラスをつかんだり触れたりしないようにしてください。
 - ディスプレイのベゼル面（プラスチックまたは金属の部分）をつかむようにしてください。



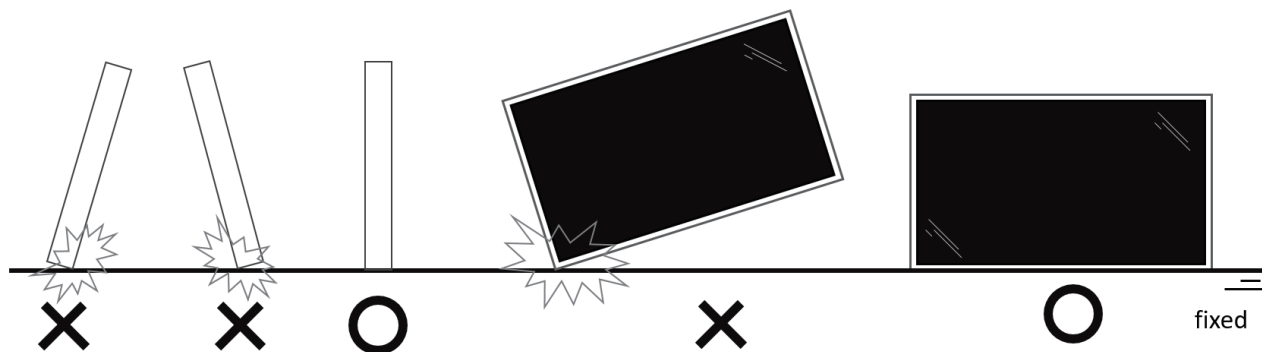
- 箱からディスプレイを取り出す際、保護バッグを内部に残し、損傷さないようディスプレイのガラス面に触れないように注意してください。



- ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。

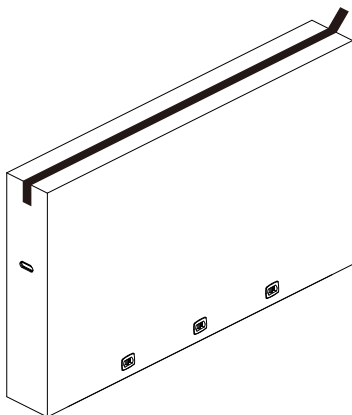


- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。

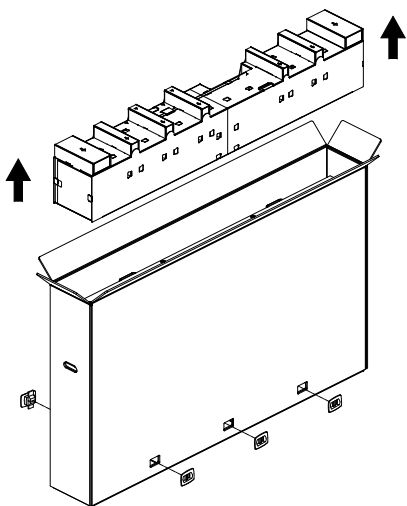


■ 開梱プロセス

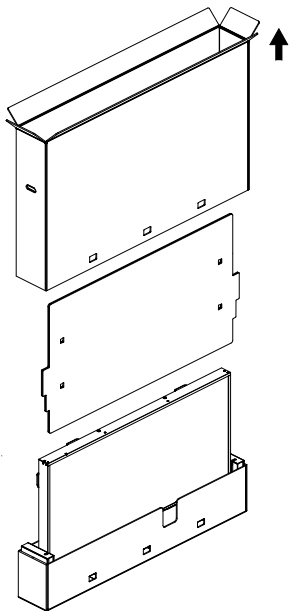
1. テープを外します。



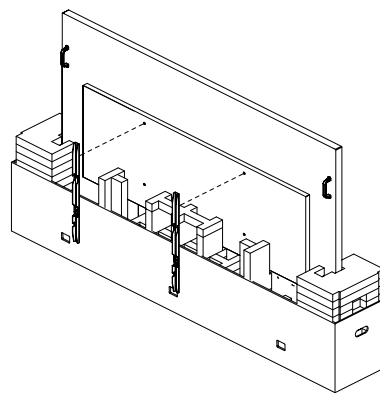
2. すべてのアクセサリと上部クッションを梱包の上部開口部から取り外します。



3. 段ボールを廃棄し、梱包袋を開けてください。



4. ディスプレイが底部クッションに入っている間に、壁取り付けキット(*)を取り付けます。(* 別途購入が必要です)

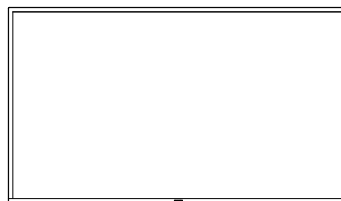


* 開梱および設置の際には、65 インチモデルについては専門作業員を2名以上配置することを推奨します。

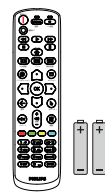
2.2. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

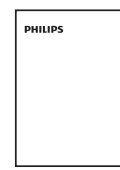
- LCD ディスプレイ
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- クイックスタートガイド
- 電源ケーブル
- RS232 ケーブル
- RS232 デイジーチェーンケーブル
- IR センサーケーブル
- ダイポールアンテナ×2 個
- AC スイッチカバー
- フィリップスロゴ
- HDMI ケーブル
- ケーブル留め×2 個
- CRD32 Wi-Fi モジュール (すでに製品にインストールされています)



LCD ディスプレイ



リモコンとリモコン用単4乾電池



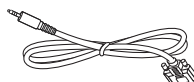
保証書



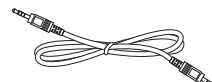
クイックスタートガイド



電源ケーブル



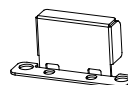
RS232 ケーブル



RS232 デイジーチェーンケーブル



IR センサーケーブル

ダイポールアンテナ
X 2 PCS

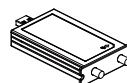
AC スイッチカバー



フィリップスロゴ



HDMI ケーブル

ケーブル留め
X 2 PCSCRD32 Wi-Fi モジュール
(すでに製品にインストールされています)

* 場所により、同梱品が異なる場合があります。

* ディスプレイデザインとアクセサリは、表示されている画像と異なる場合があります。

注記：

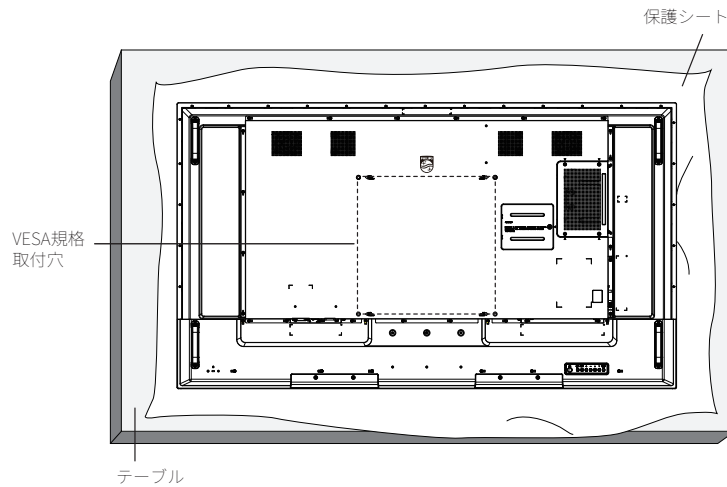
- 他の地域の場合は、その地域のコンセントの AC 電圧と一致し、その国の安全規定で承認されている適合する電源コードを使用してください。(H05W-F タイプ、2G または 3G、0.75 または 1mm² を使用します)。
- 製品を開梱した後は、梱包材を適切に保管してください。

2.3. 設置に関する注意事項

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 5000m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット（市販品）が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



1. ディスプレイよりも大きい平らで水平な面を用意し、その上に厚い保護シートを広げて、画面を傷つけずに操作できるようにしてください。
2. すべてのタイプの取り付け（壁掛け、天上取り付け、テーブルスタンドなど）に対応するアクセサリがあることを確認してください。
3. 壁取り付けキットに同梱の説明書をよくお読みください。取り付け手順を誤ると、機器が損傷したり、ユーザーまたは設置作業者が怪我をする恐れがあります。誤った取り付け方法により生じた損傷は、製品保証の対象外となります。
4. 壁取り付けキットには、M8 取り付けねじ（取り付けブラケットの厚さより 15 mm 以上長いもの）を使用し、しっかりと締め付けてください。

2.4.1. VESA 規格取付穴

65BDL5050D	400 (横) x 400 (縦) mm
------------	----------------------

注意:

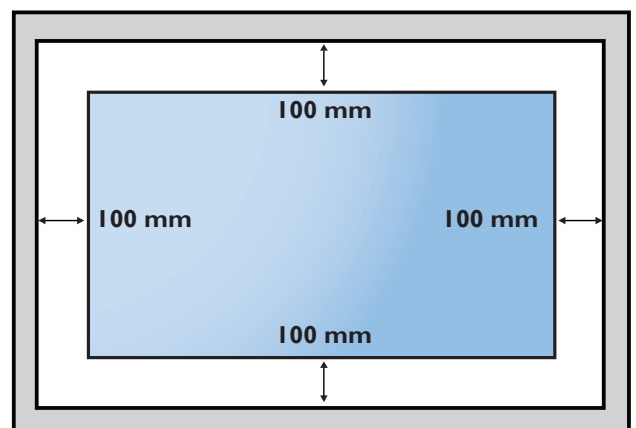
ディスプレイの落下を防止するため:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付ける位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、設置は 4 人の技術者が行うようにしてください。

換気のために必要なスペース

換気のために、上部、背面、左右に 100mm のスペースを空けてください。

注記: ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

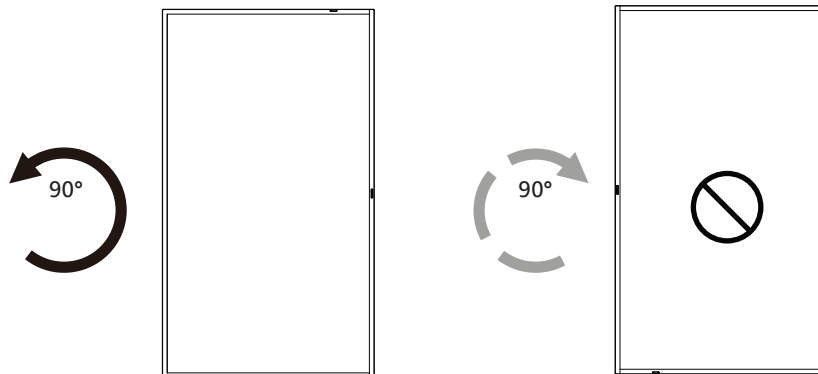


2.5. 縦長向きでの設置

本ディスプレイは、縦長向きに設置できます。

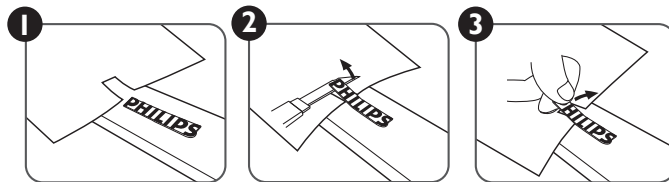
ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させてください。ディスプレイを正面から見たとき、「PHILIPS」ロゴが右側にくるようにしてください。

注記： ポートレートモードでの稼働時間は 1 日あたり 24 時間です。



2.5.1. ロゴプレートのはがし方

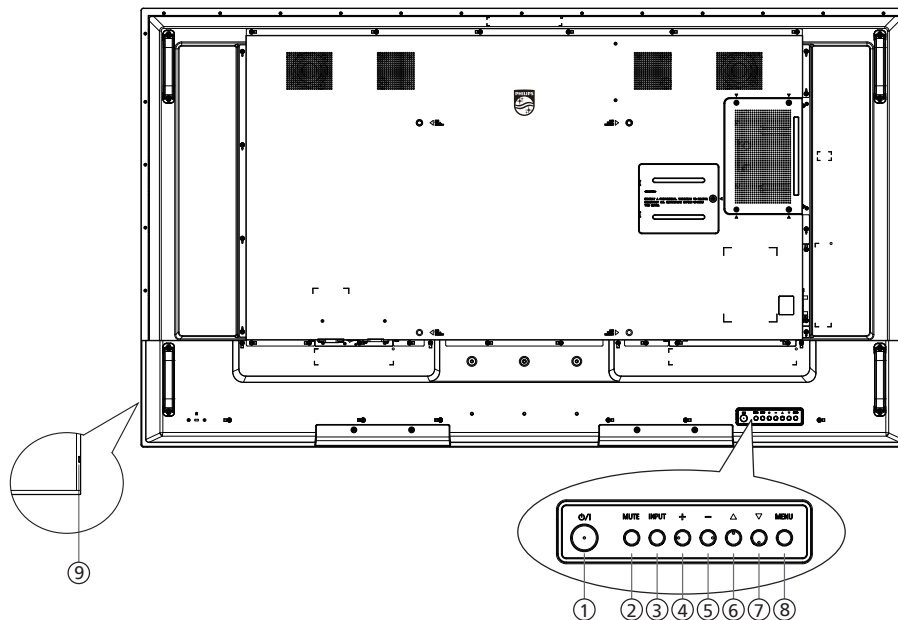
1. 前面ベゼルに傷がつかないように、ロゴ部分を切り抜いた紙を用意して当て紙として使用します。
2. ナイフを使用し、下に紙を敷いて慎重に
3. ロゴステッカーをはがしてください。



注記： ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

3. 各部の機能

3.1. コントロールパネル



① [O/I] ボタン

このボタンを押して、ディスプレイの電源を入れたり、スタンバイモードにしたりします。

② [MUTE] (消音) ボタン

このボタンを押して、音声をミュートしたり、復元したりします。

③ [入力] ボタン

入力ソースを選択します。

④ [+] ボタン

OSD メニューがオンのときには調整を上げ、OSD メニューがオフのときには音声出力レベルを上げます。

⑤ [-] ボタン

OSD メニューがオンのときには調整を下げ、OSD メニューがオフのときには音声出力レベルを下げます。

⑥ [▲] ボタン

OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ上げます。

⑦ [▼] ボタン

OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ下げます。

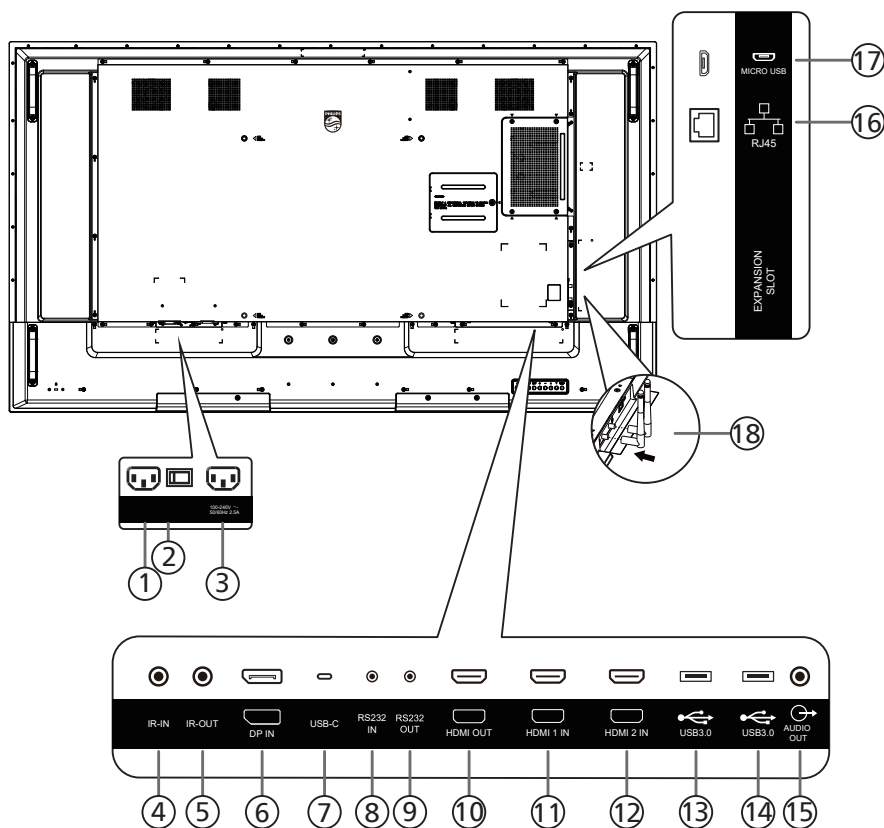
⑧ [MENU] (メニュー) ボタン

OSD メニューがオンのときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを有効にするためにも使用します。

⑨ リモコンセンサーと電源状態インジケーター

- リモコンからのコマンド信号を受信します。
 - 本ディスプレイの動作状態を表示します：
 - 本ディスプレイの電源がオンのときは緑色に点灯
 - 本ディスプレイがスタンバイモードのときは赤色に点灯します。
 - {スケジュール} が有効の場合は、緑色と赤色に点滅します。
 - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す。
 - 本製品の主電源がオフの場合消灯する。
- * リモコンの機能を向上させるため、IR センサーケーブル(オプション)を使用してください。(詳細については、20 に記載の説明書を参照してください。)

3.2. 入力 / 出力端子



① AC 入力

壁コンセントからの AC 電源入力。

② 主電源スイッチ

主電源のオン / オフを切り替える。

③ AC 出力

メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

④ IR 入力 / ⑤ IR 出力

ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

注記:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、ジャック [IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、ページ 20 に記載されている「IR バススルー接続」を参照してください。

⑥ DisplayPort 入力

DisplayPort ビデオ入力。

⑦ USB-C

ディスプレイ機能に対応します。

⑧ RS232 入力 / ⑨ RS232 出力

Android の RS232 ネットワーク入力 / 出力は、システムインテグレーターによるカスタムプロトコルの使用のために予約されています。

⑩ HDMI 出力

HDMI ビデオ / 音声入力 / 出力。

⑪ HDMI 1 入力

HDMI ケーブルでソース機器に接続してください。

⑫ HDMI2 入力

HDMI ケーブルでソース機器に接続してください。

⑬ USB 3.0

USB ストレージデバイスを接続してください(このポートのみ、スクリーン SW ファームウェアの更新をサポートしています)。

⑭ USB 3.0

USB ストレージデバイスを接続してください。

⑮ AUDIO OUT

外部 AV デバイスへの音声出力。

⑯ RJ-45

LAN 制御機能は、コントロールセンターからリモコン信号を送信するために使用されます。

⑰ マイクロ USB

ADB のデータ伝送と OTG に対応します。

⑱ Wi-Fi アンテナ

Wi-Fi 機能を正常に動作させるため、ディスプレイの使用を開始する前に付属のアンテナを取り付けてください。

3.3. リモコンに乾電池を挿入する

リモコンは 2 本の 1.5V 単 4 乾電池で作動します。

乾電池を取り付ける、または交換する：

1. カバーを押してスライドさせ、開いてください。
2. 正しい極性 (+) および (-) で乾電池を挿入してください。
3. カバーを元に戻してください。

注意：

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください：

- 正しい極性 (+ と -) で単 4 乾電池を挿入してください。
- 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。そうしないと、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなったりする可能性があります。
- 乾電池収納部での液漏れを防ぐため、消耗した乾電池は直に取り外してください。露出した電解液に触れないでください。皮膚に接触すると、けがをする可能性があります。
- バッテリーを火や高温のオープンに廃棄したり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります。バッテリーを非常に高温の周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。バッテリーを非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注記：長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

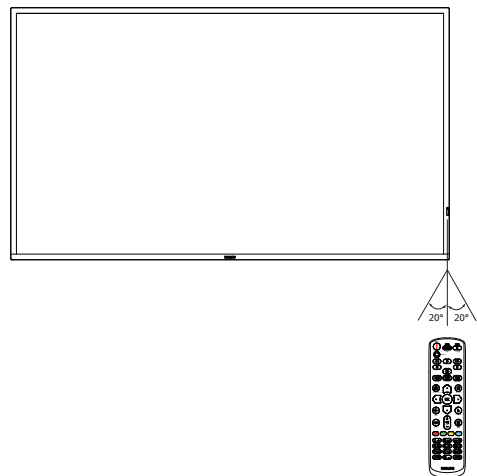
3.4. リモコンの取り扱い

- リモコンを落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコン内部に液体が入らないようにしてください。万一リモコンに水が入った場合は、直ちに乾いた布で拭き取ってください。
- 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- リモコンに乾電池を挿入する場合を除き、リモコンを分解しないでください。

3.5. リモコンの動作範囲

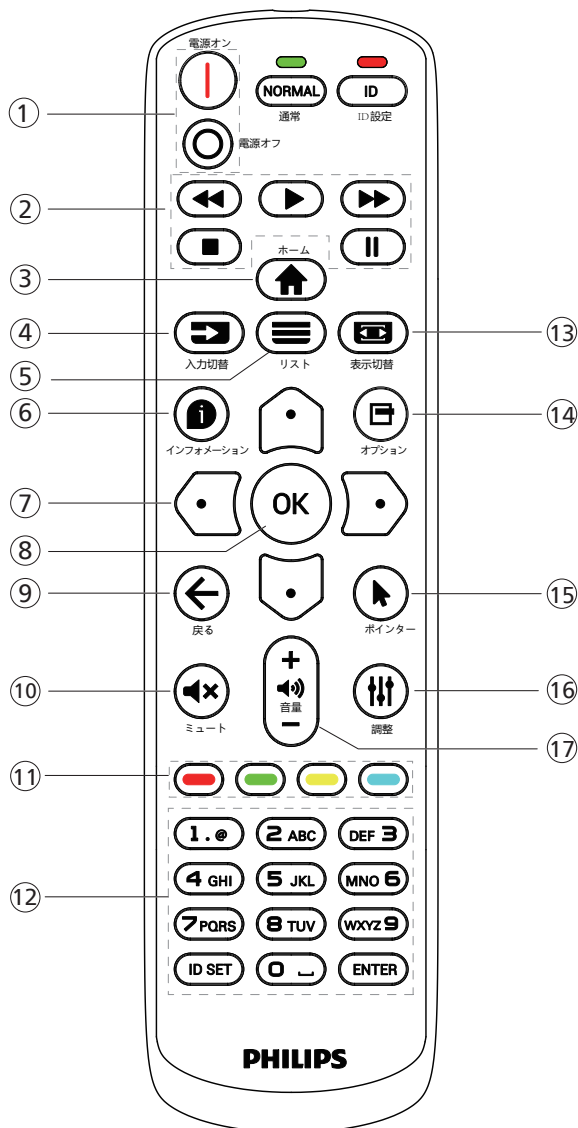
ボタンを押すときに、リモコンの前面上部をディスプレイのリモートセンサーに向けてください。ディスプレイのセンサーから 4 m (16 ft) 以内の距離、かつ水平方向および垂直方向とも 20°未満の角度の範囲内でリモコンを使用してください。

注記：ディスプレイのリモコンセンサーに直射日光や強い照明が当たっていたり、またはリモコンとディスプレイのリモートセンサーの間に障害物がある場合は、リモコンが適切に作動しないことがあります。



3.6. リモコン

3.6.1. 一般の機能



① [I/O] 電源ボタン

- [I] 電源をオンにします。
- [O] 電源をオフにします。

② [PLAY] ボタン

- メディアファイルの再生を操作します。(メディア入力の場合のみ)
- フリーズ機能
- 一時停止:すべての入力コンテンツをフリーズするためのホットキー。
- 再生:すべての入力コンテンツのフリーズを解除するホットキーです。

③ [↑] ホームボタン

- ルートメニュー:OSD メニューにアクセスします。
- その他:OSD メニューを終了します。

④ [→] ソースボタン

- ルートメニュー:入力ソースを選択します。

⑤ [≡] リストボタン

- 予約済み。

⑥ [i] インフォメーションボタン

- インフォメーション OSD を表示します。

⑦ ナビゲーションボタン

[↑]

- ルートメニュー:スマートピクチャーの OSD に移動します。
- メインメニュー:選択した項目を上に移動して調整します。
- IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を増やします。

[↓]

- ルートメニュー:音質設定ソースの OSD に移動します。
- メインメニュー:選択した項目を下に移動して調整します。
- IR デイジーチェーンメニュー:操作するグループ ID 番号を減らします。

[←]

- メインメニュー:メニューの前のレベルに移動します。
- ソースメニュー:ソースメニューを終了します。

- 音量メニュー:音量を小さくします。

[→]

- メインメニュー:メニューの次のレベルに移動するか、選択したオプションを設定します。

- ソースメニュー:選択したソースに移動します。

- 音量メニュー:音量を大きくします。

⑧ [OK] ボタン

- ルートメニュー:Primary(プライマリ)/Secondary(セカンダリ)モードの IR デイジーチェーンの OSD に移動します。

- メインメニュー:入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

- 前のページに戻るか、直前の機能を終了します。

⑩ [M] 消音ボタン

- 音声を消音したり、消音解除したりします。

⑪ [●][●][●][●] 色ボタン

- [●] バックライトをオンおよびオフに切り替えるためのホットキー。

⑫ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

- ネットワーク設定の際にテキストを入力します。
- ディスプレイ ID を設定するには押してください。詳細については、3.6.2. リモコン ID

⑬ [ZOOM] 形式ボタン

- 画像ズームモードを選択します。

⑭ [OK] オプションボタン

- 予約済み。

⑮ [POINT] ポインターボタン

- 予約済み。

⑯ [ADJUST] 調整ボタン

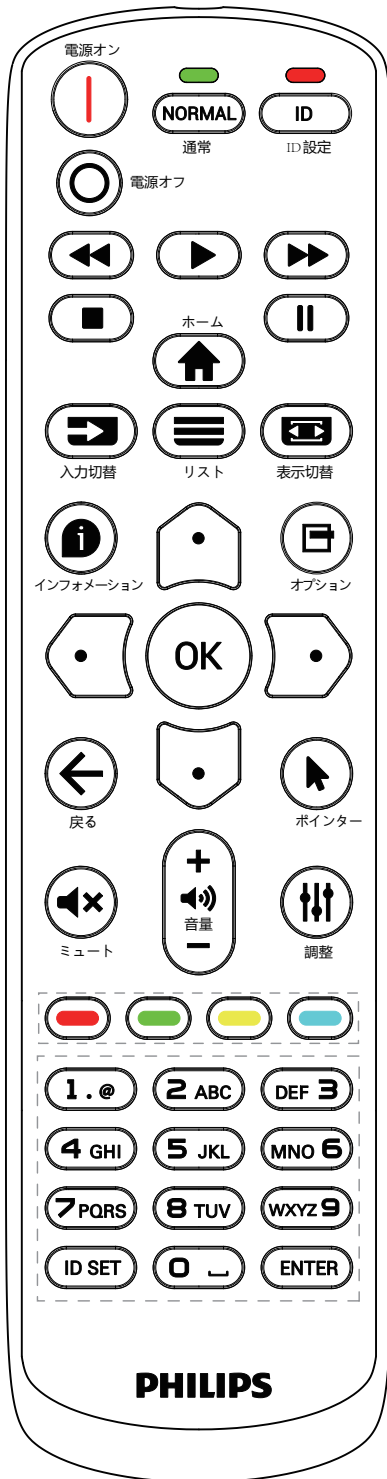
- オートアジャストの OSD に移動します (VGA の場合のみ)

⑰ [−][+] 音量ボタン

- 音量を調整します。

3.6.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID ボタンを押して設定してください。



[ID] ボタンを押すと、赤い LED が 2 回点滅します。

1. [ID SET] ボタンを 1 秒以上押しして ID モードに入ります。赤い LED が点灯します。
[ID SET] ボタンを再度押すと ID モードを終了します。赤い LED が消灯します。

[0] ~ [9] の数字を押して、制御するディスプレイを選択してください。例ディスプレイ番号 1 では [0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では [1] と [1] を押してください。

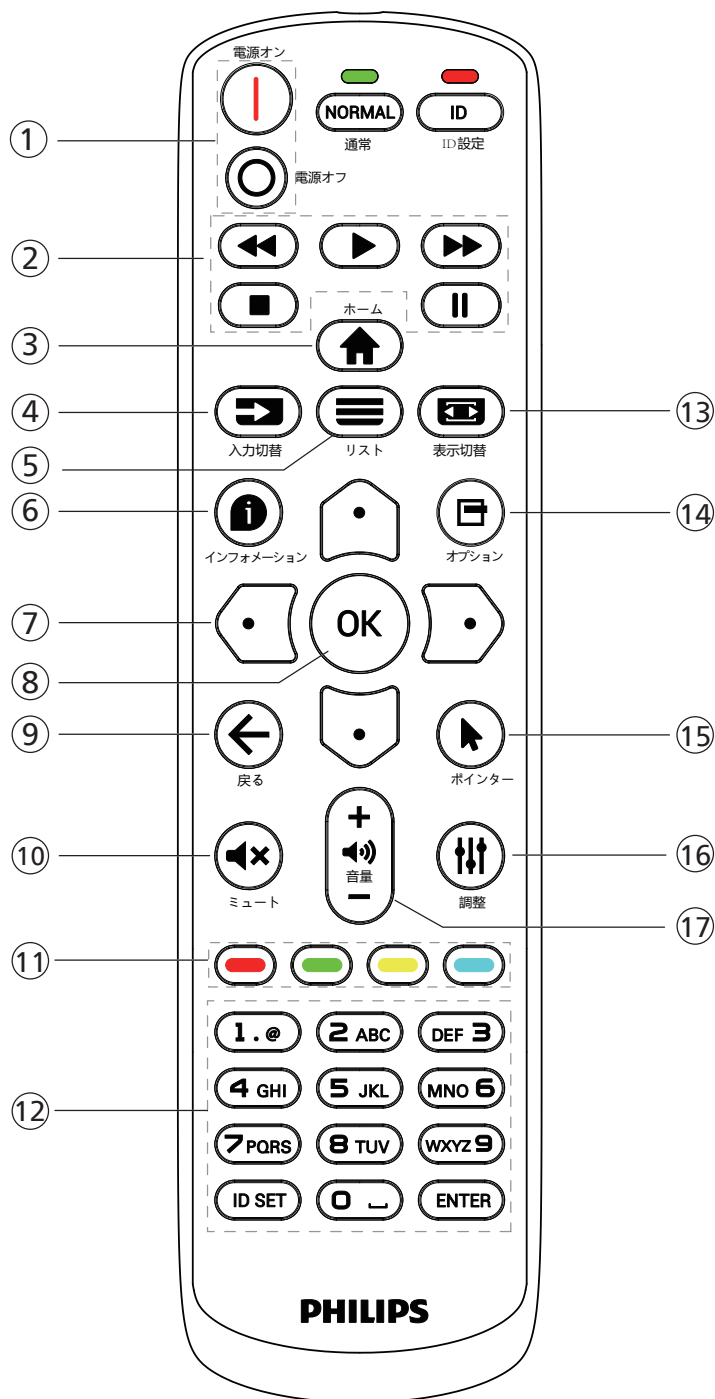
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にボタンを押されない場合、ID モードは終了します。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯するまで 1 秒間待って、正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して選択を確認します。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

メモ:

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に、それぞれのディスプレイで ID 番号を設定する必要があります。

3.6.3. Android ソース上のリモコンボタン



① [I/O] 電源ボタン

- [I] 電源をオンにします。
- [O] 電源をオフにします。

② [PLAY] ボタン

- メディアファイルの再生を操作します。(メディア入力の場合のみ)
- [▶] メディアファイルを直接再生します。
- [||] 再生を一時停止します。
- [■] メディアファイルの再生を停止します。

[■] ボタンで再生を停止後、再度 [▶] を押し、ファイルの先頭から再生が開始されます。

③ [↑] ホームボタン

OSD メニューにアクセスします。

④ [→] ソースボタン

入力ソースを選択します。

⑤ [≡] リストボタン

1. ウェブページのコンテンツ内で、フォーカスを上の次のクリック可能な項目に移動します。
2. フォーカスをボタンなどの次のコントロールまたはウィジェットに上方向へ移動します。

⑥ [i] インフォメーションボタン

現在の入力信号に関する情報を表示します。

1. 「Media Player (メディアプレーヤー)」 → 「Compose (構成)」 → 「再生一覧を編集または新規に追加」 → 「任意のメディアファイルを選択」の順に操作し、[i] を押して選択したメディアファイルの情報を表示します。

⑦ [◀][▶][◂][◃] ナビゲーションボタン

1. メニューを移動し、項目を選択します。
2. ウェブページのコンテンツにおいて、これらのボタンは画面のスクロールバーを制御するためのものです。[◀] または [▶] を押して、垂直スクロールバーを上または下に移動します。[◂] または [◃] を押して、水平スクロールバーを左または右に移動します。

⑧ [OK] ボタン

入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

前のページに戻るか、直前の機能を終了します。

⑩ [M] 消音ボタン

このボタンを押して、音声をミュートしたり、復元したりします。

⑪ [●][●][●][●] 色ボタン

予約済み。

⑫ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

1. Android ソース上の ID SET および ENTER に対する機能がありません。
2. PDF ファイルの場合、数字ボタンを押してページ番号を入力し、次に [OK] ボタンを押して指定したページにジャンプします。

⑬ [🖼️] 形式ボタン

画像形式を変更します

⑭ [🔧] オプションボタン

メディアプレーヤーおよび PDF プレーヤーでツールボックスを開きます。

1. 「メディアプレーヤー」または「PDF プレーヤー」 → 「構成」 → 「再生一覧を編集または新規に追加」 → [🔧] を押してツールボックスを開きます。ツールボックスは画面の左側からスライド表示されます。

⑮ [👉] ポインターボタン

ポインターモードの開始または終了

ユーザーがリモコンの POINTER キーを押すと、システムはポインターモードに入ります。このモードでは、以下の動作がマウス操作をシミュレートするように変更されます。

- ポインターモードの動作

リモコンキー	機能
UP	マウスカーソルを上へ移動
DOWN	マウスカーソルを下へ移動
LEFT	マウスカーソルを左へ移動
RIGHT	マウスカーソルを右へ移動
OK	マウスの左クリックをシミュレート
LIST	マウスホイールを上方向にスクロールをシミュレート
ADJUST	マウスホイールを下方向にスクロールをシミュレート

これにより、リモコンの方向キーおよびファンクションキーを使用して、直感的にマウスを操作できます。

- ポインターモードの終了:

[ポインター] ポインターボタンを再度押すと、ポインターモードが終了します。

終了後、すべてのキーは元のリモコン操作機能に戻ります。

注:

ポインターモードは、システムを再起動するたび、または入力ソースを切り替える際に自動的に無効になります。

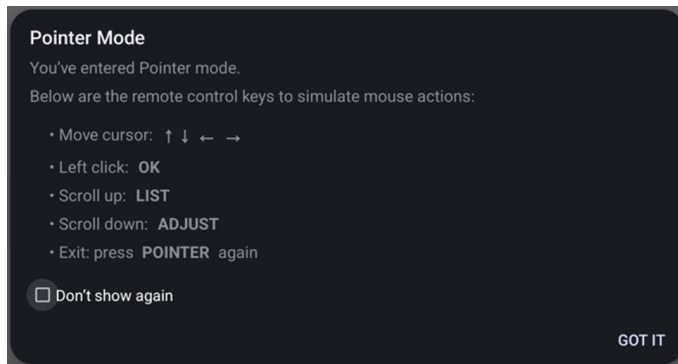
このモードを再度有効にするには、[ポインター] ポインターボタンを再度押す必要があります。

- ポインターモード ポップアップダイアログ

ユーザーがポインターモードに入ると、画面中央にポップアップダイアログが表示されます。このダイアログでは、リモコンのキーを使ってマウス操作をシミュレートする方法を簡単に案内します。

左下隅にある「次回から表示しない」チェックボックスが選択されていない場合、ユーザーがポインターモードに入るたびにこのポップアップが表示されます。

「了解」を押すかポインターモードを終了すると、ダイアログは自動的に閉じられます。



⑩ [卍] 調整ボタン

1. ウェブページのコンテンツ内で、フォーカスを次のクリック可能な項目に下方向へ移動します。
2. フォーカスをボタンなどの次のコントロールまたはウィジェットに下方向へ移動します。

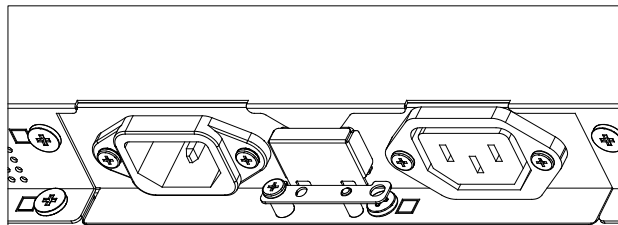
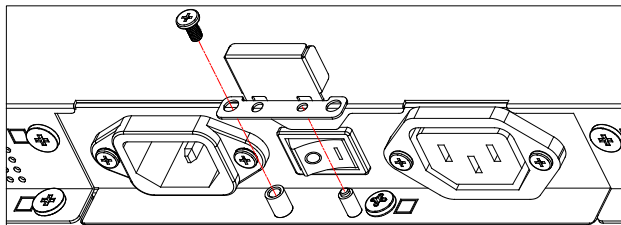
⑪ [ー][+] 音量ボタン

音量を調整します。

3.7. AC スイッチカバー

AC スイッチカバーを使用して、AC スイッチをカバーしてください。

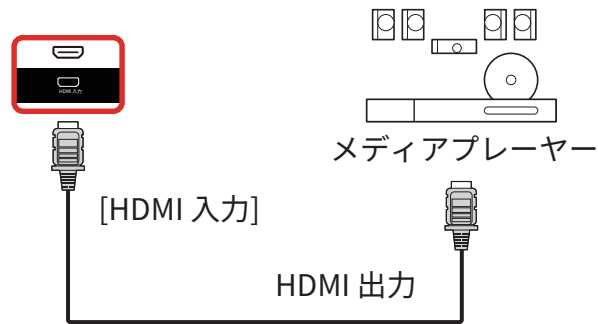
1. AC スイッチカバーを取り付けます。
2. アクセサリキットに付属するネジで、AC スイッチカバーを固定します。



4. 外部機器を接続する

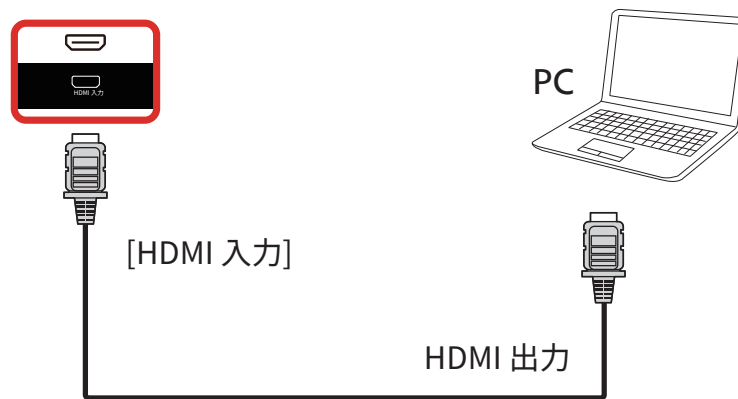
4.1. 外部機器の接続(マルチメディアプレーヤー)

4.1.1. HDMI 入力

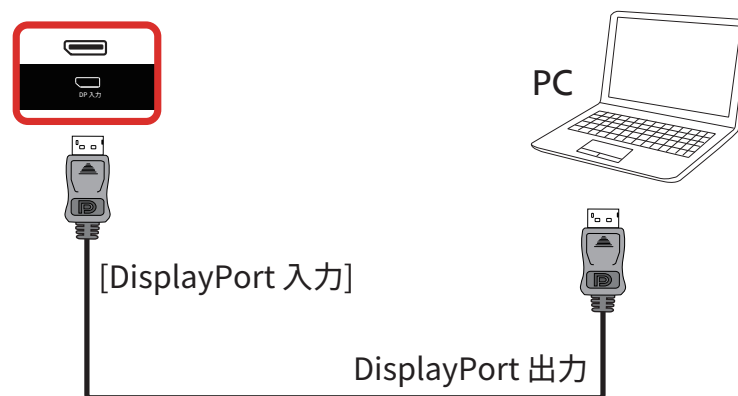


4.2. PC の接続

4.2.1. HDMI 入力の使用

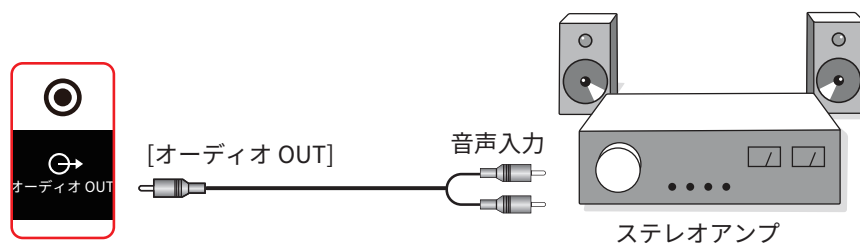


4.2.2. DisplayPort 入力の使用



4.3. オーディオ機器の接続

4.3.1. 外部オーディオ装置の接続

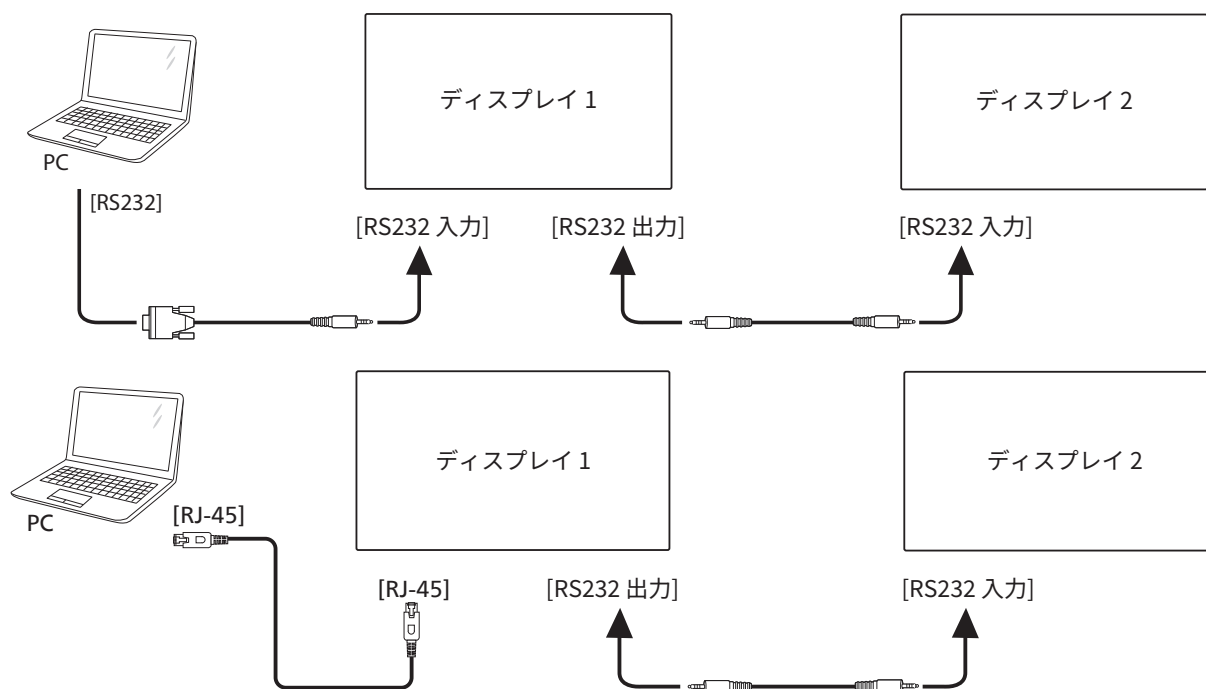


4.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

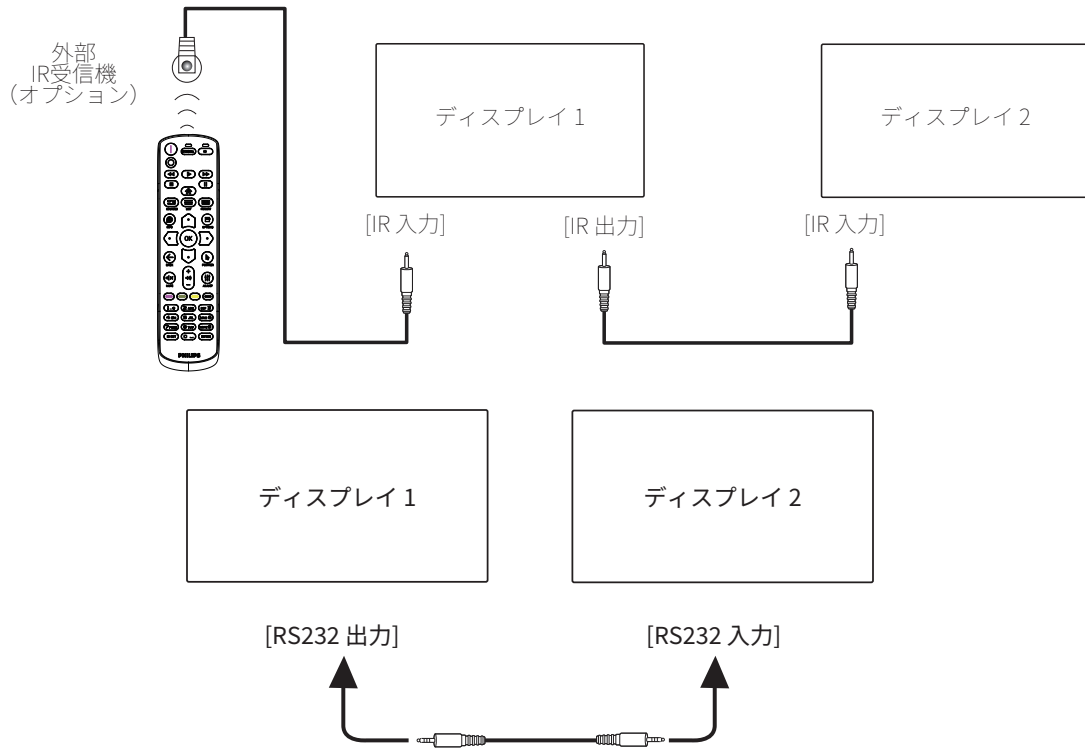
複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成を作成することが可能です。

4.4.1. ディスプレイ制御接続

ディスプレイ 1 の [RS232 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [RS232 入力] コネクタに接続します。



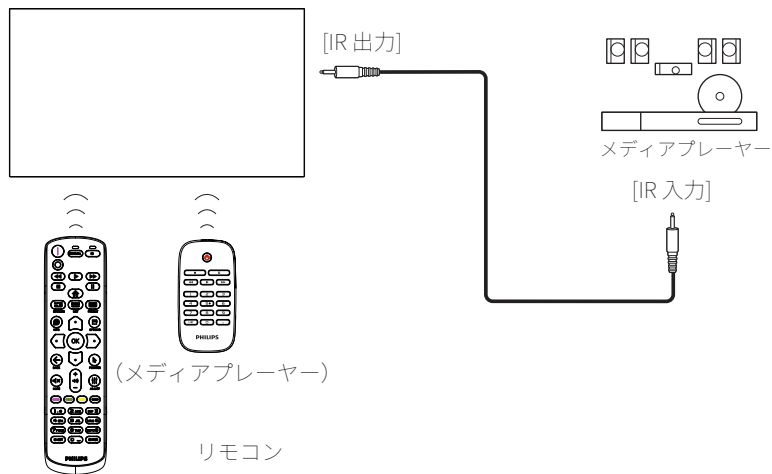
4.5. IR 接続



注記:

1. このディスプレイのリモコンセンサーは、[IR 入力] が接続されている場合、動作を停止します。
2. IR ループスルー接続は、最大 9 台のディスプレイをサポートすることができます。
3. RS232 接続によるデジチェーン方式での IR 入力は、最大 9 台のディスプレイをサポートすることができます。




4.6. IR パススルー接続



5. 操作


注記: この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。

5.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する

1. [] ソースボタンを押してください。
2. [] または [] ボタンを押してデバイスを選択し、次に [OK] ボタンを押してください。

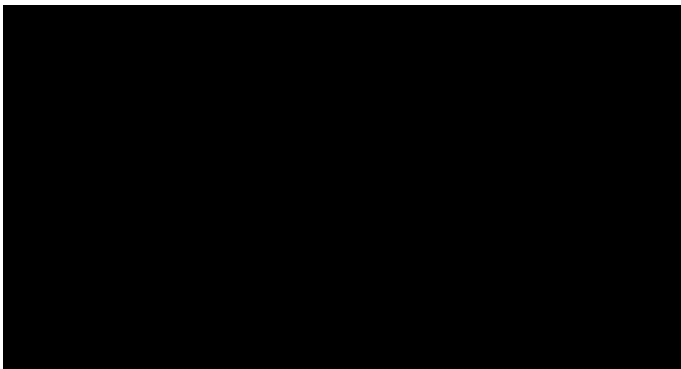
5.2. 画像形式を変更します

ビデオソースに合わせて画像フォーマットを変更することができます。それぞれのビデオソースに対して、使用可能な画像フォーマットがあります。使用可能な画像フォーマットはビデオソースによって異なります。

1. [] 形式ボタンを押して、画像形式を選択します。
 - PC モード: { フル } / { 4:3 } / { 1:1 } / { 16:9 } / { 21:9 }。
 - ビデオモード: { フル } / { 4:3 } / { 1:1 } / { 16:9 } / { 21:9 }。

5.3. 概要

1. Android PD 起動画面:
 - Android PD 起動画面は、以下に示すような黒いページです。



- 「戻る」キーを押してアプリを終了すると、画面が Android PD 起動画面に入ります。
- Android PD 起動画面に戻ると、ヒント画像が画面に 5 ~ 10 秒間表示されます。
- ヒント画像は、ソースキーを押して、ソースを変更できる旨を通知します。



2. 管理者モード:

- 「Home + 1888」を押すと管理モードに入ります。「ホーム」を押した時にホーム OSD メニューが表示されることを確認してから、その次に 1888 と押してください。「ホーム」キーを 2 回押すと有効なホットキーになりません。
- 管理者モードは、次のアプリで構成されています。「Settings (設定)」、「Apps (アプリ)」、「Network (ネットワーク)」、「Storage (ストレージ)」および「Help (ヘルプ)」。
- 管理者モードを終了すると、システムは直前のソースに戻ります。

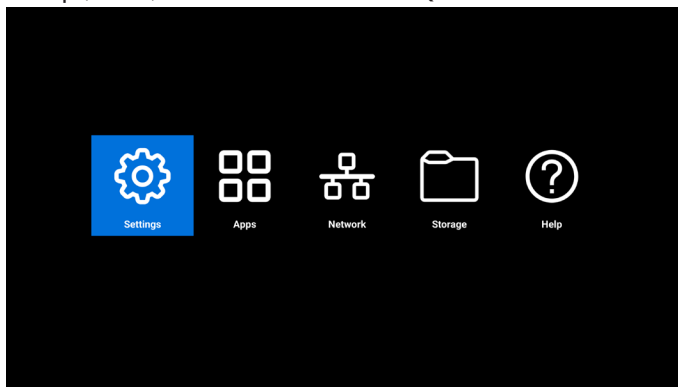
Settings (設定): 設定ページに移動します。

すべてのアプリを表示

Network (ネットワーク): Wi-Fi、イーサネット、およびモバイルネットワーク (オプション) を設定します。

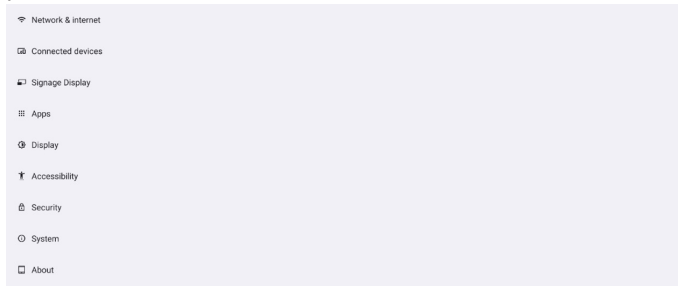
Storage (ストレージ): ストレージページに移動します。

Help (ヘルプ): サポートを受けるための QR コードを表示します。

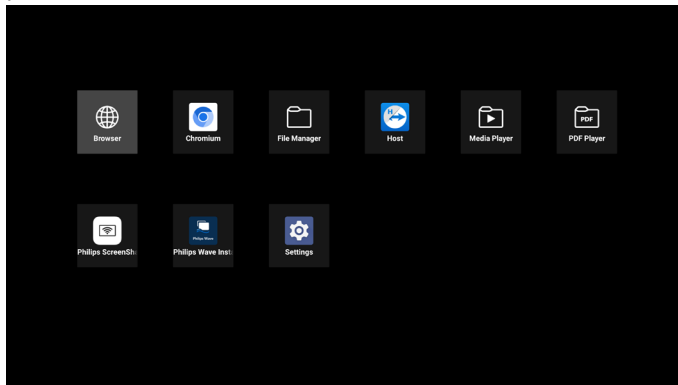


注: 内部ストレージの空き容量が 20 MB 未満になると、システムの安定性を確保するため、ストレージアプリのみが実行可能になります。

1) 設定ページ:

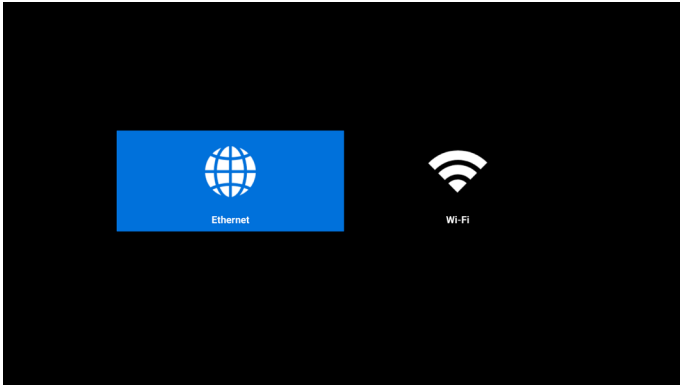


2) アプリケーションページ:

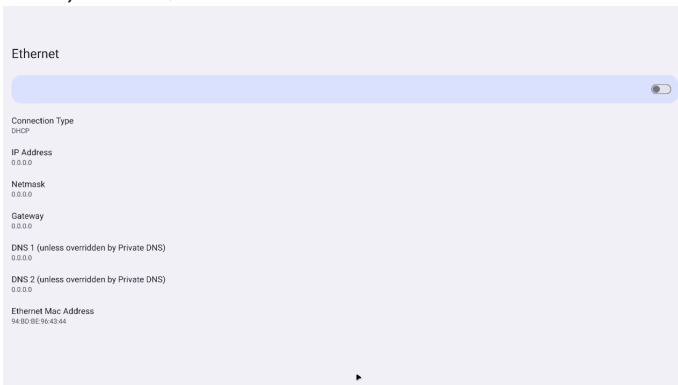


3) ネットワークページ

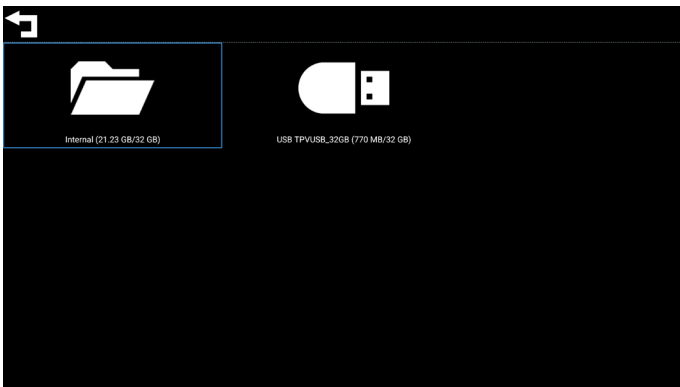
(Wi-Fi ドングルが接続されていない場合、Wi-Fi は表示されません。)



3.1) イーサネットページ:

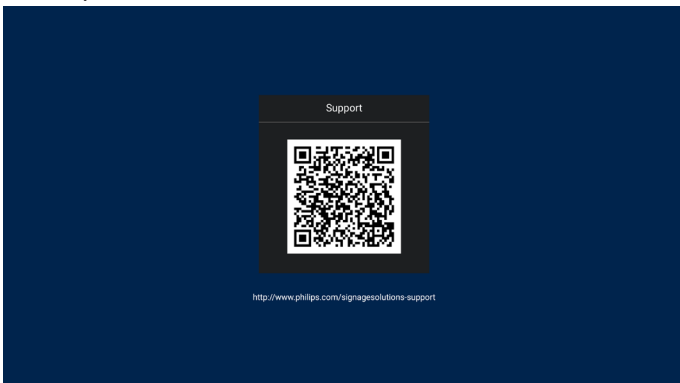


4) Storage page (ストレージページ):



5) Help page (ヘルプページ)

Philips のサポート Web サイトにリンクする QR を表示します。



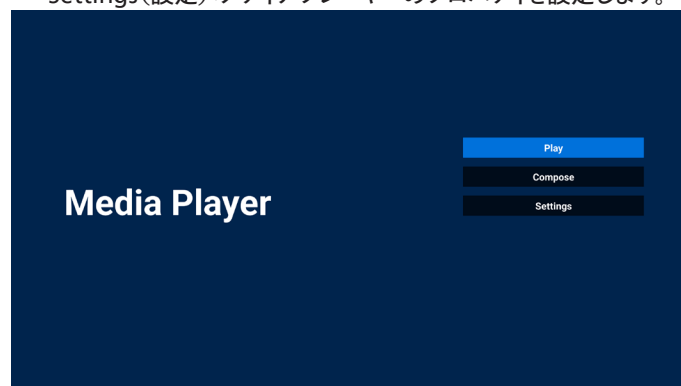
5.4. メディアプレーヤー

5.4.1. OSD メニューでのメディアプレーヤーの操作:

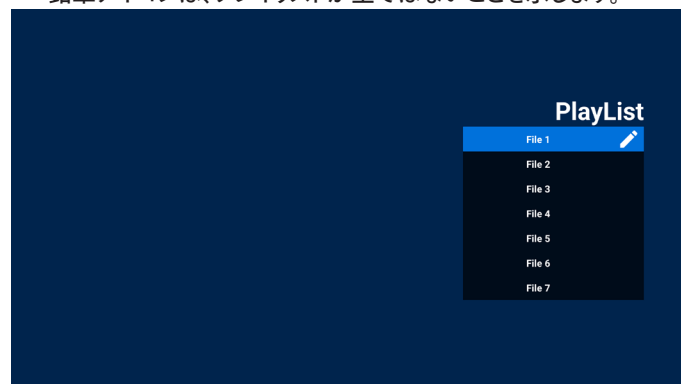
1. ソース起動
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、起動プロセスが完了次第、システムは自動的にメディアプレーヤーに入ります。
 - プレイリスト:
 - 0:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1-7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。
 - 8:メディアプレーヤーに移動し、USB ファイルを自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - 今日:
 - 日付と時刻を表示します。
 - 1-7:
 - 最大7つのスケジュールを設定します。
 - オン/オフ:
 - 開始時間と終了時間を設定します。
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、PD は終了時に自動的にメディアプレーヤーを起動します。
 - 月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、毎週:
 - ライフサイクルを設定します。
 - 再生一覧:
 - 0:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1～7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。

5.4.2. メディアプレーヤー

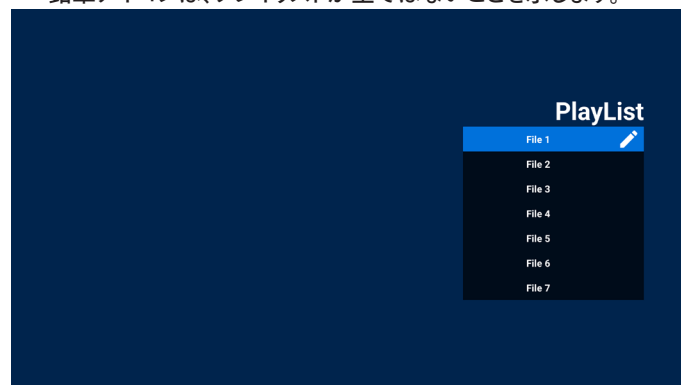
1. メディアプレーヤーのメインページです。このページは3つのオプション(「Play(再生)」、「Compose(構成)」、「Settings(設定)」)で構成されます。
 Play(再生):再生するプレイリストを選択します。
 Compose(構成):プレイリストを編集します。
 Settings(設定):メディアプレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play(再生)」を選択し、最初にファイル1～ファイル7の中から再生するプレイリストを1つ選択する必要があります。鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを示します。



3. メインページで「Compose(構成)」を選択します。最初に、ファイル1～ファイル7の中から編集するプレイリストを1つ選択します。鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを示します。

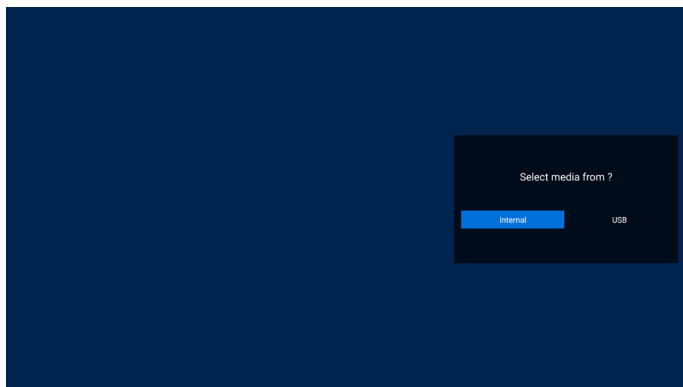


4. 空のプレイリストを選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。

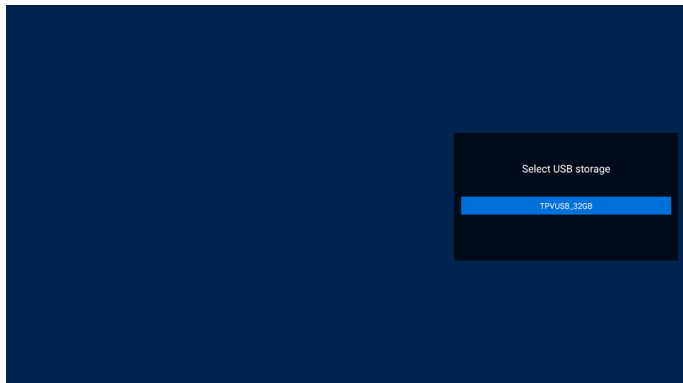
すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。

例えば、

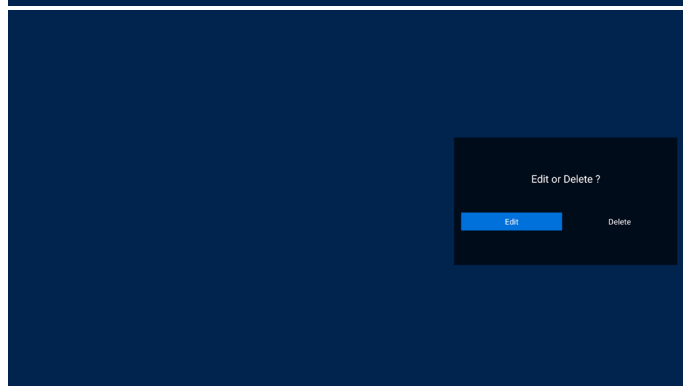
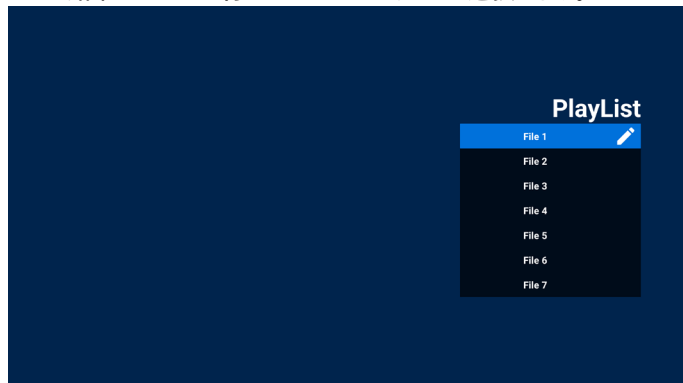
動画:{root dir of storage}/philips/video/
 写真:{root dir of storage}/philips/photo/
 音楽:{root dir of storage}/philips/music/



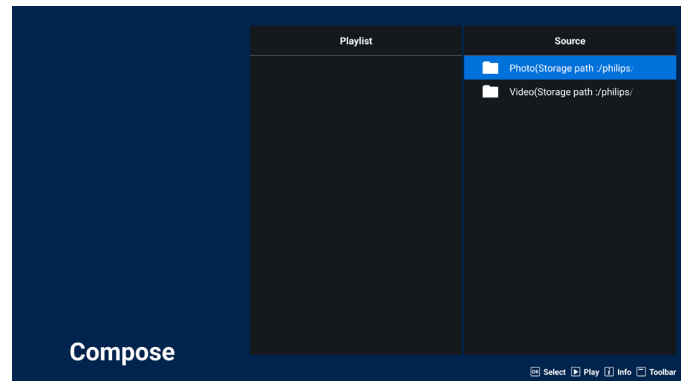
5. 「USB」ストレージを選択すると、アプリが USB デバイスの選択をガイドします。



6. 空でないプレイリストを編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが付いているプレイリストを選択します。

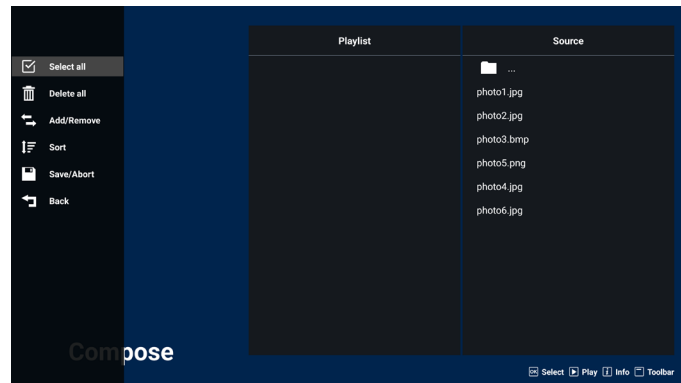


7. プレイリストを編集し始めると、以下の画面が表示されます。
 Source(ソース) - ストレージ内のファイル。
 プレイリスト - 再生一覧内のファイル。
 Option(オプション) - サイドメニューバーを起動します。
 Play key(再生キー) - メディアファイルを再生します。
 Info key(情報キー) - メディア情報を表示します。
 注記:
 ソース内のいずれかのディレクトリを長押しすると、フルパスが表示されます。

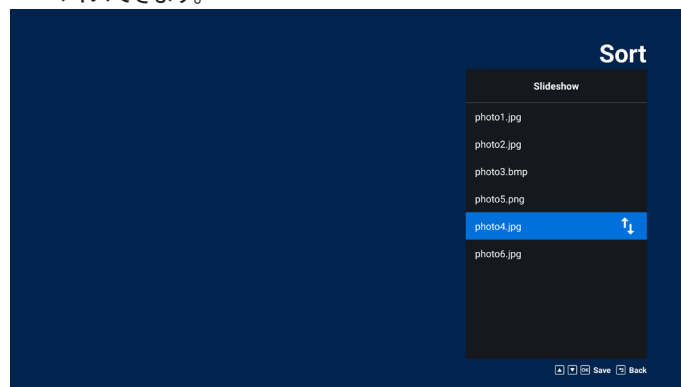


7-1 サイドメニューバーから、次の機能を使用できます。

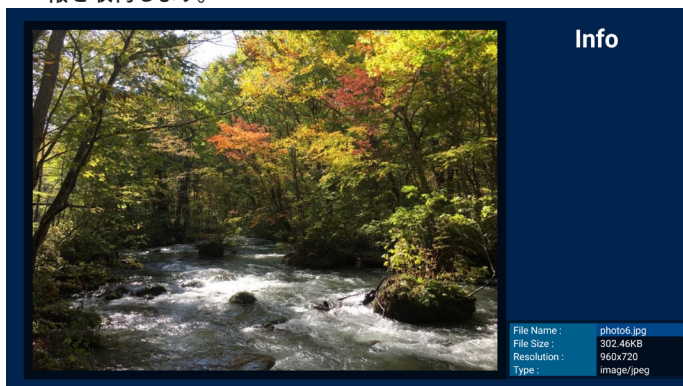
- Select all(すべて選択)すべてのストレージファイルを選択します。
- Delete all(すべて削除) :すべてのプレイリストファイルを削除します。
- Add/Remove(追加 / 削除):ソースから再生一覧を更新します。
- Sort(並び替え) :再生一覧を並び替えます。
- Save/abort(保存 / 中断) :再生一覧を保存または中断します。
- Back(戻る) :前のメニューに戻ります。



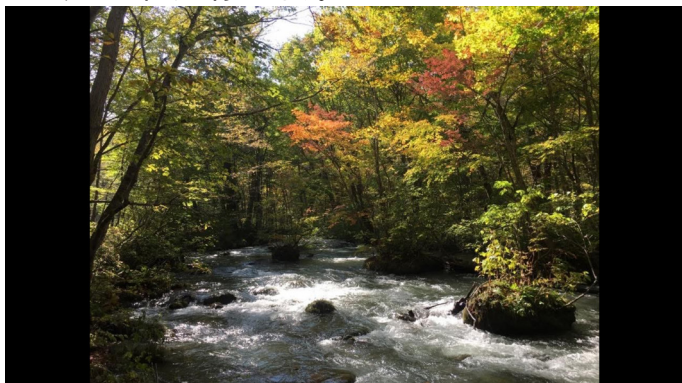
8. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



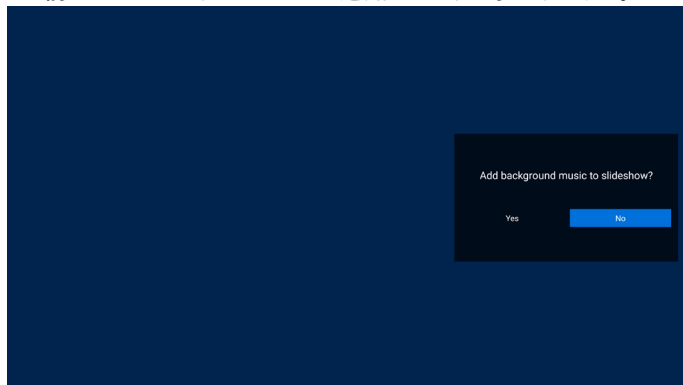
9. 目的のファイルを選択した後、「Info(情報)」キーを押して詳細情報を取得します。



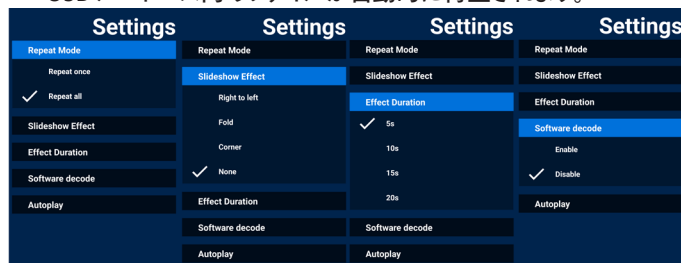
10. 目的のファイルを選択した後、「Play(再生)」キーを押してメディアファイルを直ちに再生します。



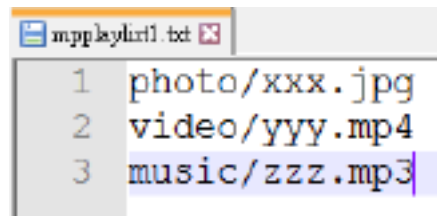
11. すべての画像ファイルでプレイリストを作成した場合は、保存する前にスライドショーにBGMを追加するように求められます。



12. メインページで「Settings(設定)」を選択すると、次の5つのオプションが利用可能です。「Repeat Mode」(繰り返しモード)、「Slideshow Effect」(スライドショー効果)、「Effect Duration」(効果時間)、「Software Decode」(ソフトウェアデコード)、および「USB Autoplay」(USB自動再生)です。
Repeat Mode(繰り返しモード): 繰り返しモードを設定します。
Slideshow Effect(スライドショー効果): 写真スライドショーの効果です。
Effect Duration(効果時間): 写真の効果時間。
Software Decode(ソフトウェアデコード): ビデオ再生中にブラックアウト画面を表示しません。
USB Autoplay(USB自動再生): USBデバイスを接続すると、USBルートパス内のファイルが自動的に再生されます。



13. メディアプレーヤーによるテキストファイルのインポート
ステップ1、メディアプレーヤーテキストファイルを作成します。
- ファイル名: mpplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7)。
例: mpplaylist1.txt, mpplaylist2.txt
内容:



注記: 再生一覧に動画ファイルおよび音楽ファイルが含まれている場合、音楽ファイルを再生中に画面が黒くなります。

ステップ2、「mpplaylistX.txt」を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTPを利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/0/philips(DL、PLの場合)

例: /storage/emulated/0/philips/mpplaylist1.txt

ステップ3、「philips」フォルダ内の「photo」、「video」、「music」フォルダにメディアファイルを準備します(内部ストレージのみ)。

- 例: /storage/emulated/0/philips/photo/xxx.jpg
/storage/emulated/0/philips/video/yyy.mp4
/storage/emulated/0/philips/music/zzz.mp3

ステップ4、メディアプレーヤーアプリを開始すると、メディアプレーヤーテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記: ユーザーがUI上でプレイリストを更新すると、mpplaylistX.txtファイルも同時に更新されます。

5.5. ブラウザー

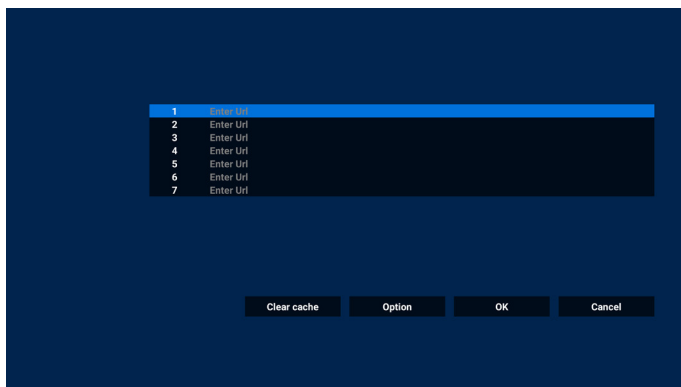
この機能を使用する前に、システムがネットワークに正常に接続されていることを確認してください。

(6.1.1.1.1. Wi-Fi & 6.1.1.1.2. Ethernet)

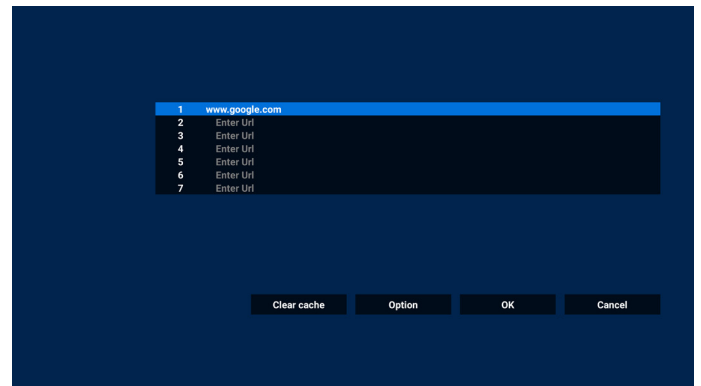
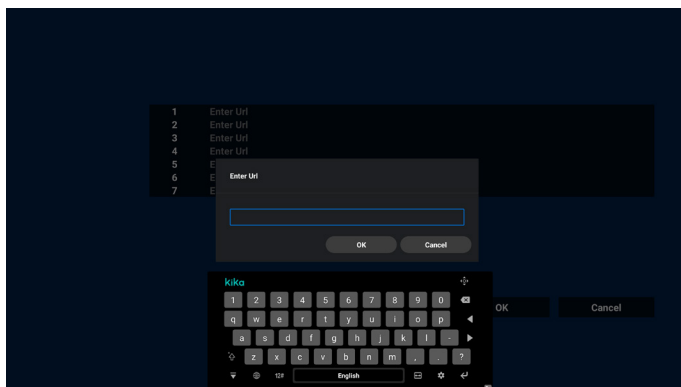
1. 関連する設定ができる「Browser(ブラウザー)」アプリのメインページ。



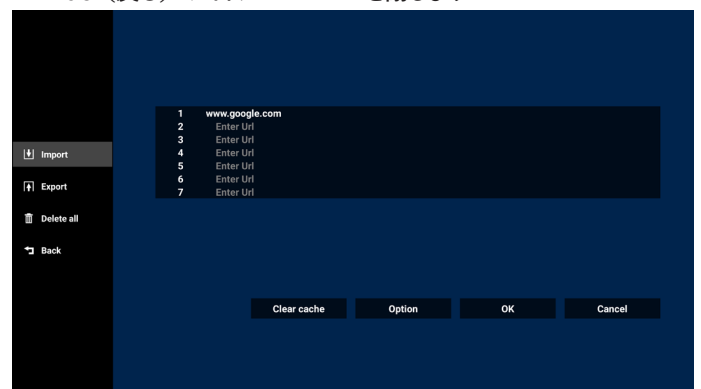
2. 「Compose(構成)」を押して、次のページに進みます。ユーザーは 1～7の中から選択できます。選択後、ダイアログボックスが表示されます。



3. オンスクリーンキーボードを使用して URL を入力し、OK ボタンを押すと、データがリストに保存されます。

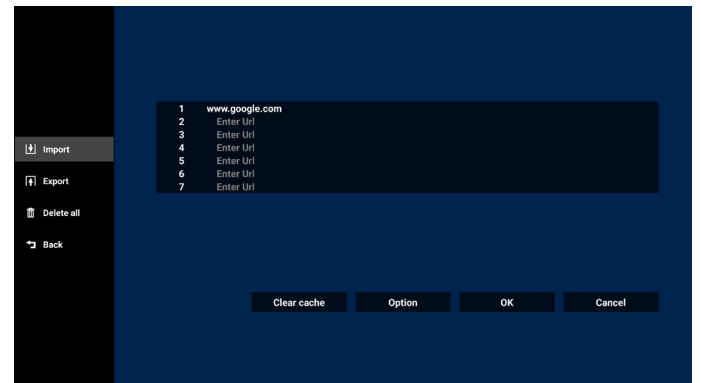


4. 「Option(オプション)」を押すと、左側にメニューが表示されます。Import(インポート): URL リストのファイルをインポートします
Export(エクスポート): URL リストのファイルをエクスポートします
Delete all(すべて削除): メイン画面からすべての URL レコードを削除します
Back(戻る): サイドメニューバーを閉じます

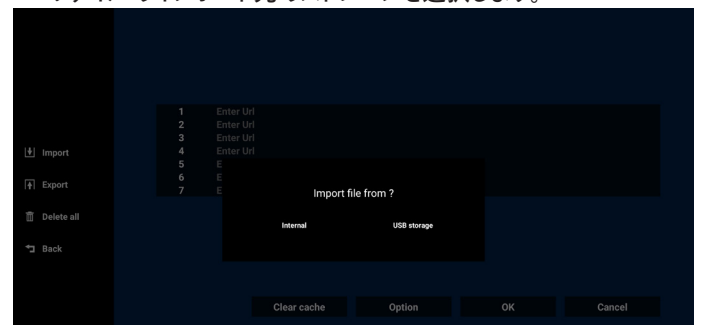


4.1 Import(インポート)

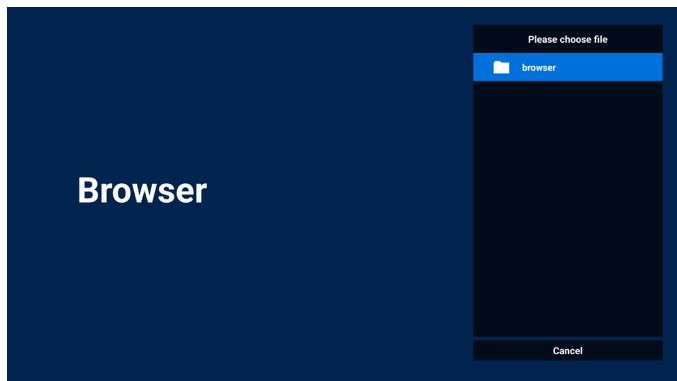
- インポートを選択します。



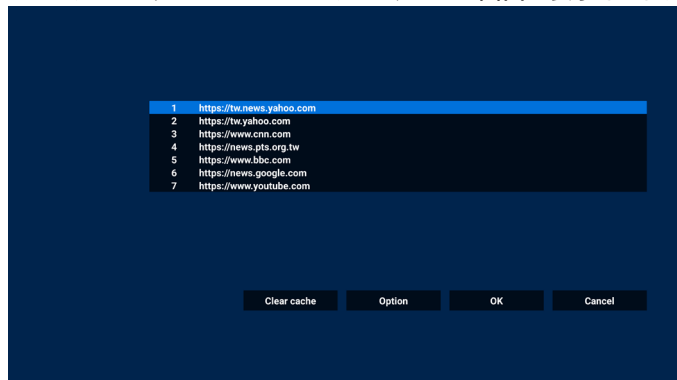
- ファイルのインポート元のストレージを選択します。



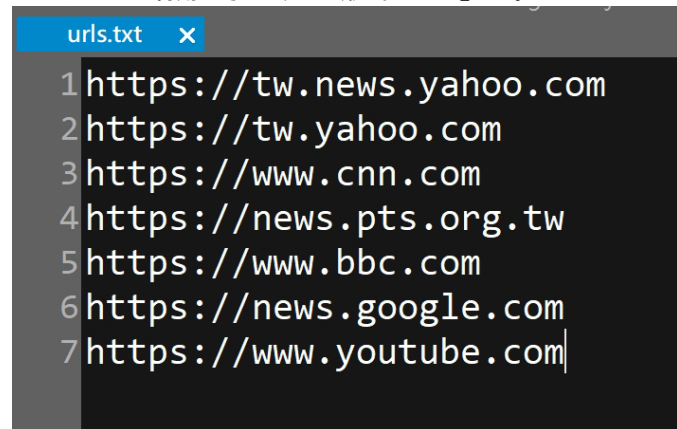
- ブラウザーファイルを選択します。



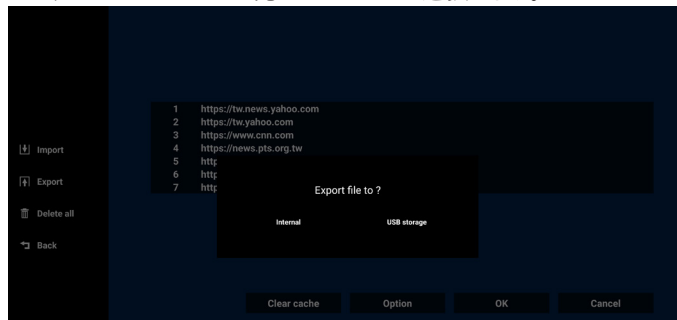
- ブラウザーファイルをインポートすると、URL が画面に表示されます。



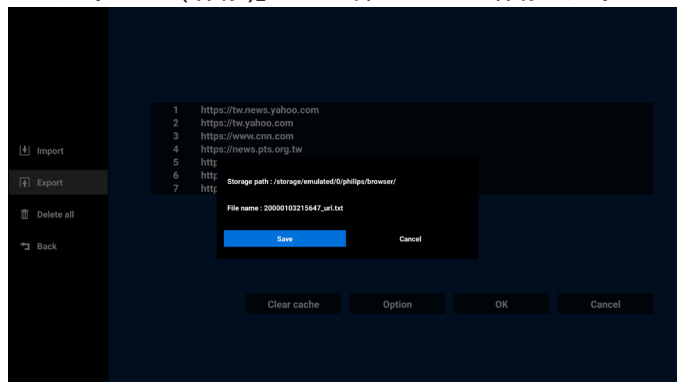
- インポートに利用できるファイル形式は「.txt」です。



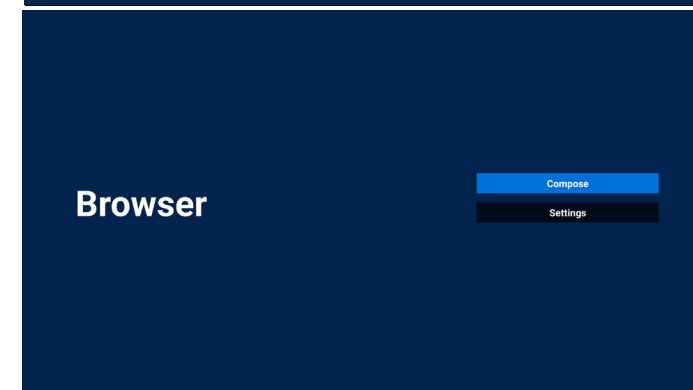
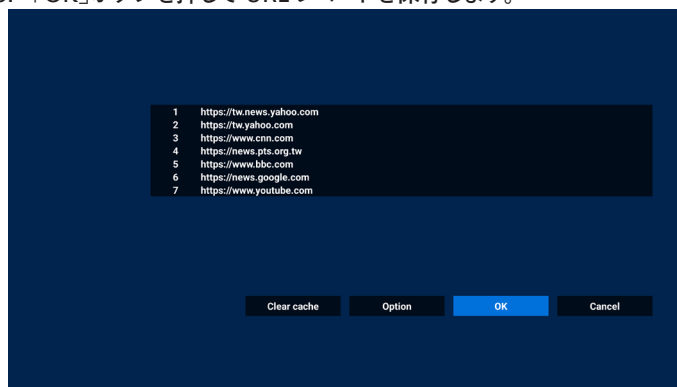
- ファイルをエクスポート先のストレージを選択します。



- ダイアログボックスに、保存するファイルのパスとファイル名が表示されます。「Save (保存)」ボタンを押して URL を保存します。



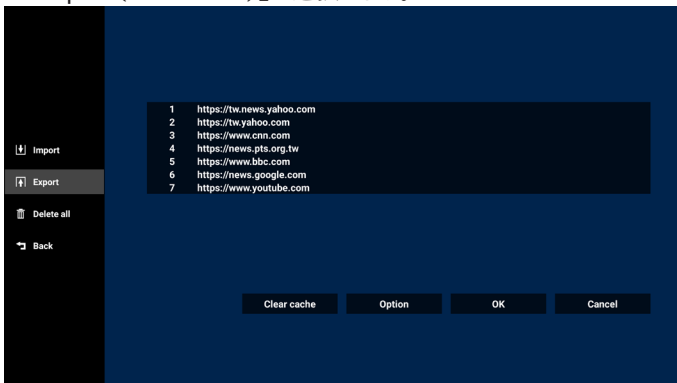
- 5. 「OK」ボタンを押して URL レコードを保存します。

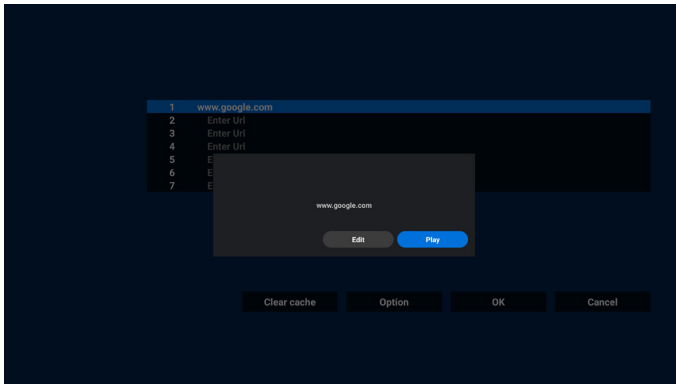
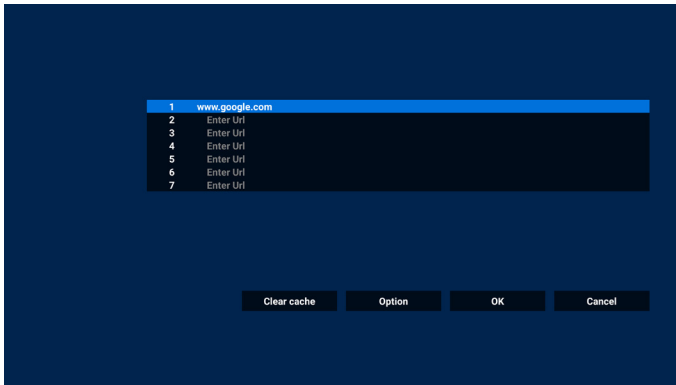


- 6. URL 一覧から空でない項目を選択すると、URL を編集するか再生するかを尋ねるメッセージが表示されます。「Edit (編集)」を選択すると、ダイアログボックスで URL を編集できます。「Play (再生)」を選択すると、選択した URL の Web ページが表示されます。

4.2 Export(エクスポート):

- 「Export(エクスポート)」を選択します。



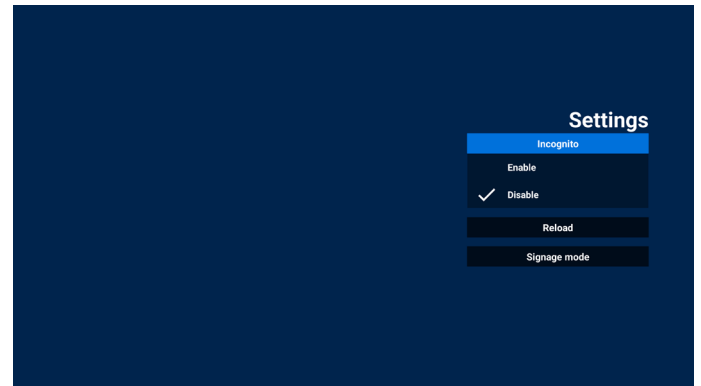


7. 「Settings(設定)」を押して、次のページに入ります。



7.1 Incognito(匿名)

- 有効:Incognito モードを使用してウェブページを表示します。
- 無効:非 Incognito モードを使用してウェブページを表示します。



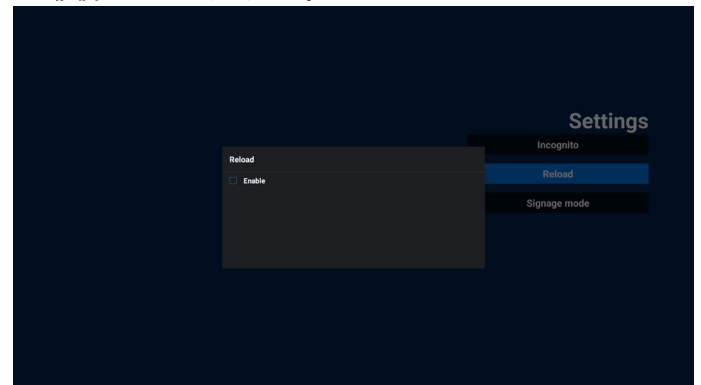
7.2 Reload (リロード)

ユーザーがウェブページのリロード時間を設定できるようにします。
a. 「Enable(有効)」チェックボックスにチェックが入っていない場合、デフォルトのリロード時間は 60 秒です。

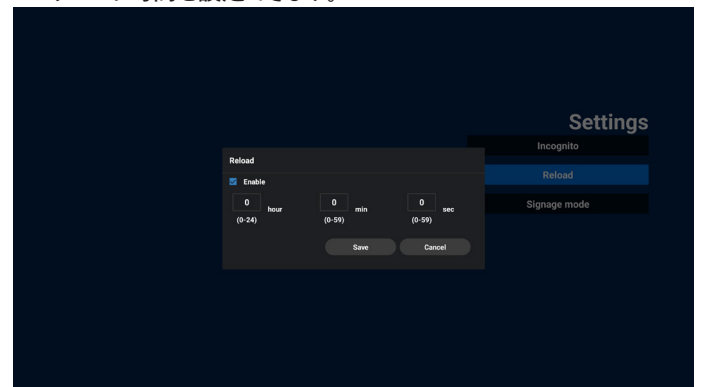
注記:

この場合、ウェブページはネットワークの状態が変更されたときにのみリロードされます。

ネットワーク状態が常に接続されている場合、ウェブページは 60 秒後にリロードされません。



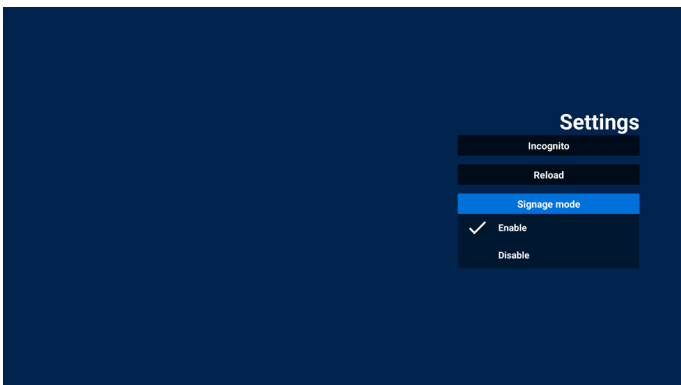
b. 「Enable(有効)」チェックボックスにチェックが入っている場合、リロード時間を設定できます。



7.3 Signage mode(サイネージモード)

ユーザーが別のアプリのアクティビティから戻るとき、ブラウザー構成ページに戻れるようにします。ブラウザー画面を最新の Web ページに維持できないようにします。オプションはデフォルトで有効になっています。

www.google.com を開いて、「PDF デモファイル」を検索します。検索結果で 1 つの PDF ファイルをクリックすると、PDF ファイルがダウンロードされ、開きます。オプションが有効になっている場合、「Back(戻る)」ボタンを押すと、ブラウザー構成ページに戻ります。無効になっている場合、画面は検索結果に戻ります。



8. ブラウザーでの OSD メニューの操作

ソース起動

- 「OSDメニュー」>「設定1メニュー」>「ソース起動」の順に移動し、「ブラウザ再生一覧」を0に設定してください。再起動後、入力ソースが「Browser(ブラウザー)」になります。
- 「OSDメニュー」>「設定1メニュー」>「ソース起動」の順に移動し、入力を「ブラウザー」に設定し、「ブラウザ再生一覧」を1に設定してください。その後、PDはブラウザーアプリの最初のURLを使用してWebページを表示します。

8.2 Schedule(スケジュール)

「OSDメニュー」>「Advanced option(アドバンスドオプションメニュー)」>「Schedule(スケジュール)」に移動し、「On time1(オンタイム1)」、「Off time2(オフタイム2)」、「Browser as input(入力をブラウザー)」、「Any day of the week(任意の曜日)」、「Play List(再生一覧)」として設定します。

その後、PDはブラウザーアプリのURLを使用してWebページを時刻1に表示し、時刻2に終了します。

9. SFTPを通してURL一覧を編集する方法

ステップ1:ブラウザー用のテキストファイルを作成します。

- ファイル名:bookmarklist.txt。
- 内容:

```
bookmarklist.txt
1 https://www.google.com.tw/
2 http://abc.go.com/
3
4
5
6
7
```

ステップ2、bookmarklist.txtを内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、SFTPを利用することができます。

- ファイルパス:/storage/emulated/0/philips (DL、PLの場合)

例:/storage/emulated/0/philips/bookmarklist.txt

ステップ3、ブラウザーアプリを起動すると、ブラウザーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記:ユーザーがUI上でプレイリストを更新すると、bookmarklist.txtファイルも同時に更新されます。

10. オフラインブラウジング

URL1でアドレスを設定し、OSDスケジュールを使用してURL1 Webページを開く場合、ブラウザーアプリはURL1のホームページデータをローカルストレージに自動的に保存します。

OSDスケジューラーがブラウザアプリを開いているときにネットワークが切断されると、ブラウザアプリはローカルストレージからURL1アドレスのホームページを自動的に開きます。

注:

- ブラウザアプリはURL1アドレスのホームページデータのみを保存でき、URL2からURL7のデータは保存できません。
- ローカルストレージ:/sdcard/Download/Browser_cache.png
- 「Clear cache(キャッシュのクリア)」ボタンを押すと、ローカルストレージからURL1アドレスのホームページデータをクリアできます。

5.6. PDF リーダー

5.6.1. PDF リーダーでの OSD メニューの操作:

1. ソース起動

- 入力:
 - 「PDF リーダー」をソースとして選択すると、起動プロセス完了後に PDF リーダーのページに自動的に移動します。
- プレイリスト:
 - プレイリスト 0: PDF リーダーのメインページに移動します。
 - プレイリスト 1 ~ 7: PDF リーダーに移動し、プレイリストのファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。

2. スケジュール:

- 今日:
 - 日付と時刻を表示します。
- 1 - 7:
 - 最大 7 つのスケジュールを設定します。
- オン / オフ:
 - 開始時間と終了時間を設定します。
- 入力:
 - 「PDF リーダー」をソースとして選択すると、終了時に PDF リーダーが自動的に起動します。
- 月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、毎週:
 - ライフサイクルを設定します。
- 再生一覧:
 - 0: PDF リーダーのメインページに移動します。
 - 1 - 7: メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1 ~ ファイル 7 を自動的に再生します。

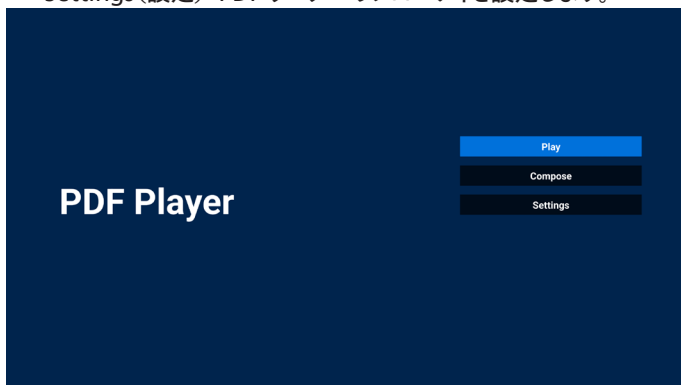
5.6.2. PDF プレーヤー

1. PDF リーダーのメインページです。このページは 3 つのオプション（「Play (再生)」、「Compose (構成)」、「Settings (設定)」）で構成されます。

Play (再生): 再生するプレイリストを選択します。

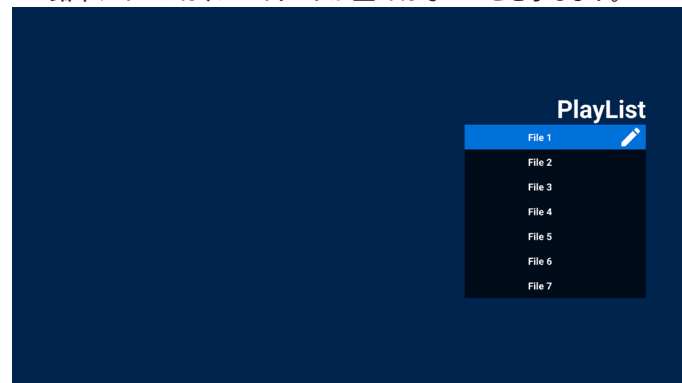
Compose (構成): プレイリストを編集します。

Settings (設定): PDF リーダーのプロパティを設定します。

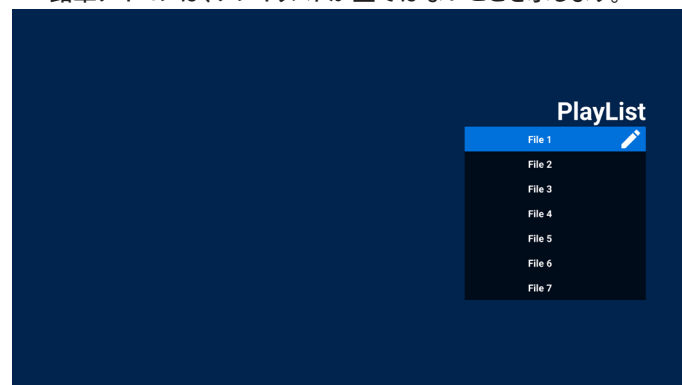


2. メインページで「Play (再生)」を選択し、最初に、ファイル 1 とファイル 7 の間から再生する 1 つのプレイリストを選択する必要があります。

鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを示します。



3. メインページで「Compose (構成)」を選択します。最初に、ファイル 1 ~ ファイル 7 の中から編集するプレイリストを 1 つ選択します。鉛筆アイコンは、プレイリストが空ではないことを示します。

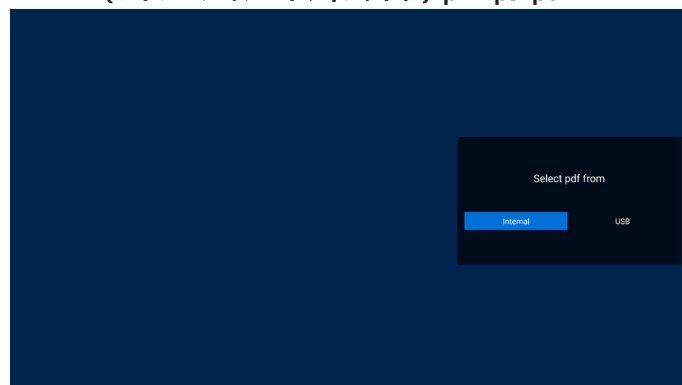


4. 空のプレイリストを選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。

すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に保存する必要があります。

例えば、

PDF: { ストレージのルートディレクトリ } / philips / pdf /

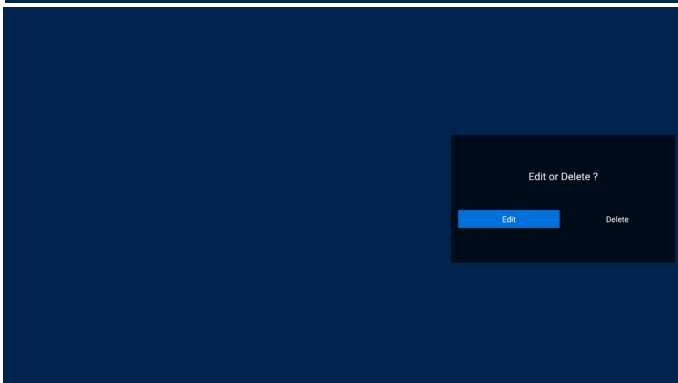
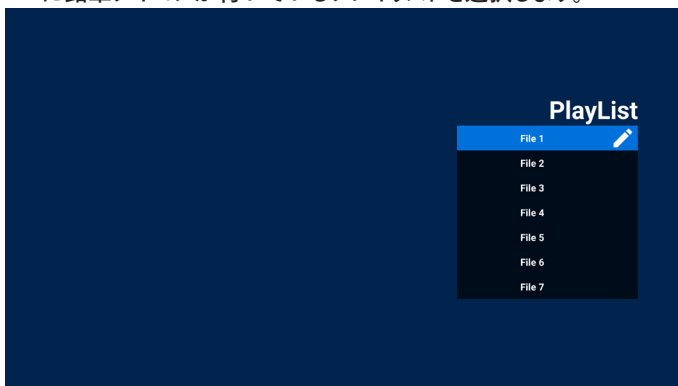


注:

- USB スティックが見つからない場合、次のメッセージが表示されます。「USB ストレージを差し込んでください。」

- 内部ストレージは常に利用可能なため、次のページに移動できます。

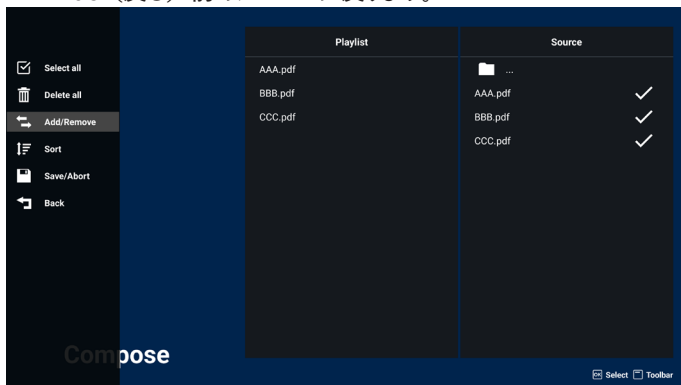
5. 空でないプレイリストを編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが付いているプレイリストを選択します。



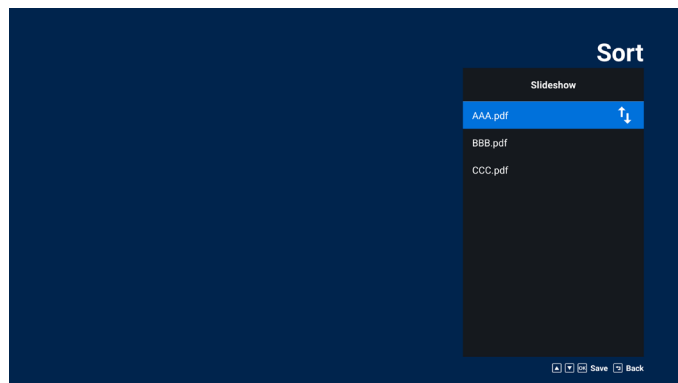
6. プレイリストを編集し始めると、メニューは次のように表示されます。
Source(ソース) - メモリストレージに保存されるファイル。
Playlist(プレイリスト) - プレイリストに保存されるファイル。
以下の機能は、リモコンの対応するキーで操作できます。
Option key(オプションキー) - サイドメニューバーを起動します
Ok key(OK キー) - ファイルを選択 / 選択解除します。

6-1. サイドメニューバーから、次の機能を使用できます。

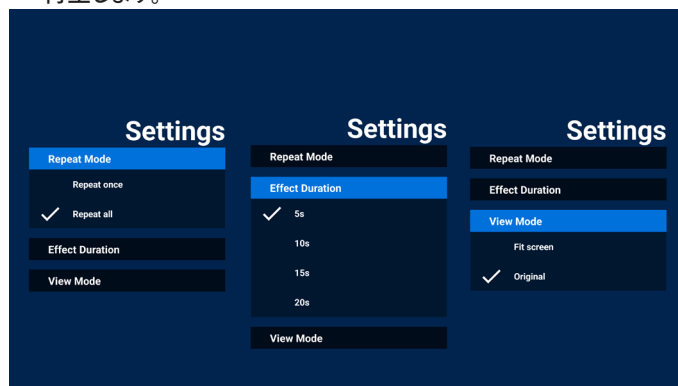
- Select all(すべて選択) : ストレージ内に保存されたすべてのファイルを選択します。
- Delete all(すべて削除) : すべてのプレイリストファイルを削除します。
- Add/Remove(追加 / 削除) : ソースからプレイリストを追加または削除します
- Sort(並び替え) : プレイリストを並び替えます。
- Save/abort(保存 / 中断) : 再生一覧を保存または中断します。
- Back(戻る) : 前のメニューに戻ります。



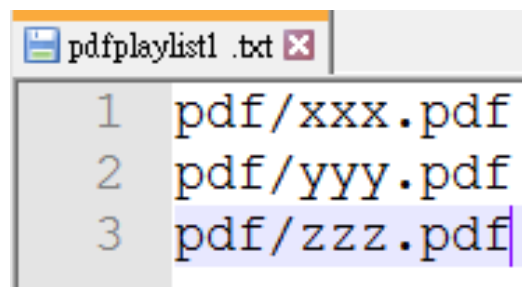
7. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



8. メインページで「Settings(設定)」を選択します。次の3つのオプションがあります: 「Repeat Mode(繰り返しモード)」、「Effect Duration(効果時間)」、「View Mode(表示モード)」。
Repeat Mode(繰り返しモード) : 繰り返しモードを設定します。
Effect Duration(効果時間) : 写真の効果時間。
表示モード: 画面にフィットさせて再生するか、オリジナルサイズで再生します。



9. SFTP を通して PDF 一覧を編集する方法:
ステップ 1、PDF リーダーのテキストファイルを作成します。
- ファイル名: pdfplaylistX.txt。「X」は再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7)。
例: pdfplaylist1.txt, pdfplaylist2.txt
 - 内容:



ステップ 2、pdfplaylistX.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/0/philips(DL、PL の場合)
例: /storage/emulated/0/philips/pdfplaylist1.txt

ステップ 3、内部ストレージの「Philips」フォルダにある「PDF」フォルダに PDF ファイルを追加します。

- 例: /storage/emulated/0/philips/pdf/xxx.pdf
/storage/emulated/0/philips/pdf/yyy.pdf
/storage/emulated/0/philips/pdf/zzz.pdf

ステップ 4、PDF リーダーアプリを起動すると、PDF リーダーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記:ユーザーが UI 上でプレイリストを更新すると、bookmarklist.txt ファイルも同時に更新されます。

メディアホットキー:

Play(再生):ファイルを再生します。

Pause(一時停止):一時停止します。

Fast forward(早送り):次のページにスキップします。ページがファイルの終了に近い場合は、次のファイルに移動します。

Rewind(巻き戻し):前のページに戻ります。ページがファイルの最初にある場合は、最後のファイルに移動します。

停止:ファイルの最初のページに戻ります。

矢印キー:

上 / 下 / 左 / 右:ページを調整します。(ページがズームイン / ズームアウトしているとき)

左:前のページに進みます。(ページがズームイン / ズームアウトしていないとき)

右:次のページに進みます。(ページがズームイン / ズームアウトしていないとき)

組み合わせキー:

数字キー +OK キー:特定のページを選択し、OK キーを押して、ページを変更します。

- 数字キーを押します。

- OK キーを押すと、ページ番号がページの下部に表示されます。ページ番号が合計ページ数を超えている場合、現在のページ番号はページの下部に表示されたままになります。

注:

2 つ以上の USB ディスクを接続してプレイリストを編集する場合、USB ストレージパスが変更される可能性があるため、電源のオン / オフ後にプレイリストからの再生は保証されません。プレイリストを編集するときは、USB ディスクを 1 つだけ使用することを強くお勧めします。

5.7. カスタムアプリ

カスタマーソースに対してアプリケーションを設定します。

注：

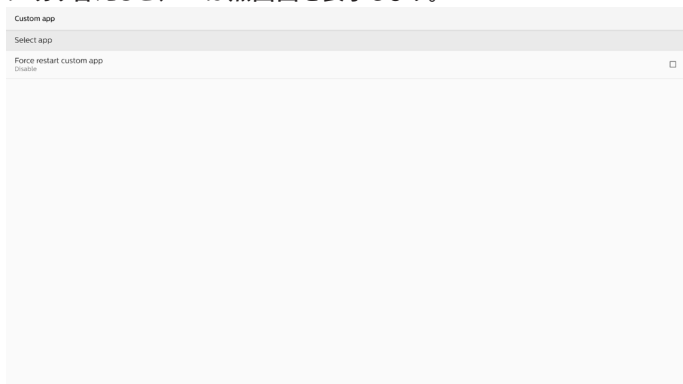
- (1) ユーザーがインストールしたアプリのみを表示します。
- (2) プリインストールされているシステムのアプリは表示されません。

5.7.1. OSD メニューの操作：

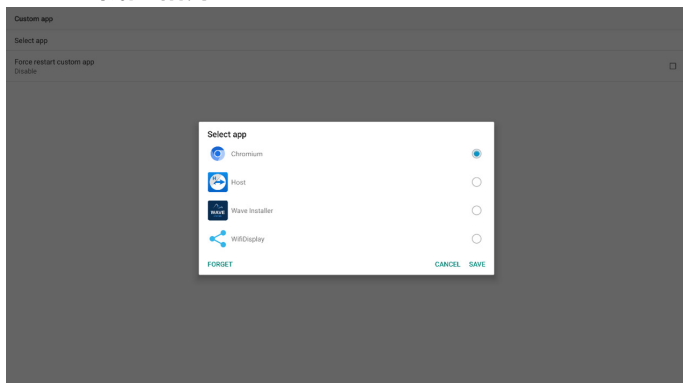
RCU:「Source(ソース)」>「Custom(カスタム)」

カスタマー APK を設定している場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD はカスタマーアプリを開きます。

カスタマー APK が設定されていない場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD は黒画面を表示します。



5.7.2. 機能紹介



保存

「保存」を押すと、保存が実行されます。

Forget

「削除」を押すと、以前に保存した情報を削除できます。

キャンセル

ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。

カスタマー APK がインストールされていない場合、一覧はブランクになります。

オプションが利用できない場合、「Save」と「Forget」キーはグレーで表示されます。

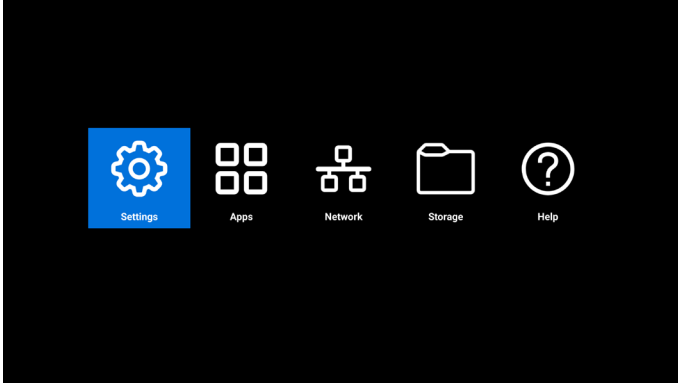
カスタムアプリの強制再起動

例外によりアプリが終了した場合、アプリが自動的に再起動します。

6. 設定

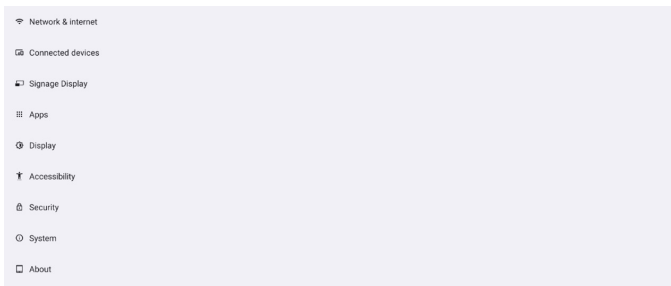
6.1. 設定

管理者モードで「Settings」アイコンをクリックして、PD 設定に入ります。

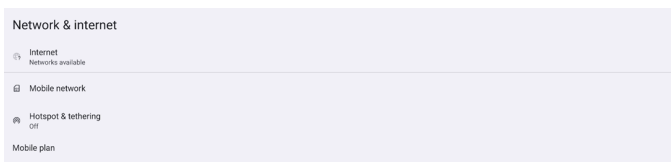


設定メニューは以下の項目で構成されています：

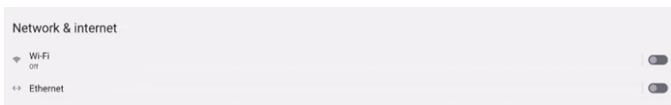
- (1) Network & Internet
- (2) Connected devices
- (3) Signage Display
- (4) Apps
- (5) Display
- (6) Accessibility
- (7) セキュリティ
- (8) System
- (9) About



6.1.1. Network & Internet (ネットワークとインターネット)



6.1.1.1. インターネット



6.1.1.1.1. Wi-Fi

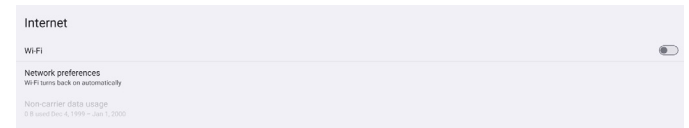
「Setting (設定)」→「Network & Internet (ネットワークとインターネット)」→「インターネット」→「Wi-Fi」

重要な注意事項: このオプションは、サポートされている Wi-Fi ドングルが接続されている場合にのみ使用できます。USB Wi-Fi ドングルを接続または取り外すたびに、デバイスを再起動してください。

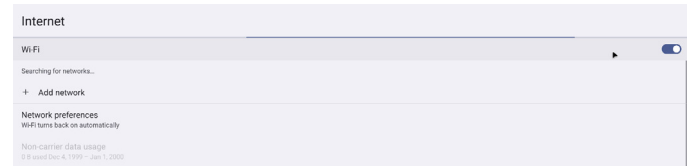
Wi-Fi を有効にする

「Setting (設定)」→「Network & Internet (ネットワークとインターネット)」→「インターネット」→「Wi-Fi」→「Off/On (オフ / オン)」トグルボタンのメインスイッチを使用して、Wi-Fi 接続を有効または無効にしてください。

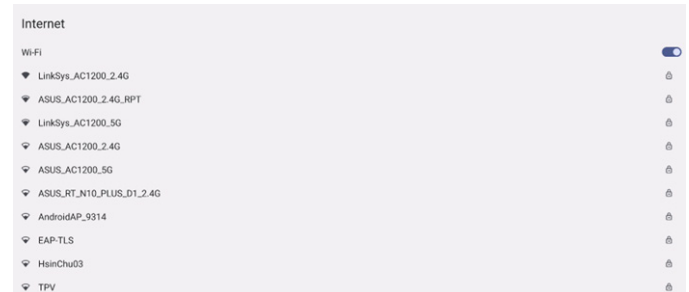
Wi-Fi オフ



Wi-Fi オン



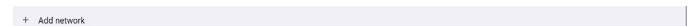
利用可能なネットワークリストで、既存のワイヤレスネットワーク上の AP (アクセスポイント) を選択します。



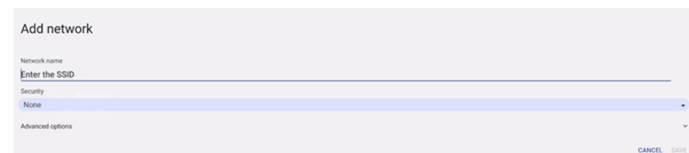
必要な設定を入力します。



リストの末尾に「ネットワークを追加」項目があります。ネットワークが表示されない場合は、「ネットワークを追加」を使用して非表示ネットワークに接続してください。



このネットワークのネットワーク名 (SSID) を入力し、セキュリティタイプとその他のアドバンスドオプションを選択する必要があります。

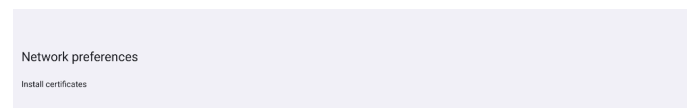


注：

Wi-Fi が有効な場合、イーサネットは自動的に無効になります。

ネットワーク設定

「Setting (設定)」→「Network & Internet (ネットワークとインターネット)」→「Wi-Fi」→「ネットワーク設定」



6.1.1.1.2. Ethernet

「Setting (設定)」→「Network & Internet (ネットワークとインターネット)」→「Internet (インターネット)」→「Ethernet (イーサネット)」

イーサネットを有効にする

「Setting (設定)」→「Network & Internet (ネットワークとインターネット)」→「Internet (インターネット)」→「イーサネット」のトグルボタンで、イーサネット接続を有効または無効にします。

システムはデフォルトで DHCP を使用してネットワークに接続します。接続情報 (オプションがグレー表示されている場合は、編集できません)。

- A. IP アドレス
- B. ネットマスク (Netmask)
- C. ゲートウェイ (Gateway)
- D. DNS 1
- E. DNS 2
- F. Ethernet MAC アドレス

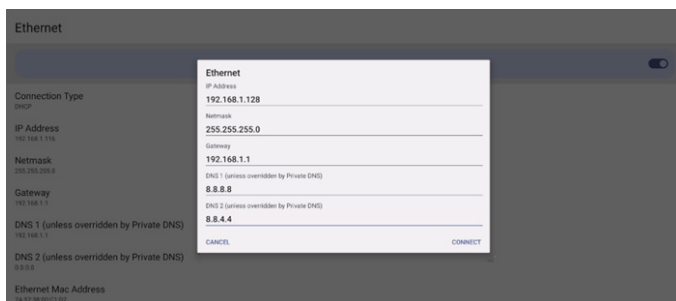


注:

イーサネット接続を有効にすると、Wi-Fi 接続は自動的に無効になります。

イーサネット 静的 IP (Static IP)

接続タイプを「静的 IP (Static IP)」に変更すると、ユーザーはイーサネットの IP アドレス、ゲートウェイ、ネットマスク、DNS 1/2 アドレスを手動で設定できます。



注:

- すべてのフィールドに、ドット区切りの 10 進表記 (ドットデシマル表記) で IPv4 アドレスを入力してください。この形式は、0 から 255 までの 4 つの 10 進数をドットで区切ったものです。

6.1.1.2. モバイルネットワーク

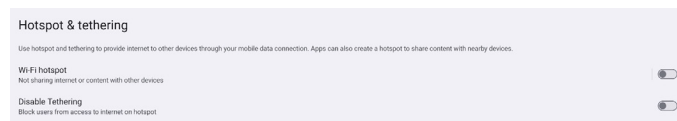
このオプションは、サポートされている 4G モジュールと SIM カードがデバイスに接続されている場合にのみ表示されます。システムは 4G モジュールのホットプラグをサポートしていません。4G モジュールを取り付ける前に、必ずシステムをシャットダウン (AC 電源をオフ) してください。その後、再度電源を入れてください。

「設定」→「ネットワークとインターネット」→「モバイルネットワーク」のメインスイッチを使用して、モバイルデータを有効にしてください。使用前に、SIM カードを SIM カードスロットに挿入する必要があります。

6.1.1.3. ホットスポットとテザリング

「設定」→「ネットワークとインターネット」→「ホットスポットとテザリング」

重要な注意事項: このオプションは、サポートされている Wi-Fi ドングルが接続されている場合にのみ表示されます。



6.1.1.3.1. Wi-Fi ホットスポット

「設定」→「ネットワークとインターネット」→「ホットスポットとテザリング」→

Wi-Fi ホットスポット

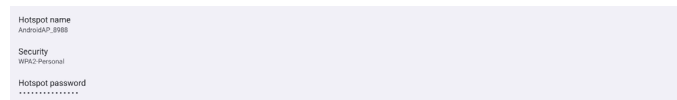


Wi-Fi ホットスポットを使用



これを有効にすると、Wi-Fi 接続が切断され、ホットスポット AP (アクセスポイント) として動作します。他の Wi-Fi クライアントデバイスがこの AP に接続し、ネットワークを共有できるようになります。「Wi-Fi ホットスポット」を有効にした際に、ユーザーは Wi-Fi ホットスポットの詳細情報を設定できます。

Wi-Fi ホットスポット情報を設定

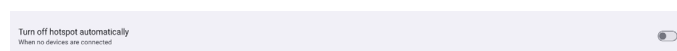


ホットスポット名: これは SSID であり、IEEE 802.11 仕様に準拠している必要があります。UTF-8 エンコーディングによる 0 ~ 32 オクテットの使用を推奨します。

セキュリティ: システムはホットスポットネットワーク用に「なし (NONE)」および「WPA2 PSK」のセキュリティプロトコルを提供します。「なし」よりも安全性の高い WPA2 PSK の使用を推奨します。

ホットスポットパスワード: デフォルトでは、他のクライアントが接続するためのパスワードがランダムに生成されます。ユーザーは手動で新しいパスワードを設定することもできます。

ホットスポットを自動的にオフにする



この機能を有効にすると、指定された時間内に接続されているデバイスがない場合、ホットスポットは自動的に無効になります。これにより、使用されていない状態でホットスポットが不必要にオンのままになることを防止します。

6.1.1.3.2. テザリングを無効にする

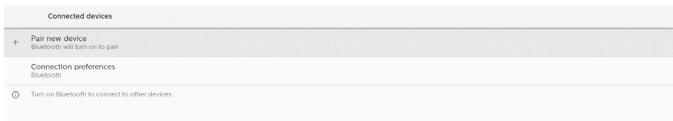
デフォルトでは、デバイスはモバイルデータを使用してネットワークにアクセスできます。

ホットスポット経由で可能です。このオプションを有効にすると、システムは

ホットスポットによるデバイスのネットワークアクセスをブロックします。

6.1.2. Connected devices (接続デバイス)

Bluetooth 経由で接続されているデバイスを表示します。



6.1.3. Signage Display (サイネージディスプレイ)

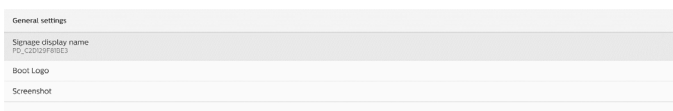
Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) で、サイネージディスプレイのほとんどの機能を設定します。サイネージディスプレイ設定に関する詳細情報については、以下をご覧ください。



6.1.3.1. General Settings (一般設定)

Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) → General Settings (一般設定)

サイネージディスプレイ名、ユーザーロゴ、およびスクリーンショットを設定します。



6.1.3.1.1. Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)

Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) → General Settings (一般設定) → Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)

サイネージ表示名を設定します。デフォルト名は、プレフィックス「PD_」が付いたイーサネット MAC アドレスです。たとえば、「PD_000b12223398」などとなります。名前の最大長は、UTF8 形式で 36 文字です。クリックして名前を変更します。

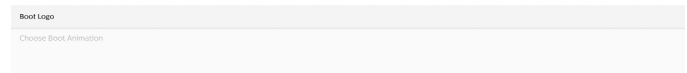


6.1.3.1.2. Boot Logo (ブートロゴ表示)

設定 > サイネージディスプレイ > 一般設定 > ブートロゴ

ユーザーは、OSD メニュー > 詳細設定 2 > ログが「ユーザー」モードに設定されている場合、デバイスの起動ロゴ (ブートアニメーション) を設定できます。

ログが「ユーザー」モードに設定されていない場合、ユーザーは使用者定義のブートアニメーションを選択できません。



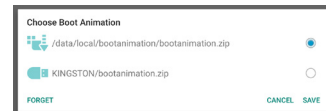
「ユーザー」モードに設定すると、「ブートアニメーションの選択」が利用可能になります。



ログが「ユーザー」モードに設定されている場合、システムはデフォルトの Philips ログを無効化し、ユーザーが選択したブートアニメーションファイルに置き換えます。ユーザーが「ユーザー」モード用のブートアニメーションファイルを設定しない場合、起動時にデフォルトの Philips ブートアニメーションが表示されます。

「ブートアニメーションを選択」をクリックすると、ユーザーがブートアニメーションファイルを選択できるダイアログが表示されます。システムは USB ストレージ内のファイルを自動的にスキャンします。

ブートアニメーションファイル名は「bootanimation.zip」に設定する必要があります。他の名前は無効です。



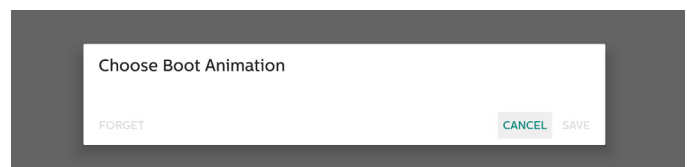
利用可能なすべてのブートアニメーションファイルは、以下のフォルダにあります。

1. /data/local/bootanimation/ フォルダ内のファイル:
USB からコピーされたブートアニメーションファイルです。
2. {USB_STORAGE_VOLUME_NAME}/ フォルダ内のファイル:
USB ストレージに保存されているブートアニメーションファイルです。

ダイアログオプション:

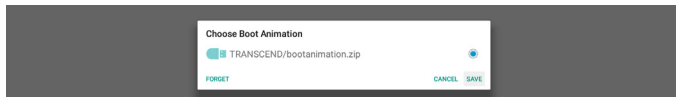
1. FORGET (削除)
/data/local/bootanimation/ にある「bootanimation.zip」をクリアします。
システム起動時にカスタムのブートアニメーションは使用されません。
2. キャンセル
ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。
3. 保存
選択したファイルを /data/local/bootanimation/ にコピーします。これにより、ユーザーは外部ストレージ (USB) を安全に取り外せます。システムは /data/local/bootanimation/ 内のブートアニメーションファイルを使用します。

外部ストレージ (USB) および /data 内に bootanimation.zip ファイルが見つからない場合、ファイル一覧は空になります。「保存」と「FORGET (削除)」ボタンはグレーアウトされます。ユーザーは USB メモリに保存されている内容を確認してください。「キャンセル」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じ、再度 USB メモリを接続してください。

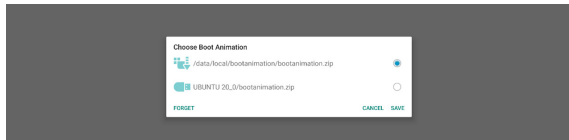


/data/local/bootanimation/ フォルダが空の場合は、ユーザーが以前に「bootanimation.zip」を保存していないことを意味します。システム起動時には、デフォルトの Philips ロゴが表示されます。

外部ストレージに「bootanimation.zip」が見つかった場合、ファイル一覧を表示するダイアログボックスが表示されます。



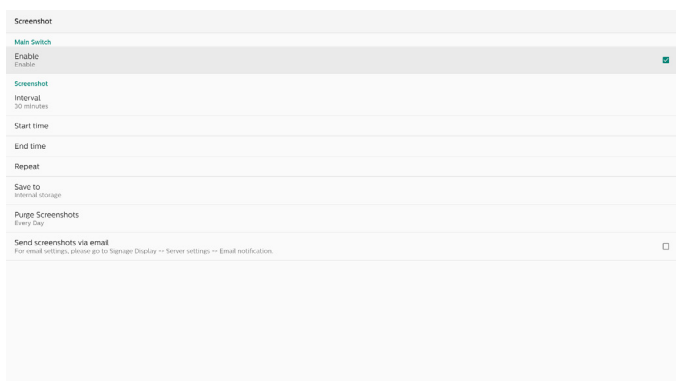
フォルダ「/data/local/bootanimation/」にファイル「bootanimation.zip」が存在する場合、ポップアップダイアログボックスにそのファイルが最初の選択肢として表示されます。これは、ユーザーが以前に「bootanimation.zip」ファイルをコピー（保存）しており、システムが /data/local/bootanimation/bootanimation.zip からブートアニメーションを使用して起動することを意味します。



「SAVE」ボタンを使用して、ブートアニメーションファイルを置き換えることができます。

6.1.3.1.3. Screenshot(スクリーンショット)

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → General Settings(一般設定) → Screenshot(スクリーンショット)
 インポートしたコンテンツからスクリーンショットをキャプチャするには、「Enable(有効)」をクリックして自動スクリーンショット機能を有効にしてください。スクリーンショットオプションがグレー表示されている場合は、スクリーンショット機能がまだ有効になっていません。



この機能を有効にした後、各スクリーンショット間の間隔時間、およびキャプチャされた画面が保存される保存先のフォルダを設定できます。「Save to(保存先)」オプションでは、スクリーンショット画像が内部ストレージに保存され、手動では変更できないことが通知されます。

メモ:

- 次の条件になった場合、スクリーンショット画像は自動的に削除されます。
 - スクリーンショット機能の開始時間が 0 秒に設定されている場合。
 - 各分の 40 秒にスクリーンショットを開始します。
 - スクリーンショットの写真を毎週削除することにした場合、写真削除データは、スクリーンショット機能の設定を適用した日に変更されます。たとえば、削除する日を毎週月曜日に設定し、金曜日にスクリーンショット機能で他の設定を変更した場合、削除日は金曜日(システムの現在時刻の日)に変更されます。
- スリープ(システムの一時的停止)機能とスクリーンショット機能: システムがスリープモードに入ると、スクリーンショット機能は一時的

停止されます。その結果、スクリーンショットをメール送信する機能は停止されます。システムがアクティブモードに入ると、スクリーンショット関連の機能が再起動します。

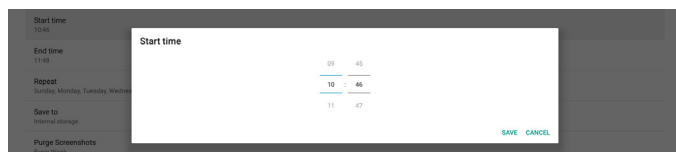
(1).Interval(間隔)

各スクリーンショット間の間隔時間を設定します。利用可能なオプションは 30 分と 60 分です。



(2).Start Time(開始時間)

スクリーンショット機能を開始する 1 日の開始時刻を設定します。ダイアログボックスを閉じる前に、必ず「Save(保存)」ボタンをクリックしてください。クリックしないと、設定は保存されません。開始時刻は終了時刻より前でなければなりません。無効な値を入力した場合は、エラーメッセージが表示されます。



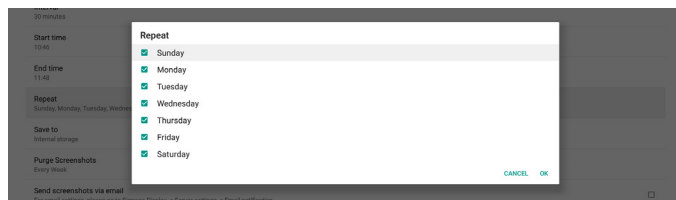
(3).End Time(終了時間)

スクリーンショット機能を終了する 1 日の終了時刻を設定します。ダイアログボックスを閉じる前に、必ず「Save(保存)」ボタンをクリックしてください。クリックしないと、設定は保存されません。開始時刻は終了時刻より前でなければなりません。無効な値を入力した場合は、エラーメッセージが表示されます。



(4).Repeat(繰り返し)

自動スクリーンショットの繰り返しモードを設定します。



(5).Save to(保存先)

画面イメージは、内部ストレージの「philips/screenshot」フォルダに保存されます。

(6).Purge Screenshots(スクリーンショットの消去)

スクリーンショット画像を消去する間隔を設定します。利用可能なオプションは「Every day(毎日)」と「Every week(毎週)」です。



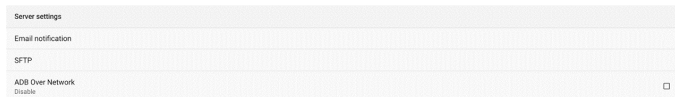
(7).電子メールでスクリーンショットを送信

各スクリーンショット画像を電子メールの添付ファイルとして送信できます。ユーザーは、まず「Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Server Settings(サーバー設定) → Email Notification(電子メール通知)」でメール情報を設定する必要があります(6.1.3.2.1. Email Notification)。



6.1.3.2. Server Settings(サーバー設定)

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Server Settings(サーバー設定)



6.1.3.2.1. Email Notification

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Server Settings(サーバー設定) → Email Notification(電子メール通知)

チェックボックスをクリックして、電子メール通知機能を有効または無効にします。電子メール通知機能を有効にした後、SMTP および管理者メールアドレスを設定します。



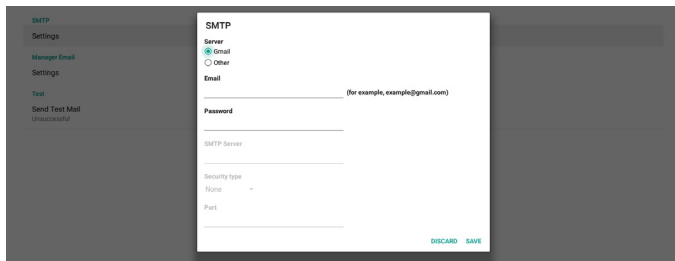
SMTP

送信者メールアドレスおよび SMTP サーバー情報を設定します。設定する次の2種類のSMTPサーバーがあります。GmailおよびOther(その他)。「Other(その他)」オプションを使用すると、SMTP サーバー、セキュリティタイプ、サーバーポートを手動で設定できます。

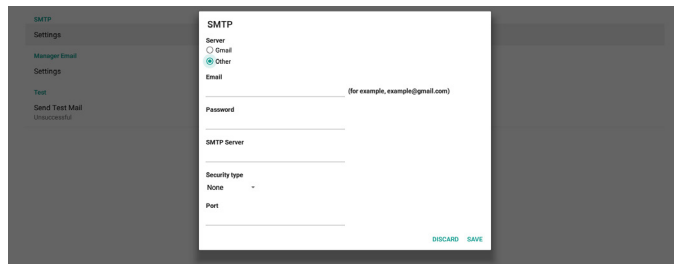
注：

1. パスワードは、6～20文字のUTF8形式にしてください。
2. ユーザーは、ポート5000(SICPデフォルトポート)およびポート2121(SFTPサーバーデフォルトポート)を設定することはできません。
SICPネットワークポートの設定は、「Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Network Application(ネットワークアプリケーション) → SICP Network Port(SICPネットワークポート)」で行ってください。
SFTPネットワークポートの設定は、「Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Server Settings(サーバー設定) → SFTP → Port(ポート)」で行ってください。

Gmail:(SMTPサーバー、セキュリティタイプ、およびポートはグレー表示されています)

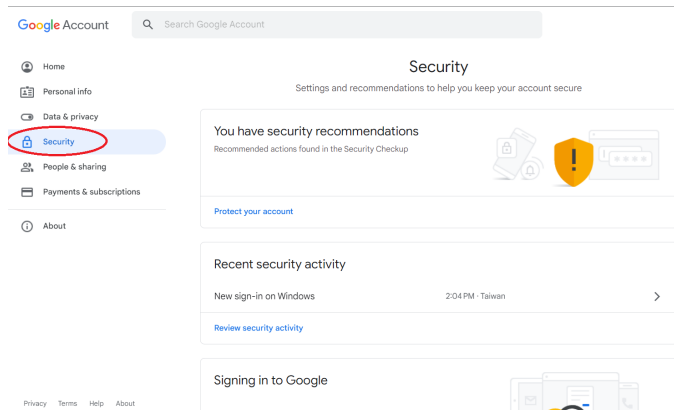


Misc.(その他)



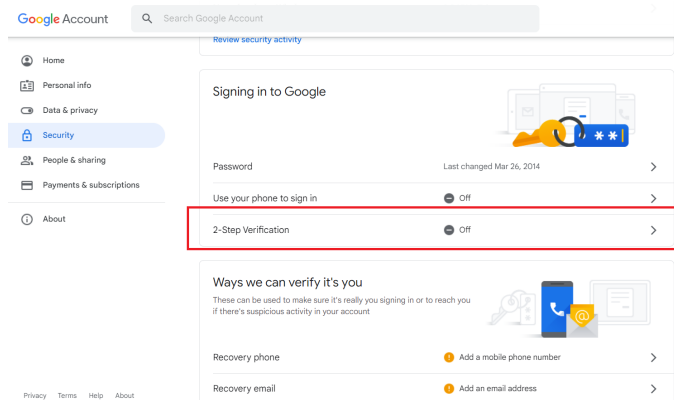
Gmail Security Settings (Gmail セキュリティ設定)

ブラウザを開き、Google アカウントにログインします。Web ページの左側または上部に表示される「Security(セキュリティ)」メニューをクリックします。



ステップ 1 - 「2-Step Verification(2段階認証)」を選択

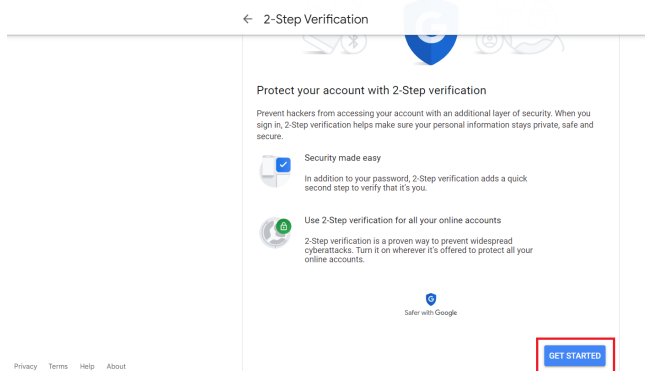
「2-Step Verification(2段階認証)」がオフの場合は、クリックして有効にします。



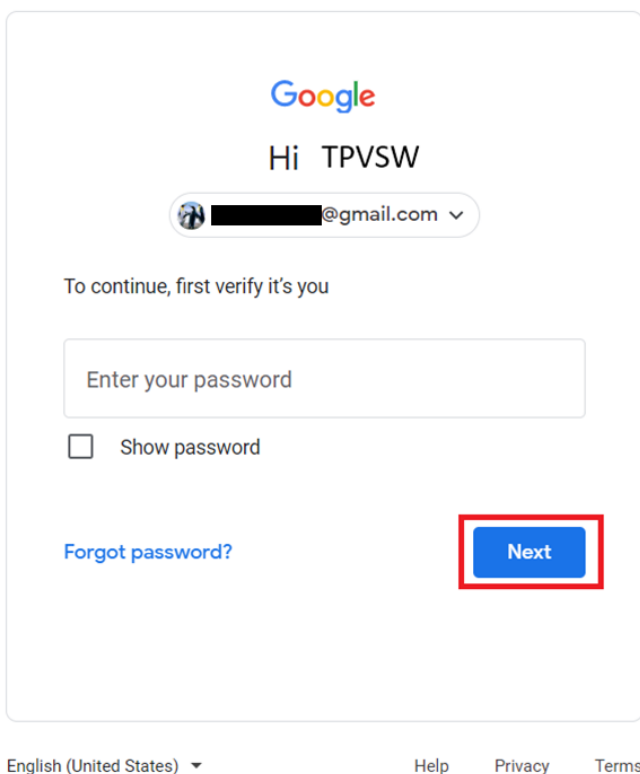
ステップ 2 - 2段階認証を構成

「GET STARTED(開始)」ボタンをクリックして、2段階認証オプションを構成します。

Google Account



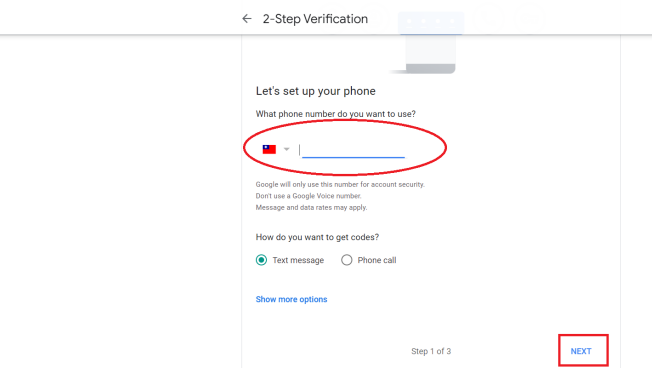
あなたの ID を確認するために、Google アカウントに再度ログインするよう指示される場合があります。



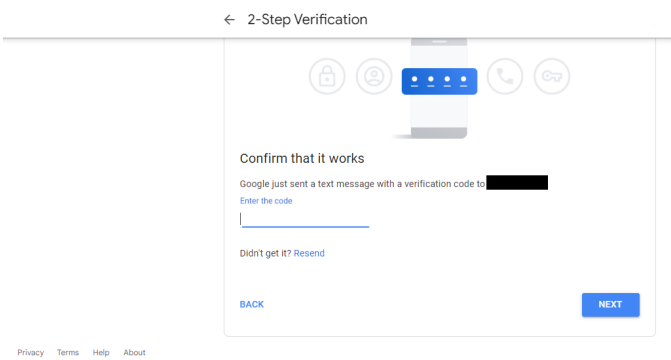
ステップ 3 - スマートフォンで構成を完了

画面上の指示に従って利用可能なオプションを使用し、スマートフォンで 2 段階認証を完了します。

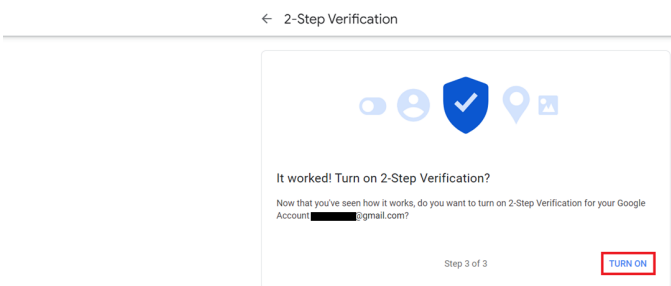
Google Account



Google Account

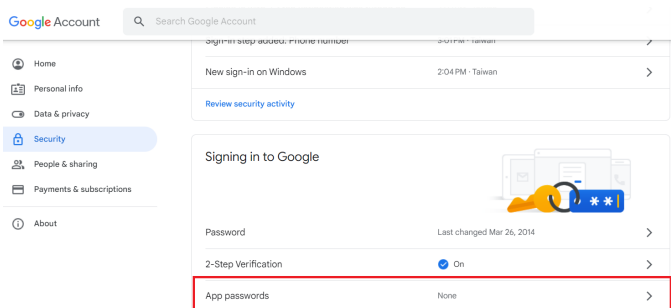


Google Account



ステップ 4 - アプリのパスワードを作成

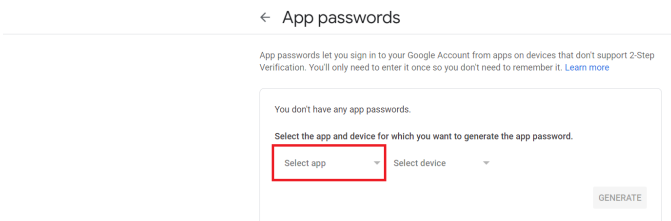
「App Password(アプリのパスワード)」オプションをクリックして、アプリの新規パスワードを作成します。



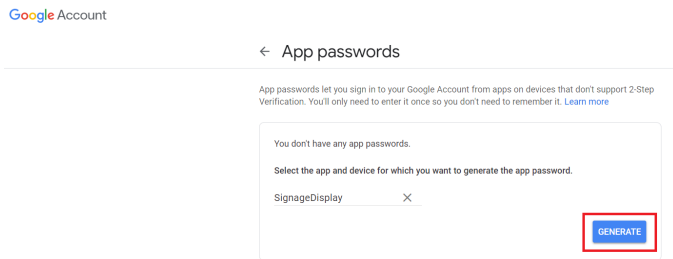
ステップ 5 - 新規アプリ名を追加

最初にデバイス(Windows コンピューターなど)を選択してから、「Select App(アプリの選択)」メニューをクリックして「Other (custom name)(その他(カスタム名))」をクリックします。

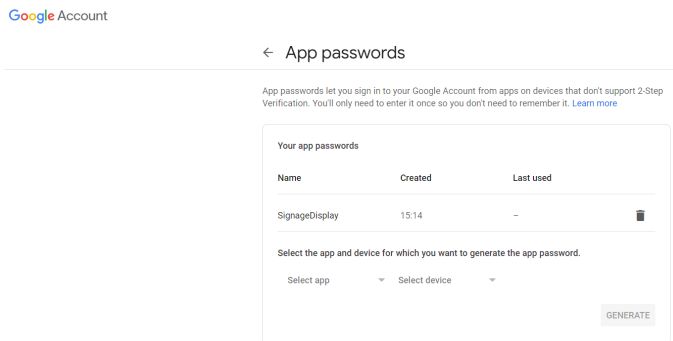
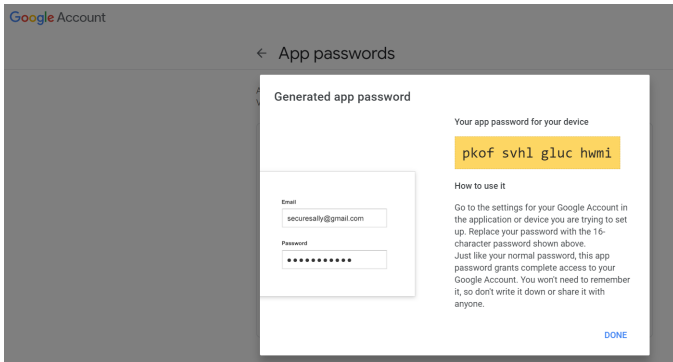
Google Account



カスタムのアプリケーション名を入力します(このフィールドには任意の名前を入力できます)。「Generate(生成)」ボタンをクリックします。(例:「SignageDisplay」をアプリ名として入力)

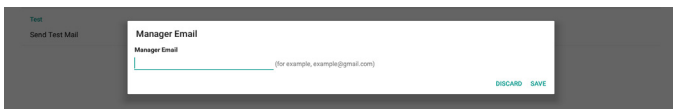


自動生成されたアプリのパスワードを保存するか、選択してクリップボードにコピーし、後で使用できるようにします。



管理者メールアドレス

電子メールを受信する宛先アドレスを指定します。

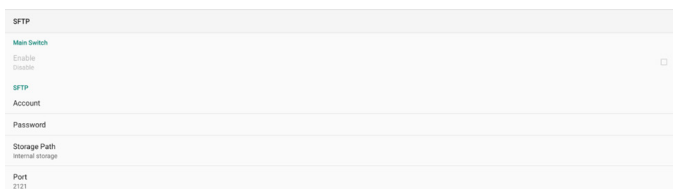


Test(テスト)

電子メールの設定が正しいかどうかを確認するには、「Send Test Mail(テストメールを送信)」を選択してテストメールを送信します。

6.1.3.2.2. SFTP

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Server Settings(サーバー設定) → SFTP



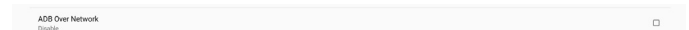
チェックボックスをクリックして、SFTP サーバー機能を有効または無効にします。この機能を有効にした後、アカウント、パスワード、およびポート番号を設定できます。

- (1).Account(アカウント):SFTP サーバーにログインするためのユーザー名の長さは、4 ~ 20 文字です。英数字(a-z、A-Z、0-9)のみを使用できます。
- (2).Password(パスワード):SFTP サーバーにログインするためのパスワードは 6 ~ 20 文字で、英数字(a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)のみを使用してください。パスワードを設定すると、アスタリスクで表示されます。
- (3).Storage path(ストレージパス):FTP サーバーは、内部ストレージにのみアクセスします。ストレージパスは変更できません。
- (4).Port(ポート):FTP サーバーのポート番号の範囲は、1025 ~ 65535 です。デフォルトは 2121 に設定されています。次のポート番号は使用できません:
8000/9988/15220/28123/28124 および SICP ネットワークポート(デフォルト 5000)。

最後に、システムを手動で再起動して SFTP 設定を適用します。

6.1.3.2.3. ADB over Network(ADB オーバーネットワーク)

ポート 5555 のネットワーク接続を介して ADB にアクセスできます。



6.1.3.3. Source Settings (ソース設定)

設定 → サイネージディスプレイ → ソース設定

ユーザーは、ソース APK の詳細オプションを設定できます。



6.1.3.3.1. メディアプレーヤー

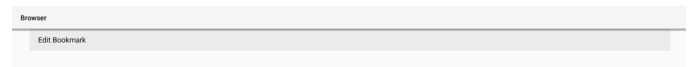
設定 → サイネージディスプレイ → ソース設定 → メディアプレーヤー
メディアプレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティおよびエフェクト設定編集アクティビティを開きます。



6.1.3.3.2. ブラウザー

設定 → サイネージディスプレイ → ソース設定 → ブラウザー

ブラウザー APK のブックマークエディターのアクティビティを開きます。



6.1.3.3.3. PDF プレーヤー

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Source Settings(ソース設定) → PDF Player(PDF リーダー)

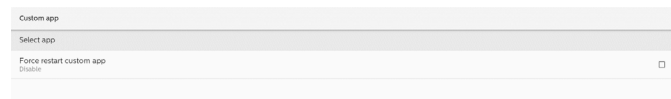
PDF プレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティおよびエフェクト設定編集アクティビティを開きます。



6.1.3.3.4. カスタムアプリ

「Settings(設定)」→「Signage Display(サイネージディスプレイ)」→「Source Settings(ソース設定)」→「Custom app(カスタムアプリ)」の順にアクセスします。

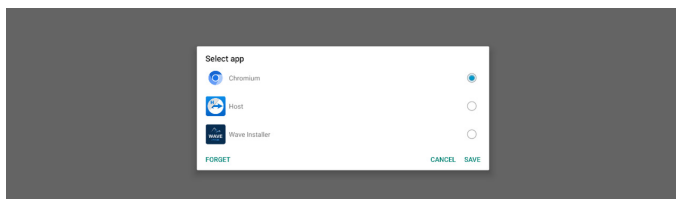
ユーザーはカスタマーソース用の APK を設定できます。選択された APK は、入力ソースをカスタマーモードに切り替える際に起動されます。カスタマーソース用の APK が設定されていない場合、入力ソースをカスタマーモードに切り替えると、システムは黒い画面を表示します。



カスタムソース用の APK が設定されている場合、その APK 名が表示されます。設定されていない場合は、カスタムアプリが設定されていないことを意味します。

Select App(アプリの選択)

カスタムアプリソース用特定のアプリを選択します。



注：

システムによりプリインストールされた APK は一覧に表示されません。ユーザーが手動でインストールした APK のみが一覧に表示されます。

(1).FORGET(削除)ボタン

カスタムソースアプリケーションを消去します。カスタマーソースアプリケーションが設定されていない場合、グレー表示になります。

(2).CANCEL(キャンセル)ボタン

変更を保存せずに終了します。

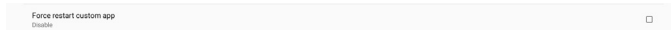
(3).SAVE ボタン

「Save」ボタンをクリックして、APS をカスタムソースアプリケーションとして選択します。選択可能なアプリケーションがない場合は、このボタンはグレーアウトされます。

カスタムアプリの強制再起動

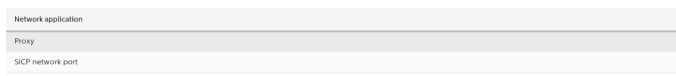
この機能が有効になっている場合、システムはカスタムアプリの状態を監視します。カスタムアプリが存在せず、「ソース起動」が「カスタムアプリ」に設定されている場合、システムはカスタムアプリの再起動を試行します。

デフォルト設定は無効です。



6.1.3.4. Network Application (ネットワークアプリケーション)

サイネージディスプレイ



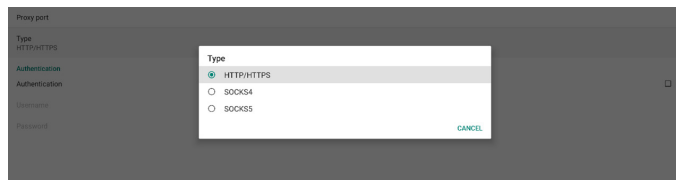
6.1.3.4.1. Proxy(プロキシ)

サイネージディスプレイ

「有効」チェックボックスをクリックしてプロキシサーバーを有効にします。ユーザーはプロキシサーバーのホスト IP およびポート番号を設定できます。デフォルト設定は「無効」です。



システムは次のプロキシタイプをサポートしています: HTTP/HTTPS、SOCKS4、および SOCKS5。プロキシサーバー用にいずれかを選択してください。



プロキシサーバーから認証が要求された場合は、「認証」チェックボックスをクリックし、ユーザー名とパスワードを入力してください。



6.1.3.4.2. SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

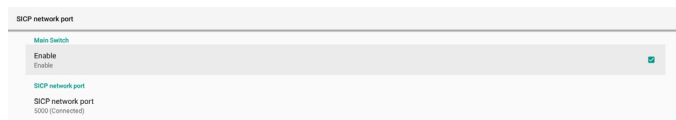
Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Network Application(ネットワークアプリケーション) → SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

SICP デフォルトポートを設定し、ネットワーク SICP を有効または無効にします。デフォルトの SICP は有効で、ポート 5000 を使用します。

注：

ポート番号は、1025 ~ 65535 の範囲です。

次のポートはすでに占有されており、割り当てることはできません: 8000、9988、15220、28123、28124。デフォルトの FTP ポートは 2121 です。

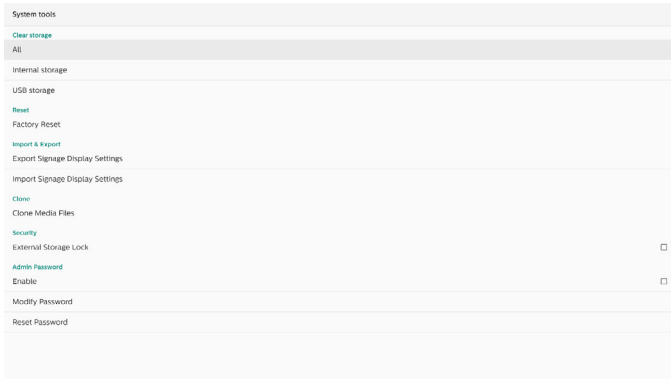


6.1.3.5. System tools (システムツール)

Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) → System Tools (システムツール)

サイネージディスプレイのシステムツールには、6 つの主要機能があります。

- (1). Clear Storage (ストレージの消去)
- (2). リセット
- (3). Import & Export (インポートおよびエクスポート)
- (4). Clone (複製)
- (5). セキュリティ
- (6). Admin Password (管理者パスワード)



6.1.3.5.1. Clear Storage (ストレージの消去)

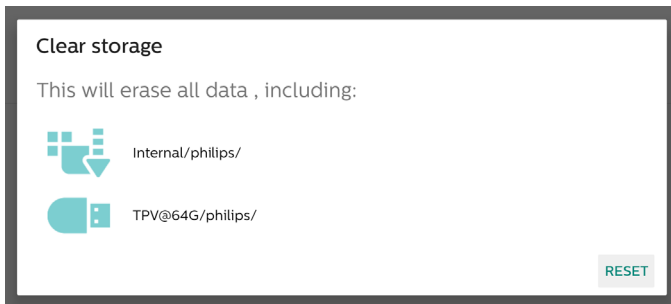
Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) → System Tools (システムツール) → Clear Storage (ストレージの消去)



内部および外部ストレージの {storage}/philips/ フォルダ以下のデータを消去します。

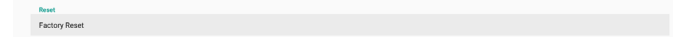
- (1). すべて
内部ストレージおよび USB から「Philips」フォルダを消去します。
- (2). 内部ストレージ
内部ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。
- (3). USB ストレージ
USB ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。

ダイアログボックスに、システムが消去対象とするすべてのフォルダが一覧表示されます。「リセット」を押すと、一覧表示されたフォルダ以下のすべてのデータが消去されます。何も行わずに終了する場合は、「戻る」キーを押してください。



6.1.3.5.2. リセット

「Settings (設定)」 → 「Signage Display (サイネージディスプレイ)」 → 「System Tools (システムツール)」 → 「Reset (リセット)」の順にアクセスします



「Factory Reset (工場出荷時の設定にリセット)」を使用して、すべてのユーザーデータおよび設定を消去します。完了後、システムは自動的に再起動し、OOBE にジャンプします。

この機能により、すべてのユーザーデータおよび設定を消去できます。処理完了後、システムは自動的に再起動し、OOBE に移行します。

重要な注意事項:

1. 内部ストレージに保存されたデータのみが消去され、復元できません。該当データには、デバイス設定、インストール済みアプリ、アプリのデータ、ダウンロードファイル、音楽、写真、および「/data」以下のすべてのデータが含まれます。ただし、USB に保存されたデータは消去されません。
2. 工場出荷時の設定へのリセット処理中は、常に AC アダプターおよび電源が接続されていることを確認してください。画面に OOBE が表示された後でのみ、電源をオフにしてください。



「Factory Reset (工場出荷時の設定にリセット)」をクリックして工場出荷時の設定にリセットを実行してください。ダイアログボックスが表示されたら、「OK」を押して確定してください。この操作により内部ストレージ内のすべてのデータが消去され、復元できなくなります。



6.1.3.5.3. Import & Export (インポートおよびエクスポート)

Settings (設定) → Signage Display (サイネージディスプレイ) → System Tools (システムツール) → Import & Export (インポートおよびエクスポート)



この機能を使用すると、他のデバイスとの間で設定およびサードパーティの APK をインポートまたはエクスポートできます。以下の点にご注意ください。

- (1). データは {ストレージ}/philips/clone フォルダ内の BDL5050D-clone.zip ファイルにエクスポートされます。
- (2). 古いクローンファイル方式をサポートしており、ファイルを {ストレージ}/philips/sys_backup フォルダ内に配置してください。
AndroidPDMediaPlayerData.db
AndroidPDPdfData.db
menu_settings.db
settings_global.xml
settings_secure.xml
settings_system.xml
signage_settings.db
なお、最新のエクスポートでは、すべてのファイルが ZIP ファイルにアーカイブされます。
- (3). 「Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)」はインポート / エクスポートされません。

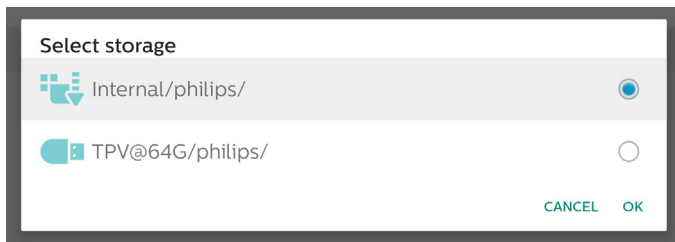
Export Signage Display Settings (サイネージディスプレイ設定のエクスポート)

システムは、データベースデータとサードパーティの APK を、選択したストレージ (内部ストレージ、USB ストレージ) の {storage}/philips/clone/BDL5050D-clone.zip ファイルにエクスポートします。

注：

選択したストレージ(内部ストレージ、USB 外部ストレージ)に philips フォルダが存在しない場合、システムは自動的にそのフォルダを作成します。

利用可能なすべてのストレージの一覧(内部ストレージおよび USB ストレージ)：

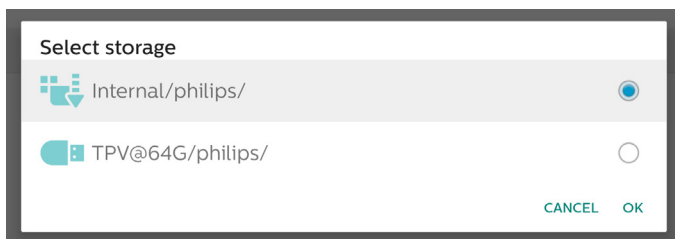


サインページディスプレイ設定のインポート

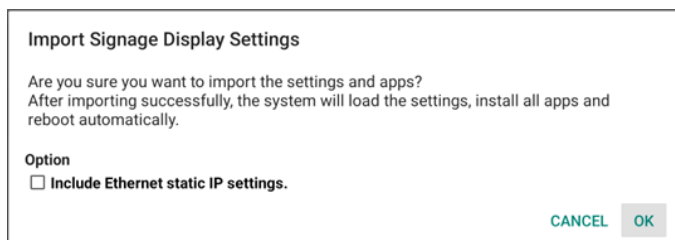
選択したストレージ(内部ストレージまたは USB ストレージ)の philips/clone/BDL5050D-clone.zip ファイルからデータベースデータをインポートします。システムは ZIP ファイル内の以下のデータをインポートします：

- (1).BDL5050D-clone.zip にデータベースをインポートする
- (2).サードパーティの APK を BDL5050D-clone.zip にインポートする
- (3).BDL5050D-clone.zip にスケーラー OSD 設定をインポートする

利用可能なすべてのストレージの一覧(内部ストレージおよび USB ストレージ)：



設定および APK のインポート前に確認ダイアログボックスが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、データのインポートを開始します。

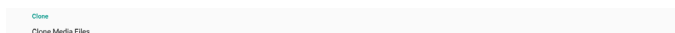


追加の注：

「イーサネットの静的 IP 設定を含める」をチェックすると、インポート後にデータベースからイーサネットの静的 IP 設定がインポートされます。チェックを外した場合、ネットワークの状態はインポート前と同じままになります。

6.1.3.5.4. Clone(複製)

Signage Display(サインページディスプレイ)



Clone Media Files(メディアファイルの複製)

この機能を使用すると、選択したソースストレージからターゲットストレージにメディアファイルを複製できます。

システムクローンファイルは以下のフォルダーにあります：

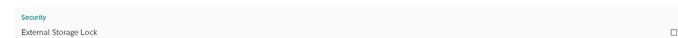
philips/photo
philips/music
philips/video
philips/pdf
philips/browser

6.1.3.5.5. セキュリティ

サインページディスプレイ

External Storage Lock(外部ストレージロック)

チェックボックスをクリックして、外部ストレージ(SD カードおよび USB ストレージ)をロックまたはロック解除します。デフォルトはロック解除です。

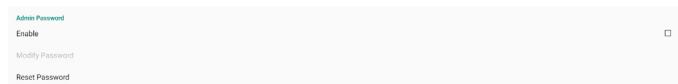


注：

外部ストレージのロックを無効にして有効状態にする場合は、外部ストレージ(USB ストレージの場合)を一度抜いてから再度接続してください。その後、システムが外部ストレージを再検出できるようになります。

6.1.3.5.6. Admin Password(管理者パスワード)

セキュリティを向上させ、米国および EU の規制に準拠するため、デフォルトパスワードの使用を廃止し、ユーザー自身によるパスワード作成を必須とします。



有効

「Enable(有効)」チェックボックスがオフになっている場合は、パスワードが空であることを意味します。

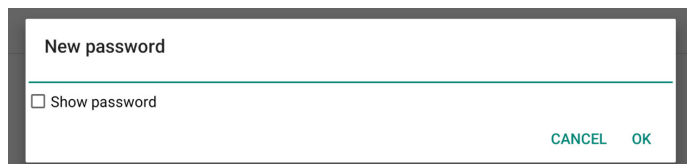
チェックボックスをクリックして、新しいパスワードを入力できます。

注：

パスワード規則は 6 桁で、連続した数字や繰り返しの数字は使用できません。

例：112233、123457、654322(使用可)

123456、111111、654321(不可)



(1)オフ：無効。

(2)オン：有効。

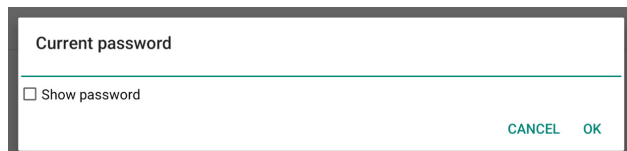
注：

有効にした後は、管理者モードにログインする際にパスワードが必要になります。

Modify Password(パスワードの変更)

ユーザーは管理者モードにログインするためのパスワードを変更できます。以下の手順に従ってください。

(1).まず現在のパスワードを入力してください。



現在のパスワードが正しくない場合、「Incorrect password(パスワードが違います)」というトーストメッセージが表示されます。

(2).新しいパスワードを入力してください。

(3).新しいパスワードを再度入力します。

再度入力した新しいパスワードが一致しない場合は、再度入力してください。

パスワードの変更が成功すると、Android トーストメッセージ「Successful(成功)」が表示されます。

Reset password(パスワードのリセット):

「Settings(設定)」→「Signage Display(サイネージディスプレイ)」→「System Tools(システムツール)」→「Admin Password(管理者パスワード)」→「Reset password(パスワードのリセット)」の順にアクセスします。

6.1.3.6. Misc.(その他)

TeamViewer support(TeamViewer のサポート)

チェックボックスをクリックして、TeamViewer support(TeamViewer のサポート)を有効または無効にします。TeamViewer は、管理モードを開くための仮想 HOME キーを送信します。デフォルトは有効です。

TeamViewerHost および TeamViewerQSAddOn の APK は、システムに自動的にインストールされます。「TeamViewer のサポート」を無効にした場合、これらはシステムから削除されます。

「TeamViewer support(TeamViewer のサポート)」が有効な場合、以下の 2 つの APK が「Settings(設定)」→「Apps(アプリ)」に表示されます。

ロギングを有効にする

チェックボックスでロギングを有効または無効にします。

有効にすると、PD は Android の logcat ログおよびカーネルメッセージの記録を開始し、USB ストレージまたは内部ストレージに自動的に保存します。USB ストレージが優先されます。PD に USB デバイスが接続されていない場合は、すべてのデータが内部ストレージに保存されます。

保存先のパスは、{USB ストレージのルートディレクトリ}/philips/Log/{model name}-Log-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss} です。

または

{内部ストレージのルートディレクトリ}/philips/Log/{model name}-Log-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}

ロギングを無効にすると、すべてのデータは {USB ストレージのルートディレクトリ}/philips/Log/{model name}-Log-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}.zip に保存されます。

または

{内部ストレージのルートディレクトリ}/philips/Log/{model name}-Log-{yyyy-MM-dd-HH-mm-ss}.zip

4K を有効にする

チェックボックスを使用して、ディスプレイ解像度を 4K@30 または 1080P に変更します。

WAVE → WAVE リモートスクリーンショット

チェックボックスで WAVE リモートスクリーンショットを有効または無効にします。

有効にすると、PD はカスタムインテント経由でスクリーンショットを許可します。

6.1.3.7. ソフトウェアアップデート

Local update(ローカルアップデート)

設定 → サイネージディスプレイ → システムアップデート → ローカルアップデート

システムは、USB ディスクのルートディレクトリまたは内部ストレージのルートディレクトリにある「update.zip」または「combofw.zip」ファイルを自動的に検索します。「update.zip」または「combofw.zip」のいずれかが見つかった場合、ユーザーが更新に使用するファイルを選択できる一覧が表示されます。

(1).「update.zip」

一覧からファイルを選択すると、システムは再起動し、システム更新を実行します。Android のダウングレードはサポートされていません。

(2).「combofw.zip」

一覧からファイルを選択すると、システムはまずスケーラー FW の更新を開始し、再起動後に自動的に Android システムの更新を開始します。「combofw.zip」ファイルには以下の 2 つの構造があります。

1. 「update.zip」+「PHL_{model name}_JP.bin」。
2. 「update.zip」+「{multi-size scaler}.zip」または「update.zip」+「{multi-size scaler}.7z」。

注:

1. 更新処理中はシステムの電源をオンにしておき、電源アダプタを抜かないでください。

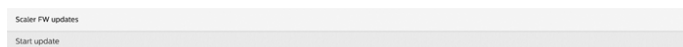
- 現在のシステムは、Android のフルアップデートのみをサポートします。
- 更新ファイルの名前は、「update.zip」または「combofw.zip」のいずれかにしてください。
- 「update.zip」または「combofw.zip」ファイルは、外部ストレージまたは内部ストレージのルートフォルダに配置してください。

6.1.3.8. スケーラー FW アップデート

アップデートを開始

Settings(設定) → Signage Display(サイネージディスプレイ) → Scaler FW updates(スケーラー FW アップデート) → Start update(アップデートを開始)

システムは、USB ディスクのルートフォルダまたは内部ストレージのルートにある「PHL_{model name}_JP.bin」を自動的に検索します。見つかった場合、ユーザーが更新に使用するファイルを選択できる一覧がポップアップ表示されます。



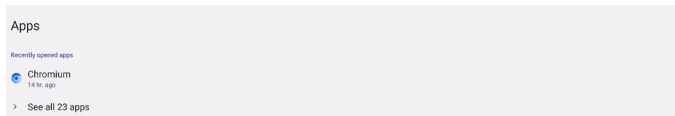
一覧からファイルを選択すると、システムは再起動し、スケーラー FW の更新を実行します。

以下に注意してください。

スケーラー FW の更新中は、システムの電源を維持してください。電源アダプタを抜かないでください。

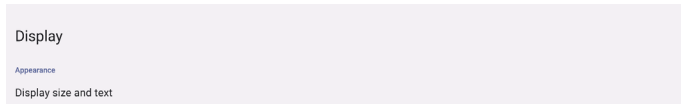
6.1.4. Apps(アプリケーション)

インストール済み APK の情報を表示します。



6.1.5. ディスプレイ

Settings(設定) → Display(ディスプレイ)



6.1.5.1. ディスプレイサイズとテキスト

6.1.5.1.1. Font Size(フォントサイズ)

Settings(設定) → Display(ディスプレイ) → Display size and text(ディスプレイサイズとテキスト) → Font Size(フォントサイズ)

スライダーを移動して、画面上のテキストを小さくまたは大きくします。



6.1.5.1.2. ディスプレイサイズ

Settings(設定) → Display(ディスプレイ) → Display size and text(ディスプレイサイズとテキスト) → Display size(ディスプレイサイズ)

スライダーを移動して、レイアウトやテキストを含む画面上の UI を小さくまたは大きくします。



6.1.6. アクセシビリティ

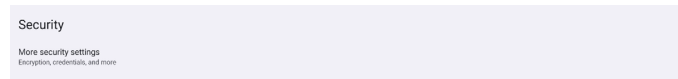
アクセシビリティサービスは、障害を持つユーザーや、特殊ニーズを抱えるユーザーが Android デバイスをもっと楽に操作できるよう支援するアプリです。

「Downloaded apps(ダウンロード済みアプリ)」メニューで、デバイスにインストールされているすべてのアクセシビリティアプリが表示されます。必要に応じて有効または無効にすることができます。また、リストでアクセシビリティアプリの名前をタップすると、各アプリの設定にアクセスできます。

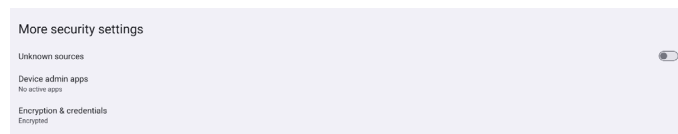


6.1.7. セキュリティ

Security(セキュリティ)



6.1.7.1. More security settings(その他のセキュリティ設定)



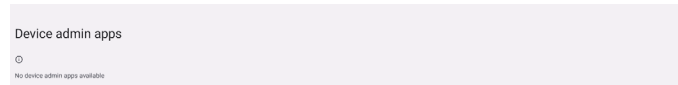
6.1.7.1.1. Unknown Sources(不明なソース)

Android で不明なソースからアプリのインストールを許可します。

6.1.7.1.2. Device Admin Apps(デバイス管理アプリ)

Security(セキュリティ)

管理者関連の操作と制御をサポートするアプリを一覧表示します。

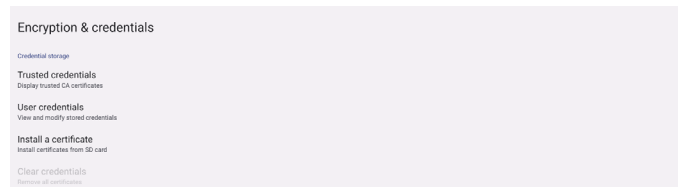


6.1.7.1.3. 暗号化と資格情報

Security(セキュリティ)

これにより、デバイスにインストールされているすべての信頼済み証明書の一覧が表示されます。

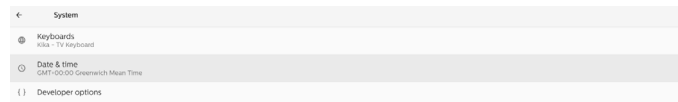
ユーザーは、自分で証明書をインストールまたはアンインストールできます。



6.1.8. System(システム)

System(システム)」に記載されています。

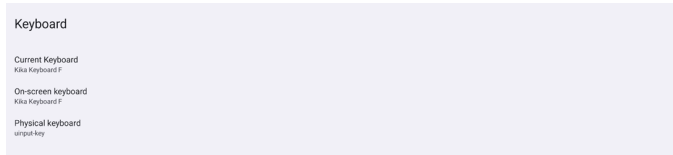
- (1). Keyboards(キーボード)
- (2). 日付と時刻
- (3). Developer Options(デベロッパーオプション)



6.1.8.1. Keyboards(キーボード)

設定 → システム → キーボード

ユーザーは IME およびキーボードの設定を変更できます。



Current Keyboard(現在のキーボード)

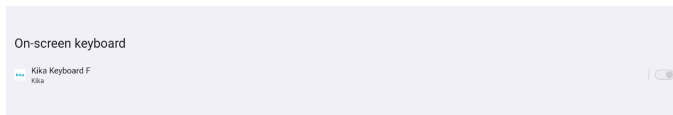
入力方法を選択します。



On-Screen keyboard(オンスクリーンキーボード)

ユーザーがデフォルトのソフトウェア IME(仮想キーボード)を設定し、詳細な IME 設定を制御できるようにします。

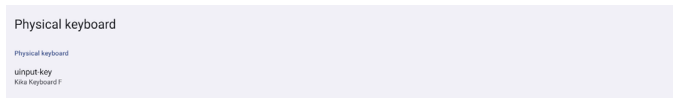
OOBE でユーザーが日本語を選択すると、日本語 IME が自動的にインストールされます。



Physical Keyboard(物理キーボード)

設定 → システム → キーボード → Physical Keyboard(物理キーボード)

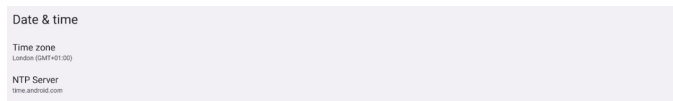
ユーザーが物理キーボードおよび詳細なキーボード設定を制御できるようにします。



6.1.8.2. 日付と時刻

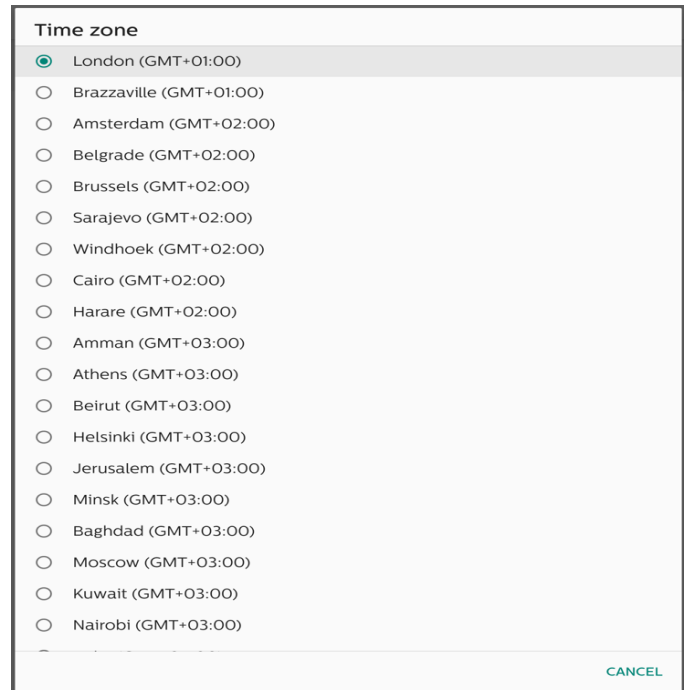
設定 → システム → 日付と時刻

ユーザーはタイムゾーンおよび NTP サーバーを変更できます。



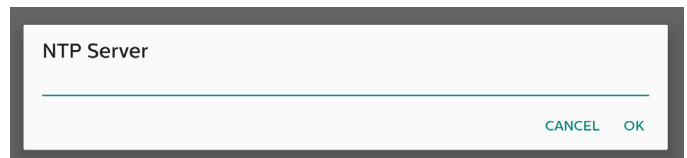
タイムゾーン

ユーザーがタイムゾーンを選択できるようにします。



NTP サーバー

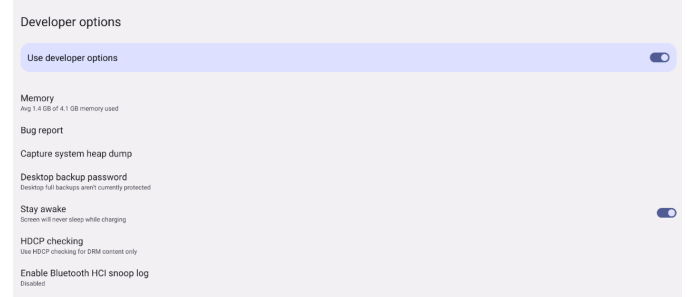
ユーザーが表示されるダイアログで NTP サーバーを編集できるようにします。



6.1.8.3. Developer Options(デベロッパーオプション)

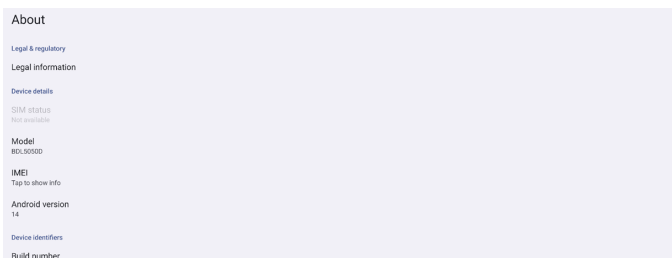
Settings (設定) → System(システム) → 開発者向けオプション

開発者向けの Android 開発者向けオプションです。デフォルトではオンになっており、USB デバッグもデフォルトでオンになっています。



6.1.9. About

Settings (設定) → About

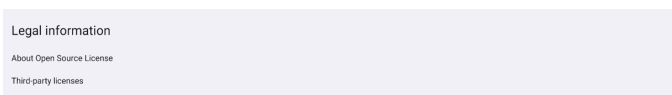


About ページには以下の情報が表示されます。

- (1).Legal Information(法的情報)
- (2).SIM ステータス
- (3).Model(モデル)(このデバイスのモデル名)
- (4).IMEI
- (5).Android version(Android バージョン)
- (6).Build number(ビルド番号)(リリースバージョン)

6.1.9.1. Legal Information(法的情報)

ここにすべてのオープンソースプロジェクトの法的情報およびライセンスを一覧表示します。

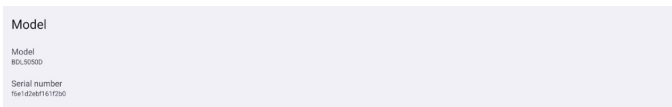


6.1.9.2. SIM ステータス

デバイスに 4G モジュールおよび SIM カードを装着している場合の SIM ステータスを一覧表示します。

6.1.9.3. モデル

モデル名およびシリアル番号を一覧表示します。

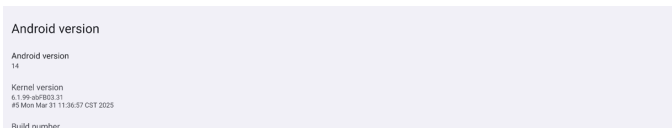


6.1.9.4. IMEI

デバイスに 4G モジュールを装着している場合の IMEI を一覧表示します。

6.1.9.5. Android version(Android バージョン)

Android オペレーティングシステムのリリース(アップデートおよびバージョンを含む)を一覧表示します。



6.1.9.6. ビルド番号

サイネージディスプレイのファームウェアバージョンを一覧表示します。

6.2. 補足

6.2.1. クイック情報

「Info + 77」を押すと、クイック情報が起動します。

クイック情報には、「Network (ネットワーク)」と「Monitor Information (モニターインフォメーション)」が表示されます。

注:

動作時間: 1 分ごとに更新されます。

Heat status (温度状態): 5 秒毎に更新されます。



6.2.2. Android ブートアニメーションをカスタマイズする方法

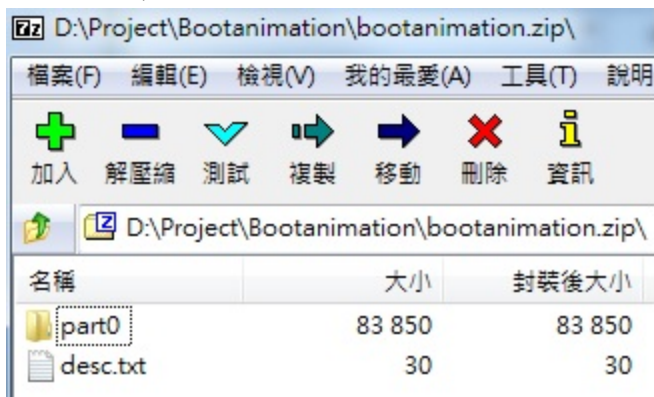
1. 概要

Android ブートアニメーションは、デバイスの起動時に PNG ファイルの読み込みに使用されるスクリプトです。「bootanimation.zip」という名前の展開された zip ファイルに含まれています。

2. bootanimation.zip ファイルの内訳

bootanimation.zip の構成は次のとおりです:

- イメージフォルダ (連番で命名された PNG 画像を含む)
- desc.txt ファイル



(1) イメージフォルダ

このフォルダには、0000.png または 0001.png などから始まり、1 ずつ増加する連番で命名された PNG 画像が含まれます。フォルダの最小数は 1 つで、最大数は無制限です。

(2) desc.txt ファイル

このファイルは、起動アニメーション中にフォルダ内の画像がどのように表示されるかを、以下の形式で定義します。

- 幅 高さ フレームレート
- モード ループ 遅延時間 フォルダ 1
- モード ループ 遅延時間 フォルダ 2

desc.txt ファイルの一例:

- 1920 1080 30
- p 1 0 part0
- p 0 0 part1
- a. 1 行目

1920 と 1080 は画面解像度の幅と高さを定義しています。

30 は fps 単位のフレーム率(フレーム / 秒)、つまり 1 秒あたりに表示される画像の枚数です。

b. 2 行目と 3 行目は同じ形式です。

最初の「p」は、起動プロセスが完了すると、再生モードが直ちに停止することを意味します。

「p」の隣の数字は、繰り返しモードを定義します。

- デバイスの起動が完了するまでそのパートを無限にループさせるには、0 に設定してください。
- そのパートを 1 回だけ再生するには、1 に設定してください。

次の数値は遅延時間 (ms) を定義します。たとえば、10 に設定されている場合、すべての画像ファイルの再生が完了した後にシステムは 10 ms 遅延します。

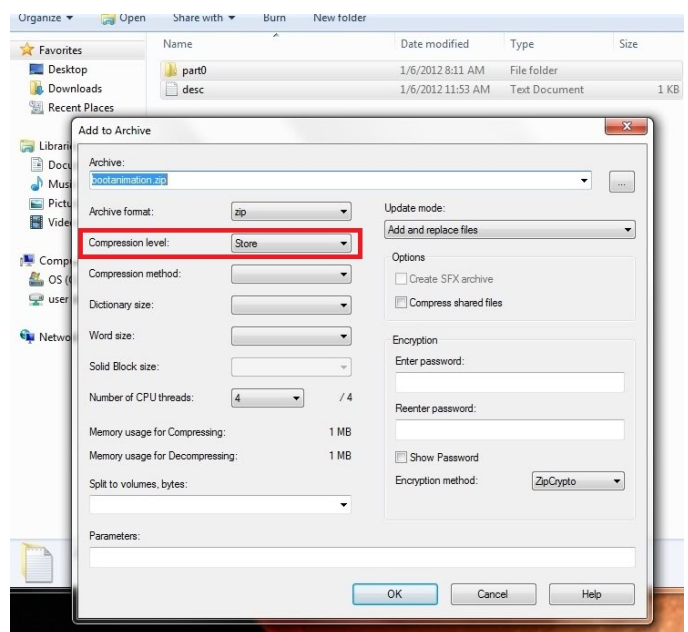
Part0 および Part1 は、イメージフォルダの名前です。

上記の例のように、ブートアニメーションは、画素数 1920 x 1080 の解像度、フレームレート 30 fps で、「part0」フォルダのコンテンツから再生されます。1 つのループでコンテンツを再生した後、「part1」フォルダのコンテンツに切り替わり、デバイスが起動するまで継続的に再生されます。

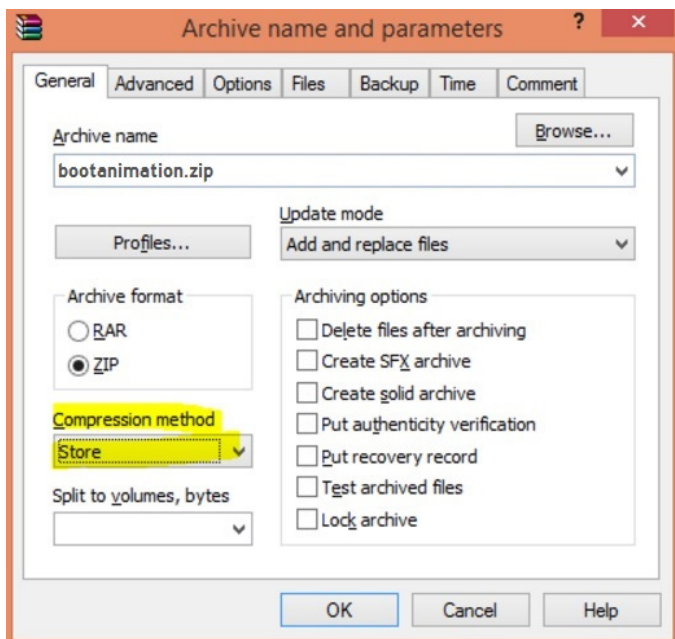
3. Zip ファイル:

Bootanimation フォルダ内のすべて (イメージフォルダおよび desc.txt を含む) を選択し、7zip や WinRAR などの任意の圧縮ユーティリティを使用して、新しい非圧縮 Zip アーカイブを作成してください。

7zip を使用する場合、圧縮レベルを「Store (保存)」に設定します。



WinRARを使用する場合、「Compression method(圧縮レベル)」を「Store(保存)」に設定します。



そうしないと、bootanimation は動作しません。

4. カスタムのブートアニメーションの適用

手順:

- (1) カスタムのブートアニメーションの zip ファイルを外部の USB に配置し、ストレージデバイスを Phillips PD プラットフォームに接続します。
- (2) 「Logo(ロゴ)」オプションが有効になっていることを確認します。RCU でホームキーを押します。OSD メニュー > 詳細設定 2 > ロゴ > 「オン」に設定します。
- (3) RCU で「ホーム +1888」組み合わせキーを押して「Admin mode(管理者モード)」に移動します。
設定 > サイネージディスプレイ > 一般設定 > ブートロゴ
- (4) システムは、外部 USB の bootanimation.zip を自動検索し、/data/local にコピーします。
- (5) ステップ 1 ~ 4 まで完了したら、システムを再起動します。起動時に、新しいカスタムのブートアニメーションが表示されるはずですが。

6.2.3. Android アプリのインストール方法

Android アプリをインストールする方法は 3 つあります。

(a) 管理者モード内のファイルマネージャー経由

1. すでに APK がある場合
 - 1.1 APK を USB ディスクにコピーし、ストレージデバイスを Philips Android サイネージディスプレイに接続します。
 - 1.2 「Admin Mode(管理者モード)」> 「Apps(アプリ)」> 「File Manager(ファイルマネージャー)」に移動します。
 - 1.3 ファイルマネージャーで、インストールする APK を検索します。選択した APK で、「OK」を押します。
2. Chromium ブラウザで APK をダウンロードし、ファイルマネージャーで < 内部ストレージのパス > /Download/ に移動します。
 - 2.1 次の手順は上記と同様です。ただし、モデルによって < 内部ストレージのパス > が異なる場合があります。

(b) Adb Shell を使用する

1. Adb を使って、PC を Philips Android サイネージディスプレイに接続できるか確認してください。

2. PC のフォルダ(例: C:\apkfolder)に APK を準備します。
3. コマンドラインツールを使用して、以下のコマンドを実行します。

```
C:\apkfolder> adb install -r apk_name.apk
```

(c) カスタマイズされたインテントで実行

1. Android アプリをダウンロードできる APK を開発すると、APK がカスタムインテントを発行できるようになります。
2. APK の名前とパスを保存しておく、システムがプログラムによるインストールをサポートできるようになります。

説明	インテント	パラメーター	
ソフトウェアアップデート	php.intent.action.UPDATE_APK	filePath	ファイル名を含めた絶対ファイルパス。ファイルのアクセス権が「664」以上であることを確認してください。
		keep	更新後のファイルの維持の有無を示します。デフォルト値は「False」です。
		packageName	アップデート後に自動的に起動するターゲットパッケージ。
		activityName	アップデート後に自動的に起動するターゲットアクティビティ。現時点で一番上にあるアクティビティが activityName でない場合は、何も起きません。

例えば、

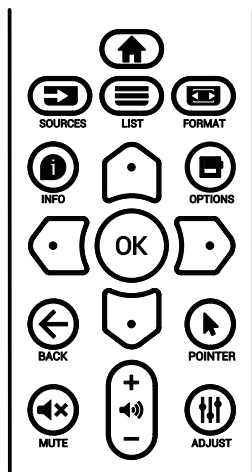
```
Intent intent = new Intent();
intent.setAction("php.intent.action.UPDATE_APK");
intent.putExtra("filePath", "/Download/sample.apk");
intent.putExtra("keep", true);
intent.putExtra("packageName", "com.tpv.example");
intent.putExtra("activityName", "com.tpv.example.MainActivity");
intent.putExtra("isAllowDowngrade", true); // ダウングレードを許可
sendBroadcast(intent);
```

7. OSD メニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

7.1. OSD メニューをナビゲートする

7.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする



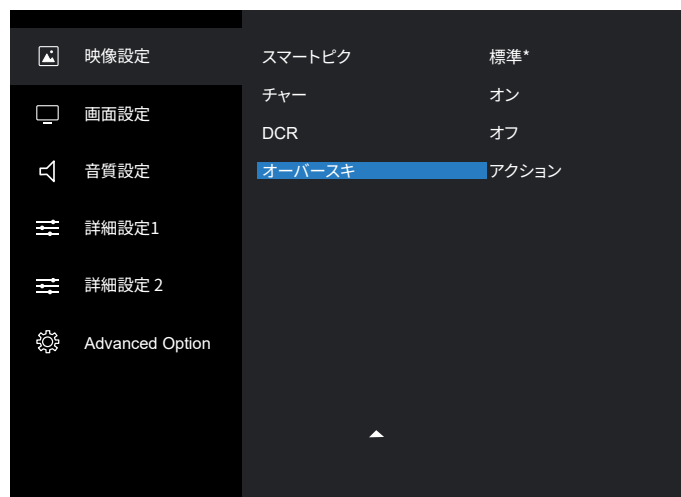
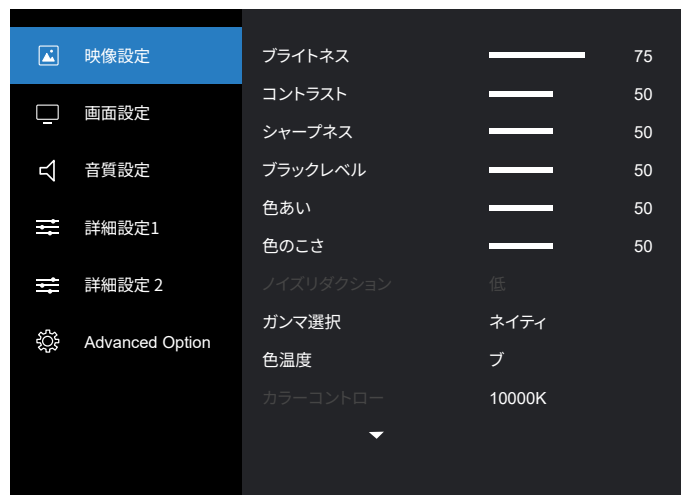
1. リモコンの [HOME] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [HOME] ボタンまたは [INFO] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [OK] または [LIST] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニューでは、[HOME] ボタンまたは [INFO] ボタンを押して項目間を切り替え、[HOME] または [LIST] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合は、[OK] または [LIST] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [BACK] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[HOME] ボタンを押して OSD メニューを終了します。

7.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする

1. [MENU] ボタンを押して OSD メニューを表示します。
2. [+] ボタンまたは [-] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [+] ボタンを押してサブメニューに入ります。
4. サブメニューでは、[▲] または [▼] ボタンを押して項目を切り替え、[+] または [-] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合は、[+] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [MENU] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[MENU] ボタンを長押しして OSD メニューを終了します。

7.2. OSD メニューの概要

7.2.1. 画面メニュー



ブライトネス

本ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

コントラスト

入力信号に対する画像のコントラスト比を調整します。

注記: 動画ソースのみ

シャープネス

予約済み。

ブラックレベル

背景の画像の明るさを調整します。

注記: 動画ソースのみ。sRGB 画像モードは標準であり、変更できません。

色あい(色相)

画面の色あいを調整します。

+ ボタンを押すと肌色が緑っぽくなります。

- ボタンを押すと肌色が赤紫っぽくなります。

注記: 動画ソースのみ

色(彩度)

画面の色を調整します。

+ ボタンを押して、色深度を増やします。

- ボタンを押して、色深度を下げます。

注記:動画ソースのみ

ノイズリダクション

映像ノイズを低減します。適切なノイズリダクションレベルを選択できます。

オプションは次の通りです:{オフ}/{低}/{中}/{高}。

ガンマ選択

ディスプレイガンマを選択します。信号入力の輝度性能曲線を指します。{ネイティブ}/{2.2}/{2.4}/{S gamma}/{D-image}から選択します。

注記:動画ソースのみ。sRGB 画像モードは標準であり、変更できません。

色温度

色温度を調整します。

色温度が下がると画像は赤みを帯び、色温度が上がると青みを帯びます。

注記:動画ソースのみ

カラーコントロール

カラーバーを使用して赤、緑、青のカラーレベルを調整できます。

R:赤ゲイン、G:緑ゲイン、B:青ゲイン。

スマートピクチャー

以下のスマートピクチャー モードが利用可能です:{Standard} / {高輝度} / {Warm}。

DCR

ダイナミックコントラスト比

- {ON}: DCR を有効
- {OFF}: DCR を無効

オーバースキャン

オーバースキャンの問題が発生した場合は、画像の表示領域を変更してください。

- {オン}: 画像全体の 95%を表示します。
- {オフ}: 画像全体の 100%を表示します。

注記:動画ソースのみ

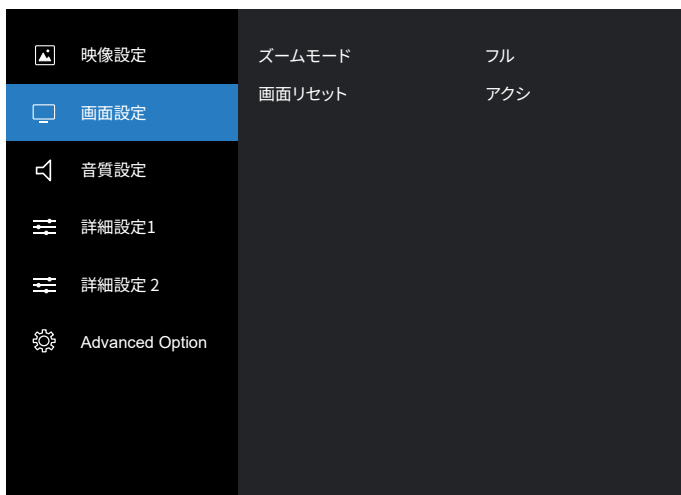
映像リセット

映像設定メニュー内のすべての設定をリセットします。

工場出荷時の設定にリセット

「キャンセル」ボタンを押してキャンセルし、前のメニューに戻ります。

7.2.2. 画面メニュー



ズームモード

動画入力用に以下のいずれかを選択します。{フル} / {4:3} / {1:1} / {16:9} / {21:9}。

	<p>フル</p> <p>このモードでは、全画面表示を使用して、16:9 で送信された映像を正しいアスペクト比に戻します。</p>
	<p>4:3</p> <p>この映像は 4:3 フォーマットで再現され、映像の両側に黒帯が表示されます。</p>
	<p>1:1</p> <p>このモードでは、オリジナルの画像サイズを変更せずに、画素単位で画面に画像を表示します。</p>
	<p>16:9</p> <p>この映像は 16:9 フォーマットで再現され、上下には黒い部分が表示されます。</p>
	<p>21:9</p> <p>この映像は 21:9 フォーマットで再現され、上下に黒帯が表示されます。</p>

画面リセット

画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.3. オーディオメニュー

映像設定	バランス	50
画面設定	高音	50
音質設定	低音	50
音質設定	音量	50
音質設定	最大音量	100
音質設定	最小音量	0
詳細設定1	消音	オフ
詳細設定2	スピーカー	オン
Advanced Option	音質リセット	アクション

バランス

左右のオーディオ出力バランスを強調するように調整してください。

注記:スピーカー出力のバランスのみ調整可能です。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音量を調整します。

最大音量

最大音量の制限を調整します。

最小音量

最小音量の制限を調整してください。

消音

ミュート機能のオン/オフを切り替えます。

スピーカー

内蔵スピーカーをオン / オフにします。

注:この機能は、{Sync. Volume} がオンの場合にのみ使用可能です。

音質リセット

オーディオメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.4. 設定1メニュー

映像設定	スイッチオン状態	最後のステータス
画面設定	Panel saving	一タス
音質設定	RS232ルーティング	アクション
詳細設定1	ソース起動	RS232
詳細設定2	WOL	アクション
Advanced Option	ライトセンサー	オフ
	人感センサー	オフ
	電源LED照明	オフ
	詳細設定リセット	オン
	オールリセット	アクション

スイッチオン状態

次回電源コードを接続するときに適用されるディスプレイの状態を選択します。

- {電源オフ}-電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- {強制オン}-電源コードを接続すると、ディスプレイはオンになります。
- {最後のステータス}-電源コードを接続すると、ディスプレイは直前の電源ステータス(オン/オフ/スタンバイモード)に戻ります。

Panel saving

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効にしてください。

- {ブライツネス}-{オン}を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに低下します。この設定が有効になっている場合、映像設定メニュー内のブライツネス設定は変更できません。
- {ピクセルシフト}-画像サイズをわずかに拡大し、画素の位置を上下左右の4方向にずらすための時間間隔({自動},{10~900}秒,{オフ})を設定します。ピクセルシフトを有効にすると、画面設定メニューの水平位置、垂直位置およびズームモードが無効になります。

注記:動画ソースのみ

RS232 ルーティング

RS232 ルーティングパスを選択してください。

- {RS232}-RS232 は 2.5mm フォンジャックからルーティングされます

- {LAN->RS232}-RS232 は RJ45 からルーティングされます。

ソース起動

起動時のソースを選択します。

- {入力}-起動時に使用する入力ソースを選択します。
- {再生一覧}-メディアプレーヤー、ブラウザーに対する再生一覧のインデックスを選択します。0 は、再生一覧がないことを示します。

WOL(ウェイクオン LAN)

ネットワークメッセージによってディスプレイをオンにできるようにします。

注:この機能はパワーセーブモード1でのみ有効です。

ライトセンサー

光センサー機能のオンまたはオフを選択します。

人感センサー

人感センサー機能のオンまたはオフを選択してください。

電源 LED ライト

電源表示 LED のオンまたはオフの設定を選択します。

通常使用の場合は、{オン}を選択してください。

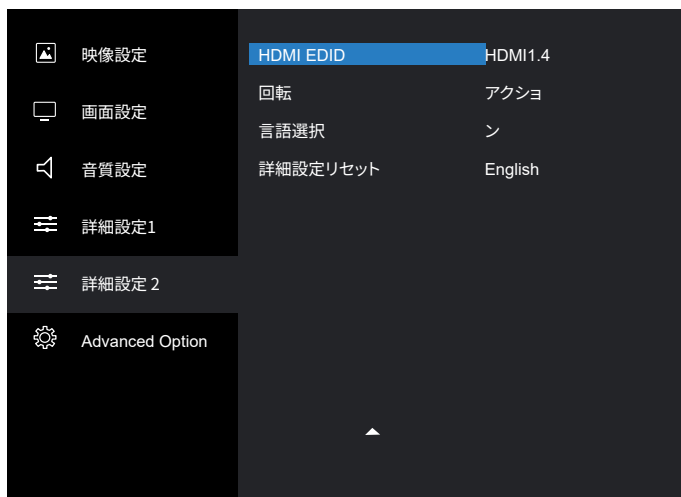
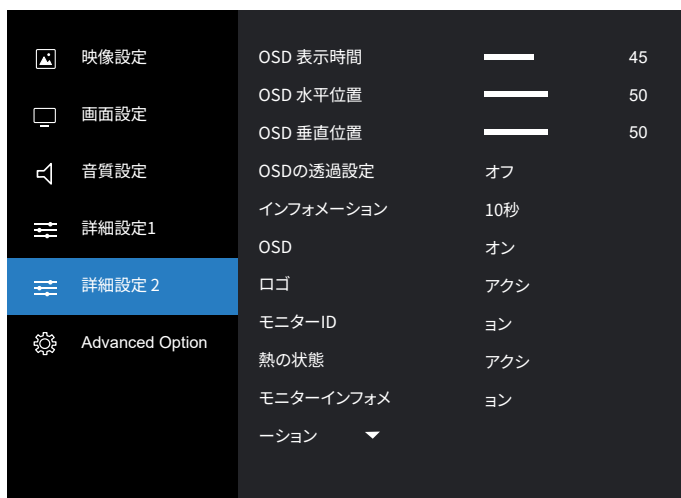
詳細設定リセット

設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

「Factory Reset(工場出荷時の設定にリセット)」を使用して、すべてのユーザーデータおよび設定を消去します。完了後、システムは自動的に再起動し、OOBE にジャンプします。

画像、画面、オーディオ、構成、アドバンスドオプションのカスタマイズされた設定をすべて工場出荷時のデフォルト値にリセットします。

7.2.5. 設定2メニュー



OSD 表示時間

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューが画面に表示される時間を設定します。

オプションは次の通りです:{5 ~ 120} 秒。

OSD 水平位置

OSD メニューの水平位置を調整します。

OSD 垂直位置

OSD メニューの垂直位置を調整します。

OSD の透明度

OSD の透明度を調整します。

- {オフ}- 透明度オフ。
- 20/40/60/80/100。

インフォメーション OSD

インフォメーション OSD が画面に表示される時間を設定します。オプションは {オフ、1 ~ 60} 秒です。

ロゴ

ディスプレイをオンにしたときにロゴの画像を有効または無効にすることを選択します。

オプション:

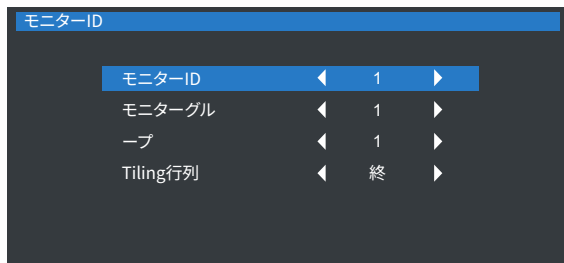
- {オフ}
- {オン}
- {ユーザー}

注記: {ユーザー} に設定すると、回転機能はユーザーロゴに使用できません。

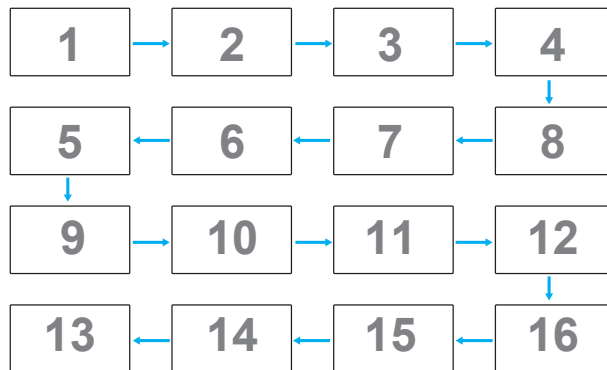
モニター ID

RS232C 接続経路で本製品を制御するための ID 番号を設定します。本製品を複数台接続する場合は、各ディスプレイに一意の ID を割り当ててください。モニター ID の番号範囲は 1 ~ 255 です。

オプションは、{モニターグループ} / {Tiling マトリックス} / {自動 ID} です。



- {モニターグループ} オプションは {1 ~ 255} です。デフォルト設定は 1 です。
- {Tiling マトリックス} Tiling マトリックスの番号範囲は 1 ~ 15 です。デフォルト設定は 1 です。{自動 ID} 設定機能により、{Tiling マトリックス} 設定に従って接続されたマシンの {モニター ID} を設定できます。例:Tiling マトリックスを 4 に設定します。



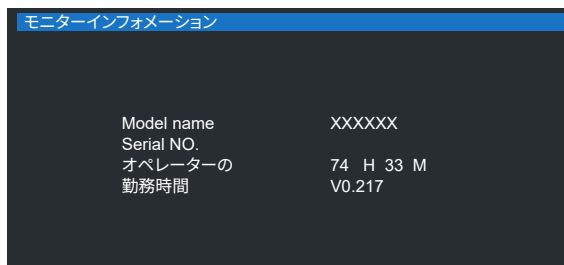
- {自動 ID} オプションは {開始} / {終了} です。デフォルト設定は {終了} です。
 - 開始 } に切り替えると、マシンの ID が現在の ID から逆方向に設定されます。
 - 設定が完了すると、オプションは自動的に {終了} に戻ります。
 - この機能を使用するには、すべてのマシンを RS-232 ケーブルで直列接続し、制御ポートも RS-232 に設定してください。

熱の状態

本機能を使用すると、ディスプレイの熱状態をいつでも確認できます。

モニターインフォメーション

モデル番号、シリアル番号、動作時間、ソフトウェアバージョンなど、ディスプレイに関する情報を表示します。



DisplayPort バージョン

オプションは {DP 1.1} / {DP 1.2} です。デフォルト設定は {DP 1.1} です。

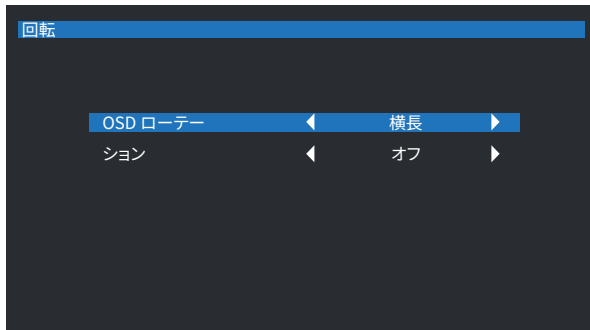
HDMI EDID

オプションは {HDMI 1.2} / {HDMI 1.4} / {HDMI 2.0} です。デフォルト設定は {HDMI 1.4} です。

注記: HDMI 2.0 オプションは、HDMI 2.0 対応機器をサポートするためのものです。

回転

メイン / サブ / OSD の回転を設定します。



- OSD ローテーション: 横長 / 縦長、デフォルト: 横長
OSD ローテーション: { オフ }, { オン } (値がオンの場合、OSD が回転します)
90°、オフにすると元に戻ります。
- 画像回転: オフ / オン、デフォルト: オフ
画像回転: { オフ }, { オン } (値がオンの場合、Android ソースが 90°回転し、オフにすると元に戻ります)

注記: 画像回転機能は Android ソースでのみサポートされています。

言語選択

OSD メニューで使用する言語を選択します。

オプションは次のとおりです: English / Deutsch / 简体中文 / Français / Italiano / Español / Русс к и й / Polski / Türkçe / 繁體中文 / 日本語 / Português / فيبرعلا / デンマーク語 / Svenska / Suomi / Norsk / Nederlands

詳細設定リセット

設定2のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.2.6. Advanced Option メニュー

映像設定	リモコンモード	アクション
画面設定	キーボード制御	オン
音質設定	Tiling	アクション
詳細設定1	オフタイマー	オン
詳細設定2	日付/時刻設定	アクション
	スケジュール	オン
	Android自動再起動	オフ
	HDMI with One Wire	アクション
	HDMI with One Wire 電源オフ	オン
	オートサーチ	アクション
		オン

リモコンモード

RS232 接続によって複数のディスプレイが接続されている場合、リモート制御の操作モードを選択します。

- { ノーマル } - すべてのディスプレイは、リモコンで正常に動作させることができます。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの INFO ボタンを 6 秒間長押ししてください。
- { プライマリ } - このディスプレイを、リモコン操作の 1 次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。(プライマリモードでは、IR キーがモニター ID / グループ設定に関係なく常に処理されます)。
- { セカンダリ } - このディスプレイを 2 次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232 接続を通して 1 次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。

キーボード制御

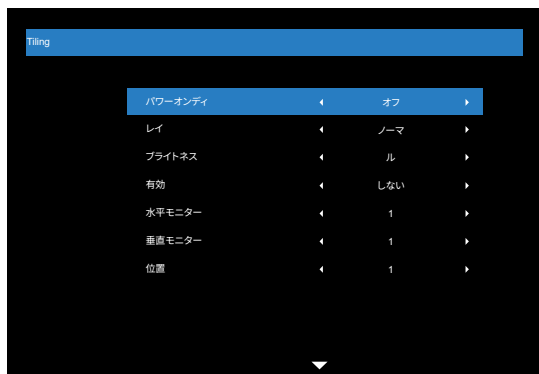
ディスプレイのキーボード(操作ボタン)機能を有効または無効にするかを選択してください。

- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - キーボード機能を無効にします。

注記: 「キーボードコントロールロックモード」この機能は、すべてのキーボード制御機能へのアクセスを完全に無効にします。キーボードコントロールロックの有効/無効を切り替えるには、[VOL+] ボタンと [UP] ボタンを 3 秒以上同時に押し続けてください。

Tiling

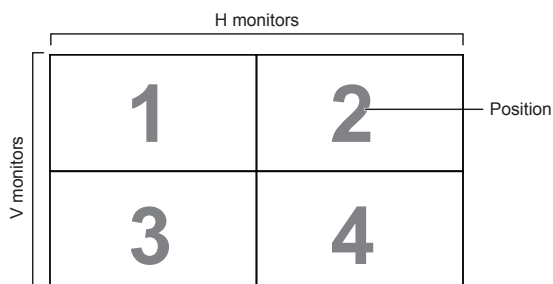
この機能を使うと、最大 225 台のディスプレイ (縦に最大 15 台、横に最大 15 台) からなるひとつの大型スクリーン配列 (ビデオウォール) で作成することができます。この機能にはデジチーチェーン接続が必要です。



- パワーオンディレイ**
 電源投入遅延時間(秒)を設定します。複数台のディスプレイが接続されている場合、デフォルトのオプション { 自動 } を使用すると、ID 番号に従って各ディスプレイが順次電源オンされます。オプションは: { オフ (0) / 自動 (1) / 2 ~ 255 } です
- ブライツネス: { ノーマル } / { ACS }**
 { ノーマル }: 画像全体および背景画面の輝度(バックライト)を調整します。
 { ACS }: 自動校正システム。調整前のデフォルト値は、OSD ブライツネス値と同じです(例えば、70)。
- 有効**
 タイル機能を有効または無効にします。{ オン } に設定した場合、本ディスプレイは { 水平モニター }、{ 垂直モニター }、{ 位置 }、および { フレーム補正 } の設定を適用します。
- 水平側のディスプレイ数を設定します。**
- 垂直モニター**
 垂直側のディスプレイ数を設定します。
- 位置**
 画面マトリックスにおける本ディスプレイの位置を設定します。

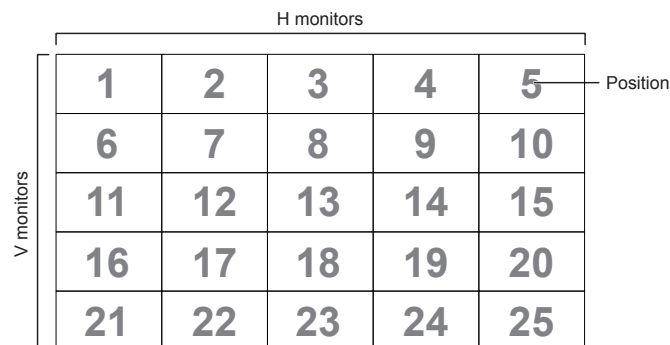
例: 2 x 2 の画面マトリックス (ディスプレイ 4 台)

水平モニター = 2 ディスプレイ
 垂直モニター = 2 ディスプレイ



例: 5 x 5 の画面マトリックス (ディスプレイ 25 台)

水平モニター = 5 ディスプレイ
 垂直モニター = 5 ディスプレイ



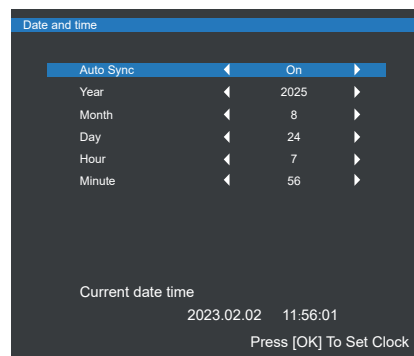
- フレーム補正**
 フレーム補正機能をオンまたはオフにします。{ オン } を選択した場合、画像を正確に表示するためにディスプレイは画像を調整し、ディスプレイのベゼル幅を補正します。
- フレームコンボ上**
 上フレーム補正を調整します。
- フレームコンボ下**
 下フレーム補正を調整します。
- フレームコンボ左**
 左フレーム補正を調整します。
- フレームコンボ右**
 右フレーム補正を調整します。

オフタイマー

電源の自動オフ時間を設定します(時間単位)。

日付 / 時刻設定

ディスプレイの内部時計の日付 / 時刻を調整してください。



- { 自動同期 } - ディスプレイの時計を NTP サーバーと自動同期します。

スケジュール

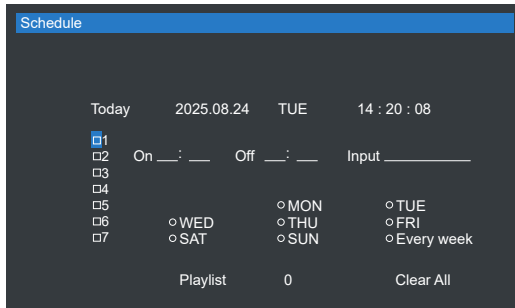
この機能により、最大 7 つの異なるスケジュールされた時間間隔で本製品をアクティブにするプログラムができるようになります。

以下の選択が可能です:

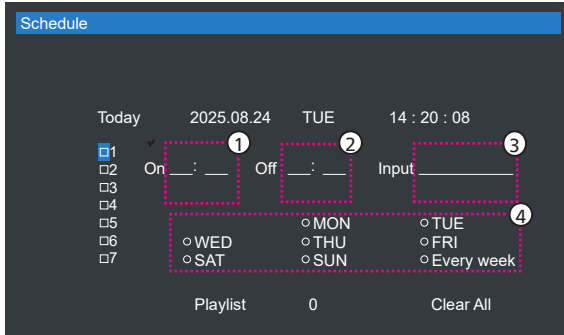
- ディスプレイの電源がオンおよびオフになる時刻です。
- ディスプレイがアクティブになる曜日です。
- 各スケジュールされたアクティベーション期間中にディスプレイが使用する入力ソースです。

注記: この機能を使用する前に、{ 日付 / 時刻設定 } メニューで現在の日付と時刻を設定することをおすすめします。

- [OK] または [D] ボタンを押して、サブメニューに入ります。



2. [△] または [▽] ボタンを押してスケジュール項目(項目番号1～7)を選択し、[OK] ボタンを押して項目番号にマークを付けます。



3. スケジュールを選択するには、[△] または [▽] ボタンを押してください:

- ① 電源オンスケジュール: [△] または [▽] ボタンを押して調整すると、指定した時間にディスプレイがオンになります。
- ② 電源オフスケジュール: [△] または [▽] ボタンを押して調整すると、指定した時間にディスプレイがオフになります。

電源オンまたは電源オフのスケジュール機能を使用しない場合は、時間と分のオプションを空のままにしてください。

- ③ 入力ソース選択: [△] または [▽] ボタンを押して入力ソースを選択します。入力ソースが選択されない場合、前回と同じ入力ソースのままになります。
- ④ 日付スケジュール: このスケジュール項目が何曜日に有効になるか選択するには、[▽] ボタンを押し、次に [OK] ボタンを押します。
- ⑤ 入力ソースをメディアプレーヤー、ブラウザーまたは PDF プレーヤーに設定すると、再生一覧の設定にアクセスできます。

4. 追加のスケジュール設定を行うには、[←] を押し、上記の手順を繰り返します。スケジュール項目の番号の横にあるボックス内にチェックマークが表示されている場合、そのスケジュールが有効であることを示します。

注記:

- スケジュールが重なった場合、スケジュールされた電源 ON 時間がスケジュールされた電源 OFF 時間よりも優先されます。
- 同一時刻に 2 つのスケジュール項目が設定されている場合、番号が大きい方のスケジュールが優先されます。たとえば、スケジュール項目 #1 および #2 の両方が午前 7 時 00 分に電源オン、午後 5 時 00 分に電源オフとなるように設定されている場合、スケジュール項目 #2 のみが有効になります。

安卓自動再起動

Android を毎日再起動する特定の時刻を設定します。

- {Auto Restart(自動再起動)} - オプションは次の通りです: {オフ} / {オン}
- {オフ}: 自動再起動は無効です。

{オン}: 自動再起動は有効です。

- {時間}: Android を再起動する時刻を設定します。
- {分}: Android を再起動する分を設定します。

HDMI with One Wire

HDMI CEC を有効または無効にします。

HDMI with One Wire Power off

「HDMI with One Wire」がオンの場合にのみ使用可能です。

- {オフ} - システムスタンバイが無効になります。
 - {オン} - システムスタンバイが有効になります。(デフォルト)
- サポート

- システムスタンバイが有効な場合、PD は CEC スタンバイコマンド 0x36 によりスタンバイモードに切り替わります。

オートサーチ

オプション

{オフ}, {すべて}, {フェールオーバー}

{オフ}: 自動信号検出を無効化します

{すべて}: Displayport → HDMI1 → HDMI2 → USB TYPE-C → メディアプレーヤー → ブラウザー → PDF プレーヤー → カスタム → Screen Share

* メディアプレーヤー、ブラウザーは再生一覧インデックス 1 のみを試行します

{フェールオーバー}:

フェールオーバー 1: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 2: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 3: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 4: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 5: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 6: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 7: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 8: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 9: HDMI1 (デフォルト)

フェールオーバー 10: HDMI1 (デフォルト)

* すべてのモジュールが 10 個すべてのフェールオーバーリストを備えているわけではなく、モジュールの入力ソースの総数によって異なります。

パワーセーブモード

パワーセーブモード

モード 1: [TCP オフ, WOL オン, 自動オフ] (デフォルト)

DC オフ → 電源オフ。LED: 赤。

パワーセーブ → 電源オフ。LED: 赤。

モード 2: [TCP オフ, WOL オン, 自動オン/オフ]

DC オフ → 電源オフ。LED: 赤。

パワーセーブ → 省電力。

LED: オレンジ。ウェイクアップ可能です。

モード 3: [TCP オン, WOL オフ, 自動オン/オフ]

DC オフ → バックライトオフ。LED: 赤。

パワーセーブ → バックライトオフ。LED: オレンジ。ウェイクアップ可能です。

モード 4: [TCP オン, WOL オフ, 自動オン/オフなし]

DC オフ → バックライトオフ。LED: 赤。

パワーセーブ → パワーセーブモードに入りません。「無信号」のみを表示します。

モード 3 DC オフ: バックライトオフのみ パワーセーブ: バックライトオフのみ	モード 1(デフォルト) DC オフ: 電源オフ パワーセーブ: 電源オフ
モード 4 DC オフ: バックライトオフのみ パワーセーブ: 信号なし(バックライトオン)	モード 2 DC オフ: 電源オフ パワーセーブ: 省電力

DC オフ/オン:リモコンの電源ボタンを押してください

スカラー FW 更新

USB によりスカラーファームウェアを更新します。

注:USB 2.0 フラッシュディスクのみ対応しています。

USB クローン作成

1 台の PD 設定を別の装置にコピーします。

インポート:別の装置から設定をインポートします。

エクスポート:設定を別の装置にエクスポートします。

Advanced option reset

アドバンスドオプションメニューの { 日時 } 以外のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7.3. Android 設定

「Android 設定」を開く

1. 「Android 設定」→「システムツール」で管理者パスワードが有効になっている場合は、Android 設定にアクセスする前にパスワードを入力してください。

デフォルトのパスワードは「1234」です。

8. 対応するメディア形式

USB マルチメディアのコーデック形式

ビデオデコード						
タイプ	ビデオ コーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	備考
MPEG1/2	MPEG1/2	MPEG プログラムストリーム (.DAT、.VOB、.MPG、.MPEG) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	√			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
MPEG-4	MPEG4	MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	√			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.263	H.263	FLV (.flv) AVI (.avi)	√			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.264	H.264	FLV (.flv) MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) ASF (.asf) WMV (.wmv) AVI (.avi) MKV (.mkv)	√			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:135Mbps 4K2K@30fps
H.265	H.265	MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MKV (.mkv)	√			最大解像度:4K2K@60fps 最大ビットレート:100Mbps
GOOGLE VP8	VP8	MKV (.mkv) WebM (.webm)	√			最大解像度:1080P@30fps 最大ビットレート:20Mbps
Motion JPEG	Motion JPEG	AVI (.avi) MP4 (.mp4) MKV (.mkv)	√			最大解像度:1920 × 1080 @30fps 最大ビットレート:40Mbps

オーディオデコード

タイプ	オーディオ コーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	備考
MPEG オーディオ	MPEG1/2/2.5 Audio Layer1/2/3	MP3	√		2	ビットレート:8Kbps ~ 320Kbps サンプリングレート:16KHz ~ 48KHz
Windows Media Audio	WMA バージョン 7、8、9、10 Pro M0、10 Pro M1、M10 Pro M2	デコード:WMA	√		2	ビットレート:8Kbps ~ 768Kbps サンプリングレート:8KHz ~ 96KHz (M10) LBR 非対応
AAC オーディオ	AAC-LC および AAC-HE 用の MAIN、ADIF、ADTS ヘッダー	ファイル形式:AAC、M4A	√		5.1	ビットレート:該当なし サンプリングレート:8KHz ~ 48KHz

画像デコード

タイプ	画像コーデック	写真	デコード	エンコード	チャンネル	備考
JPEG	JFIF ファイル形式 1.02	ファイル形式:JPG、JPEG	√			最大解像度:7000×7000 最大解像度の制限は DRAM に依存します。
BMP	BMP	ファイル形式:BMP	√			最大解像度:15360×8640 最大解像度の制限は DRAM に依存します。
PNG	PNG	ファイル形式:PNG	√			最大解像度:15360×8640 最大解像度の制限は DRAM に依存します。

注記:

- コンテンツが上記のテーブルに記された対応フレーム / 秒以上の標準ビットレート / フレーム率である場合、音声や動画が作動しない可能性があります。
- コンテンツが上記のテーブルに記述された比率以上のビットレートやフレーム率である場合、再生すると途切れがちな映像になる可能性があります。

9. 入力モード

項目	モード	解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)
1	MACINTOSH	640 × 480	35	66.67
2	VESA	640 × 480	37.861	72.809
3	VESA	640 × 480	37.5	75
4	VESA	800x600	35.156	56.25
5	VESA	800x600	37.879	60.317
6	VESA	800x600	48.077	72.188
7	VESA	800x600	46.875	75.000
8	MACINTOSH	832x624	49.726	74.551
9	VESA Standard AddDMT	848x480	31	60.000
10	-	960x720	56.4	75.000
11	VESA	1024x768	48.363	60.004
12	VESA	1024x768	56.476	70.069
13		1152x864	53.986	59.985
14	VESA	1152x864	53.783	59.959
15		1152x864	63.851	70.012
16	VESA	1152x864	67.5	75.000
17	日曜日 WS	1152x900	61.846	66.004
18	-	1280x720	44.772	60.000
19	-	1280x720	52.5	70.000
20	CVT 2.3MA	1280 × 768	47.776	59.870
21	CVT 2.3MA	1280 × 768	60.289	74.893
22	CVT	1280x800	49.7	59.810
23	CVT	1280x800	62.8	74.930
24	VESA	1280x960	60	60.000
25	VESA	1280x1024	63.981	60.020
26	日曜日 WS	1280x1024	71.691	67.189
27	VESA	1280x1024	79.976	75.025
28	VESA Standard AddDMT	1360x768	47.712	60.015
29	VESA Standard AddDMT	1366x768	47.712	59.790
30	VESA リデュースドブランキン グモード	1440 × 900	55.469	59.901
31	VESA	1440 × 900	55.935	59.887
32	VESA	1440 × 900	70.635	74.984
33	CVT リデュースドブランキン グ	1400 × 1050	64.744	59.948
34	CVT AddDMT	1440x1050	65.3	60.000
35	CVT	1400 × 1050	82.278	74.867
36	CVT Red. Blanking	1600x900	55.54	60.000
37	VESA	1600x1200	75	60
38	CVT1.76MW	1680x1050	65.29	59.954
39	CVT1.76MW-R	1680x1050	64.674	59.883
40	CVT 2.3MA-R	1920x1080	66.587	59.934
41	VESA Standard VDMTREV	1920x1080	67.5	60.000
42	CVT1960H	1920x1080	67.1584	59.963
43	VSC1960H	1920x1080	67.08	60
44	CVT 2.3MA-R	1920x1200	74.038	59.950

4K2K

項目	解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)
1	3840x2160	53.946	23.900
2	3840x2160	54	24.000
3	3840x2160	56.25	25.000
4	3840x2160	67.432	29.900
5	3840x2160	67.5	30.000
6	4096x2160	54	24.000
7	3840x2160	135	60.000

ビデオタイミング対応(HDMI)

項目	モード	解像度	コメント
1	60Hz	480i	
2		480p	
3		720p	
4		1080i	
5		1080p	
6		4Kx2K	
7	50Hz	576i	
8		576p	
9		720p	
10		1080i	
11		1080p	
12		4Kx2K	

注: DisplayPort は 3840x2160@30Hz をサポートします。

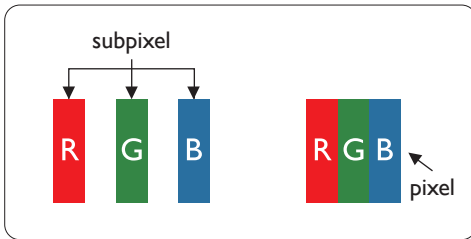
- PC のテキスト品質は、UHD 4K/2K モード(3840 × 2160、60Hz)で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー（および Windows の特定のバージョン）により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz(垂直)と 31.5kHz(水平)を選択します。場合によって、PC の電源がオフの場合（または PC が接続されていない場合）に異常な信号（筋など）が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「入力」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 本ディスプレイの設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。
- 解像度 3840x2160@50/60Hz を使用する場合は、HDMI 認定ケーブル(プレミアムハイスピード HDMI ケーブル)を必ず使用してください。

10. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用される PDP/TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

10.1. 画素とサブ画素



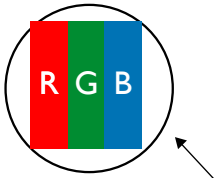
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の 3 つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいと、3 つの色の付いたサブ画素が 1 つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3 つの色の付いたサブ画素は 1 つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の 1 つの画素として表示されます。

10.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には 3 つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類のサブ画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？：

1 つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は 1 つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは 1、2 または 3 つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1 つのドット = 赤、緑、青の 3 つのサブ画素で構成される 1 つの画素。

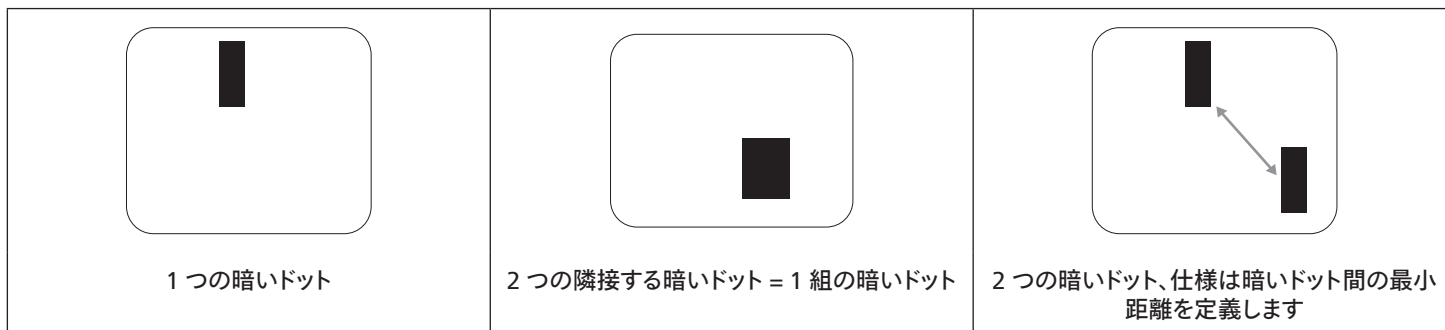
10.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

<p>1 つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。</p>	<p>2 つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)</p>	<p>3 つの隣接する点灯サブ画素 (1 つの白い画素)</p>

10.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します。



10.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はととも目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください。

- 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1組の暗いドット)
- 暗いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの総数

10.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ /LCD ディスプレイの PDP/TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注記:* 1つまたは2つの隣接するサブ画素欠陥 = 1つのドット欠陥

10.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の均一でないパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり 1日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからずっとつきまとっています。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

Mura を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します。

- 結晶マトリックスの混入物または異物
- 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- バックライトの付近位置な輝度分布
- パネル部品誘発ストレス
- LCD セル内部の傷
- 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

Mura を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます。

- バックライトの明るさを下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 装置周囲の空気温度を下げる

11. 清掃とトラブルシューティング

11.1. 清掃

本ディスプレイを使用する際の注意

- 手や顔、物を本ディスプレイの通気口に近づけないでください。本ディスプレイの上部は、通気口から放出される高温の排気のため、通常は高温となっています。身体の一部を近づけすぎると、火傷や怪我をすることがあります。本ディスプレイの上部近くになんらかの物を置くと、この物およびディスプレイ自体に熱関連の損傷が起こることがあります。
- 本ディスプレイを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いてください。ケーブルが接続されたままディスプレイを移動させると、ケーブルが損傷し、その結果、火事や感電の恐れがあります。
- あらゆる種類の清掃や保守作業を行う前に、安全対策として電源プラグをコンセントから抜いてください。

前面パネル清掃手順

- 本ディスプレイの前面には特別な処理が施されています。表面は布巾または柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いてください。
- 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、布を強く絞り、余分な水分を除きます。本ディスプレイの表面を拭き、埃を除いてください。その後、同じ種類の乾いた布で拭いてください。
- 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- キャビネットがひどく汚れている場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい、糸くずの出ない布を浸します。布を絞り、できるだけ水分を除きます。キャビネットを拭き取ります。表面が乾くまで、別の乾いた布で拭きます。
- プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。このような製品はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- 本ディスプレイの表面には、水や洗剤が触れないようにしてください。水や水分が本ディスプレイ内部に入り込むと、動作上の問題、電氣的障害、および感電事故が起こる恐れがあります。
- 爪やあらゆる種類の堅い物でキャビネットを引っ掻いたり、ぶつけたりしないでください。
- キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないでください。
- 長期間ゴムまたはポリ塩化ビニル製の物をキャビネット近くに置かないでください。

マシンを清掃する:

- 使用中にガラス面に汚れを見つけた場合は、濡れたペーパータオル(水が垂れないように)で一度拭いてから、乾いたタオル(乾いたペーパータオル)で拭いてください。

11.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
画像が表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源コードが抜けています。 2. 本ディスプレイの背面にある主電源スイッチが ON になっていません。 3. 選択された入力が接続されていません。 4. ディスプレイがスタンバイモードになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチが ON であることを確認します。 3. 本ディスプレイに信号接続を接続します。
本製品で表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲の電子機器や蛍光灯が原因です。	干渉が少なくなるような別の場所に本ディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていません。	本ディスプレイの背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
画像が異常なパターンで歪んでいる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 入力信号が本ディスプレイの能力を超えています。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本ディスプレイの範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本ディスプレイの仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ズームモードが正しく設定されていません。 2. スキャンモードが間違っていてアンダースキャンに設定されています。 3. 画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。 	画面メニューのズームモード機能を使用して、ディスプレイのジオメトリと周波数パラメータを微調整します。
音声は聞こえるが、画像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
画像は表示されるが、音声が聞こえない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されています。 3. { 消音 } がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [+] または [-] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [] ボタンを使って消音をオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調整します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	ディスプレイは精密な技術で製造されていますが、液晶パネルに画素欠陥が存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例:ロゴ、ビデオゲーム、コンピュータ画像、4:3のノーマルモードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像が時間より長く表示されていました。	長期間静止画像を表示しないようにしてください。本ディスプレイ上に永続的な残像が残る原因となるためです。

12. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様
画面サイズ(アクティブ領域)	163.9 cm/64.5 インチ
縦横比	16:9
画素数	3840(水平) x 2160(垂直)
画素ピッチ	0.372 (横) x 0.372 (縦) [mm]
表示可能色	8ビット +FRC、10億7千万色
ブライトネス(標準)	600 cd/m ²
コントラスト比(標準)	1200:1
表示角度	178 度

入 / 出力端子:

項目	仕様
スピーカー出力	内部スピーカー 10W (左) + 10W (右) [RMS]/8 Ω 82dB/W/M/160Hz ~ 13KHz
音声出力	3.5mm フォンジャック x 1 0.5V[rms](標準)/2 チャンネル (左 + 右)
RS232	2.5mm フォンジャック x 2 RS232 入力 / RS232 出力
RJ-45	RJ-45 ジャック x 1 (8 ピン) 10/100/1000 LAN ポート
HDMI 入力	HDMI ジャック x 2 (タイプ A) (19 ピン) デジタル RGB:TMDS (ビデオ + 音声) 最大: 動画 - 720p、1080p、3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 kHz/2 チャンネル(左+右) LPCM のみサポート
HDMI 出力	HDMI ジャック x 1 (タイプ A) (19 ピン) デジタル RGB:TMDS (ビデオ + 音声) 最大: ビデオ - 720p、1080p、3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 kHz/2 チャンネル(左+右) LPCM のみサポート
IR 入力	3.5 mm フォンジャック x 1 IR パススルー接続
USB 入力	USB 3.0 タイプ A x 2 USB 3.0、マルチメディア再生およびサービスポート
DisplayPort 入力	DisplayPort ジャック x 1 (20 ピン) デジタル RGB:TMDS (ビデオ + 音声) 最大: ビデオ - 720p、1080p、2160p 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (L+R) LPCM のみサポート
USB3.1 C	タイプ C 4.5 W
拡張スロット	USB 3.0 x 1 CRD32 用にリザーブ
OTG	マイクロ USB サービスおよび ADB のデータ伝送に対応

一般:

項目	仕様
電源入力	100 ~ 240V~, 50/60Hz
消費電力 (最大)	210 W
消費電力 (標準)	150 W
消費電力(スタンバイモード & オフモード)	<0.5 W
AC スイッチオフモード (W)	0 W
Wi-Fi + Bluetooth 機能	CRD32:Wi-Fi 6 および Bluetooth V5.2 をサポート
寸法(スタンドなし)[幅 x 高さ x 奥行]	1462.3 × 837.3 × 93.4 mm(奥行(ハンドル時)) / 68.9 mm(奥行(壁取り付け時))
重量(スタンドなし)	28.80 kg
総重量(スタンドなし)	35.50 kg

環境条件:

項目	仕様	
温度	操作時	0 ~ 40° C
	保管時	-20 ~ 60° C
湿度	操作時	20 ~ 80%RH(結露なし)
	保管時	5 ~ 95% RH(結露なし)
高度	操作時	0 ~ 5,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ~ 9,000 m



2026 © TOP Victory Investments Ltd. 無断複製および転載を禁じます。

本製品は、Top Victory Investments Ltd.によって製造され、その責任の下で販売されており、Top Victory Investments Ltd.が本製品に関する保証人です。PhilipsおよびPhilipsShield Emblemは、Koninklijke Philips N.V.の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。
バージョン: V1.00 2026-04-15